

町田市・法政大学共同研究

町田市における地域コミュニティの
未来に関する共同研究
2024 年度 中間報告書

2025 年 3 月

目次

1.	はじめに	5
2.	研究の枠組み	6
(1)	本研究の背景と目的	6
(2)	町田市と法政大学との共同研究	6
(3)	研究組織	6
(4)	研究の手法	7
(5)	研究の経過	7
3.	2024 年度調査研究によって得られた主な暫定的結論	8
(1)	暮らしやすい郊外都市町田の成熟	8
(2)	懸念される地域力低下の兆候	8
(3)	地域力低下の兆候の要因となっている客観的な構造変化	8
(4)	町田市民の優れた市民性と地域コミュニティ再生への手がかかり	8
(5)	新しい地域コミュニティの活動スタイルと制度設計	9
(6)	行政、専門機関に求められるもの	9
4.	町田市の地域コミュニティの概要	10
(1)	現代社会における地域コミュニティの基本的機能	10
(2)	町田市の地域コミュニティの概要	11
(a)	郊外部の住みやすい都市	11
(b)	10 地区	11
(3)	その他のコミュニティ・エリア	13

(a)	福祉系の地区割り	13
(b)	青少年健全育成地区委員会と学校	13
(c)	防災と消防団、自主防災組織	14
(d)	住みよい街づくり条例のもとでの地区まちづくり組織	14
(e)	町田市のコミュニティ・エリア小括	14
(4)	テーマ型の市民活動や地域のボランティア団体	14
(5)	行政と専門機関	15
5.	調査研究によって明らかになった町田市の地域コミュニティの特徴・現状・課題	16
(1)	都市町田の成熟と人口の定着	16
(a)	居住年数の長い人が増えている	16
(b)	「地域」に愛着を持つ人が増えている	17
(c)	住み続けたい人が増えている	17
(2)	地域のつながりと地域力の現状	18
(a)	親睦的な地域のつながり	18
(b)	「地域」イメージの希薄化	19
(c)	地域で生活課題を解決しようとする志向の低下	19
(d)	町内会・自治会への加入の減少とともに、活動参加意向の低下	20
(e)	分譲マンションの管理組合の自治的活動意向の低下	21
(3)	地域力低下の客観的構造的要因と今後の対応	22
(a)	地域でボランティア活動に十分な力を割ける人が減っている	22
(b)	地域活動に求められる専門性が高まって、取り組みにややハードルが生じている	23
6.	町田市の地域コミュニティに関する政策的考慮	24
(1)	助け合い意識の存在とマッチングの仕組みづくり	24
(2)	地域活動の専門性、事業性への対応	25
(a)	日本都市センター調査から	25
(b)	地域活動の有償・無償	27
(3)	地域活動の輪を広げるために	28
(a)	参加しやすい条件	28
(b)	活動に参加したくない人々の意見	31
(c)	地域活動の内容について ～若い世代に響く活動～	33
(d)	活動内容に関する補足的考察	36
(4)	町田における地域組織、行政、専門機関のあり方	38
(a)	「地区」レベルの地域組織のあり方	38
(b)	青少年健全育成地区委員会	38

(c) 地区協議会	38
(d) 地区民児協	39
(e) 行政、専門機関のあり方	40
7. 2025 年度の調査研究の展望	41
(1) 住民や地域の属性をより多面的に考慮に入れた考察	41
(2) 「地域」に関するイメージと政策的なコミュニティ・エリアの設定	42
(3) 地域の力を発掘し結びつけていく支援のあり方の解明	43
<資料編>	45
<資料 1> 研究組織	47
<資料 2> 質的調査一覧	48
<資料 3>2024 年度市民アンケート単純集計結果	51

1. はじめに

本報告書は、2024 年度から 2025 年度にかけて行われている町田市と法政大学との「町田市における地域コミュニティの未来に関する共同研究」の中間報告である。

2023 年度の秋頃から、町田市役所より、地域コミュニティに関する政策的な諸問題について、研究的な立場から抜本的な調査研究をしてほしいとのお話をいただき、ぜひ取り組んでみたいと思った。これまで横浜市を中心に、全国各地のコミュニティ政策の様子を様々な機会に観察してきたけれども、一つの自治体に焦点を当ててその地域コミュニティとコミュニティ政策とを思う存分深く研究するという経験は必ずしもなかった。そうした研究の機会を与えられたことを深く感謝している次第である。

実際、研究のパートナーである町田市役所の各部署はもちろん、町田市社会福祉協議会や町田市地域活動サポートオフィスをはじめ、様々な専門機関も、全面的に協力してくださった。また、とりわけ町田市民の方々には、町内会・自治会をはじめとする様々な地域活動団体、市民活動団体のインタビュー調査に対応していただいたほか、20 ページにも及ぶ大部なアンケート調査に 3500 人近くの市民にご回答いただいた。

これらの町田市民、町田市役所、町田市の専門機関の方々に、心より感謝申し上げるとともに、2025 年度も継続されるこの研究において、さらに深い知見を獲得できるように全力を上げることをお約束したい。

この中間報告書では、これまでにインタビュー調査等の質的調査と 9 月に実施したアンケートによる大量観察調査とを素材に、分析・考察して得られたさしあたりの知見を、簡潔にまとめている。

アンケート調査については、巻末の資料編で、単純集計の結果を掲載しているが、自由記述欄の分析や突っ込んだクロス集計等はまだ試行的に行うにとどまっており、2025 年度に本格的に報告することとしたい。また単純集計についても、データの整理を完遂できていないところがあり、やや不整合があるが、まさに中間的な報告として大まかな傾向はつかんでいただけたと思う。

我々研究チームにとっても、この中間報告書は、2025 年度の研究作業と最終的な取りまとめのための有意義な一里塚となった。

2025 年度も、町田市の地域コミュニティの発展のため、さらに工夫を重ねて研究を深めたい。この報告書をご覧になってご助言、ご提案、ご疑問など持たれた方は、ぜひお考えをお聞かせいただきたい。

2025 年 3 月 研究代表者 法政大学法学部教授 名和田是彦

2. 研究の枠組み

(1) 本研究の背景と目的

近年、町田市に限らずほとんどの都市自治体で、地域のつながりの希薄化と地域力の低下が大きな問題となっており、自治体政策の大きな課題となっている。町田市でも、町内会・自治会の加入率の継続的な低下が見られ、またこれと関連して、民生委員児童委員や消防団の充足率が低下している。これからの少子高齢社会の中で市と地域コミュニティとの協働がますます重要になるとすれば、こうした地域社会の変化は町田市の自治体政策にとっても無視し得ない社会動向である。

これに対処するためには、これまで市役所と各地域に蓄積されている実践知はもちろん、さらに学術的な調査研究に基づいた客観的なエビデンスをも活用した、政策の基本的方向の確立が必要であると考えられる。本研究の中心的な使命もそこにある。

したがって本研究の基本的な内容は、町田市の地域コミュニティの現状を把握した上で、町田市のコミュニティ政策の基本となるいくつかの事項について、考えられる方向性（場合によってはそのいくつかの可能な方向性）を示すことであり、やや具体的に言えば、町田市の地域社会において「地域のつながりの希薄化」とか「地域力の低下」とか言われることが実態としてはどのような現れ方をしているのか、そしてそうした実態に対して町内会・自治会やそのほかの地域活動はどのように取り組んでいるか、またどのように取り組めば効果が見込まれるか、市内の地域コミュニティの政策的なエリア設定はどのようにあるべきか、などの論点が、本研究の大きな問題関心である。

(2) 町田市と法政大学との共同研究

本研究は、町田市が法政大学に研究資金を提供し、法政大学法学部の名和田是彦（法学部政治学科教授）を「研究代表者」として、町田市と法政大学との「共同研究」として、2024年度と2025年度との2か年にわたって実施している。

(3) 研究組織

研究代表者名和田のもとに研究事務局を置き、また有限会社大久手計画工房（代表：伊藤雅春（明星大学常勤教授））に業務委託をし、さらに有識者による「研究委員会」を設置して年に数回助言をいただきつつ、町田市役所（とりわけ市民協働推進課及び福祉総務課）と定期的に協議を行って、研究を進めている。また、町田市社会福祉協議会及び町田市地域活動サポートオフィスには、単にインタビュー調査対象というだけではなく、本研究に様々な助言や協力をいただいている。研究組織については、巻末資料1もご覧いただきたい。

(4) 研究の手法

インタビュー等の質的な調査とアンケートによる量的調査とを組み合わせるいわゆる混合調査法を採用した。

また、2006 年度に町田市役所は地方自治研究機構と共同して地域コミュニティの調査研究を行って、報告書を出しており、これとの比較により、この 20 年ほどの変化に注目した。

青森市、一関市、横浜市、東京都大田区などの他都市の様子も調査し、町田市の地域コミュニティとその政策的な仕組みの特徴をつかむように心がけた。

(5) 研究の経過

2024 年度のアンケート調査は、夏に準備をして、町田市民から 1 万人を無作為抽出して 8 月に調査票を送付し、9 月中の回答をお願いした。2024 年度はさしあたり主として単純集計の結果を報告する（巻末資料 3）が、さらに深掘りした分析を 2025 年度も継続して行う。上述のように、同様のアンケート調査は、2006 年度にも、町田市と地方自治研究機構とが共同して行っており（これを以下においては「2006 年度調査」という）、残念ながら元データは失われているが、報告書は残っており、その中で、調査票とともに、各設問・選択肢について母数（n）とともに回答割合のパーセンテージが付記されている。我々は、調査票の設計にあたって、なるべくこの 2006 年度調査の結果と比較できるようにした。本中間報告でアンケート調査の解析をするにあたって、2006 年度調査結果との比較も行っており、これだけでも相当なことが導き出される。

アンケート調査と並行して、2024 年 5 月以降継続して、町田市の地域コミュニティにおいて重要な役割を果たしている諸団体やキーパーソンの方々にご協力いただき、インタビューや会議傍聴を行っている。

町田市役所の各部署には、それぞれの課で所管している地域コミュニティを対象とした施策についてご説明をいただき、またインタビューに際して諸団体やキーパーソンへの仲介をしていただいた。町田市社会福祉協議会や町田市地域活動サポートオフィスなどの専門機関にも、インタビューに応じていただくほか、調査活動に様々なご協力をいただいている。

現在は、インタビュー調査やアンケート調査の分析を継続しつつ、2025 年度に向けて市民活動団体調査を、町田市地域活動サポートオフィスと共同して準備しているところである。

3. 2024 年度調査研究によって得られた主な暫定的結論

本報告書で述べている 2024 年度調査研究の結果をまず簡潔に示す。

(1) 暮らしやすい郊外都市町田の成熟

- 人口増減がほぼ横ばいになり、居住年数の長い人が増え、地域に愛着を持つ人が増え、定住意向も高まっている。

(2) 懸念される地域力低下の兆候

- 町内会・自治会に加入している世帯に暮らす人が 6 割程度にまで減少し、町内会活動に参加しない人も増えた。また、そのほかの地域活動にも参加したくない人が増えた。分譲マンションでは、管理組合の活動が低調になった。
- また、地域で生じている問題に関する合意形成を町内会・自治会等により図るよりは行政主導で図りたいとする意向が増えた。

(3) 地域力低下の兆候の要因となっている客観的な構造変化

- リタイアして何の仕事もしていない人、専業主婦、自営業者といった、地域でボランティアで活動できる人の層が、薄くなっている。
- 近年地域社会に求められている活動（防災と地域福祉、あるいは地域交通、空き地・空き家問題など）は一定の専門人材を必要とする点で、地域活動団体に取り組むハードルが上がっていると考えられる。

(4) 町田市民の優れた市民性と地域コミュニティ再生への手がかかり

- それにもかかわらずインタビュー調査では、活発で質の高い地域活動が多く見られた。また、アンケート調査でも、困りごとに関して、地域で頼みたいことと頼まれたらできることの関係では、専門性の高い事柄を除くと、頼まれたらできるとの回答が頼みたいとの回答を上回っており、適切なマッチングの仕組みがあれば、地域での助け合いの仕組みが構築できる。
- 今は地域活動に参加していない人も、様々な地域課題に関心を持っており、活動の曜日や時間帯などの条件が整えば、活動に参加できる可能性がある。
- 居場所づくり、地域交通・移動支援、空き地・空き家問題といった比較的新しい分野でニーズが高まっており、これに取り組むことによって、地域コミュニティへの関心が高まることが期待される。

(5) 新しい地域コミュニティの活動スタイルと制度設計

- 市民が期待する地域活動分野のうち、現時点では十分に取組みられていない分野があり、これは伸びしろといえる。地域コミュニティがこうした分野に取り組むことにより、町内会・自治会をはじめ地域コミュニティ組織への信頼が増していくだろう。
- 地域活動が無償であるべきだとする人が減り、相応の報酬が支払われるべきだという意識が増えた。インタビュー調査等でも、こうした声が聞かれ、また一部実際に行われている。地域活動の中で責任ある役割に有償性原理を導入することにより安定した地域活動が期待できる。
- 町田市のコミュニティ・エリアの設定は柔軟であり、活動分野や担い手の状況によって、適切なエリア設定をすることにより、活気あるコミュニティ組織が形成できる。
- 地域のネットワークが形成されやすい組織運営のスタイル、IT の活用などにより、コミュニティ組織の活性化が期待でき、また一部すでに実践されている。
- 年齢層によって事情や感じ方が異なる場合があり、取り組みにあたって配慮や工夫が必要である。

(6) 行政、専門機関に求められるもの

- 行政や専門機関は、地域コミュニティへのアウトリーチやコーディネートの機能を強化していくことが求められる。
- とりわけ各分野で配置が進んでいるコーディネーターの働きに期待したい。
- 町田市は、他都市に比べて活動拠点として機能しうる公共施設が比較的少なく、財政事情からして新設等もままならないことから、工夫が望まれる。

4. 町田市の地域コミュニティの概要

(1) 現代社会における地域コミュニティの基本的機能

まず、町田市に限らず、日本の地域コミュニティ一般に関して述べる。

本報告書では、現代日本社会で地域コミュニティが果たしている、あるいは果たすべき機能は、次の3つだと考えている。

第一は、「親睦」の機能であり、近隣社会において人々が安心して暮らせる雰囲気形成する機能である。いわゆるソーシャル・キャピタル（社会関係資本）の基盤となる機能であり、住民相互が互いに尊重し合い信頼し合う状態を作り出す機能である。具体的には、相互に挨拶をするなどの日常的な何気ない行動にはじまり、お祭りのような組織的な行動にまで至ることも多い。近年よく「地域のつながりが希薄化している」などと言われるのは、まずもってこの親睦の機能が低下しているという趣旨であろう。

第二は、公共サービス提供機能である。「公共サービス」とは、個々人の力では到底実現できないが、人々が生きていくためには不可欠の共通的サービスのことであり、多くの場合排除性がない（タダ乗りが可能である）ために、市場メカニズムによっては提供されず、政府（国や自治体）の役割とされる。社会保障制度や医療制度、道路などのインフラの整備などである。しかし、日本では、ヨーロッパの高福祉高負担国家とは異なって、こうした公共サービスの組織・提供は、政府（国と自治体）に一元化されてはおらず、民間側の、とりわけ地域コミュニティの機能によって補完されてはじめて、一社会で必要とされる公共サービスの量と質が確保されている。

第三は、市政参加の機能である。とりわけ日本の自治体は、明治以来何度かの大規模な合併を経て、かなり大規模化しており、全市一本の仕組みだけでは、地域の様々な特色を踏まえた対応が不十分になりがちである。町田市も、町田、堺、鶴川、忠生、南の5か町村の合併によって成立したのであり、さらにこれら5か町村もそれぞれそれ以前の合併によってできた経緯がある。その結果町田市は今や人口40万人超の大都市となっている。こうした大都市の市政を民意に即したものにしていくためには、市議会を通じた市民の民意の反映や市民個人々々による陳情等を通じた民意の反映だけではなく、一定のまとまりある生活圏（つまり地域コミュニティ）ごとの意向をも反映した市政でなければならない。このため、諸外国でも、合併によって相当な規模に達した都市自治体に関しては、あらためてそれを合併前の地域を目途に区分して住民代表組織を置く仕組み（都市内分権制度）が行われている。町田市も、市域を10地区に区分してそこに地区協議会が設置されている。そしてその基礎には、連合及び単位の町内会・自治会をはじめとする多様な住民組織があり、地域コミュニティを形成しているのである。

(2) 町田市の地域コミュニティの概要

(a) 郊外部の住みやすい都市

本調査研究を進める中で研究組織が得ている第一印象は、町田市の地域コミュニティは、雰囲気は落ち着いており、活動は活発で、暮らしやすい社会を作る上で大きな役割を果たしている、というものであった。もちろんそこには、様々な課題があり、現在の日本社会に共通する、少子高齢化や地域における担い手不足などの問題も見られるのであり、それについては、本報告書でも以下において説明していくが、町田市は基本的には東京の郊外部にある住みやすい都市である。

(b) 10 地区

町田市の市域は、政策上基本的に 10 の「地区」に分かたれており、これが町田市の基本的な地域コミュニティとなっている。

この 10 地区は、連合町内会・自治会のエリアであり、地区協議会の組織エリアでもある。町田市役所が様々な政策を発想するときの基本になっているエリア区分であり、各地区には市民センター（出張所機能が併設されている）またはコミュニティセンターという基本的な公共施設が設置されている。合併の経緯と町内会・自治会との関係については、次ページの表を参照されたい。この表に言う「明治の村」とは、1889 年（明治 22 年）に市制町村制が施行されるのを機縁に行われたいわゆる「明治の大合併」によって成立した自治体のことである。

町田市の合併と地域社会（町田市 HP、町田市町内会自治会連合会 HP 及び町田市役所からの情報提供により作成。）			
明治の大合併前の村	明治の村	現在の自治会連合会	現在の町名
原町田村	町田村	町田第一地区連合会	原町田
本町田村		町田第二地区連合会	旭町、中町、藤の台 1・2 丁目、藤の台 3 丁目、本町田、森野
森野村			
南大谷村		玉川学園・南大谷地区連合会	玉川学園、東玉川学園、南大谷
小野路村	鶴川村	鶴川地区連合会	大蔵町、小野路町、金井、金井ヶ丘、金井町、真光寺、真光寺町、鶴川、能ヶ谷、野津田町、広袴、広袴町、三輪町、三輪緑山、薬師台
能ヶ谷村			
金井村			
大蔵村			
野津田村			
真光寺村			
広袴村			
三輪村			
木曽村	忠生村	木曽地区連合会	木曽西、木曽東、木曽町
山崎村		忠生地区連合会	上小山田町、下小山田町、図師町、忠生、常盤町、根岸、根岸町、矢部町、山崎、山崎町、小山田桜台
上小山田村			
下小山田村			
図師村			
根岸村			
鶴間村	南村	南地区連合会	小川、金森、金森東、つくし野、鶴間、成瀬が丘、南つくし野、南町田
小川村		高ヶ坂・成瀬地区連合会	高ヶ坂、成瀬、成瀬台、西成瀬、南成瀬
金森村			
高ヶ坂村			
成瀬村			
相原村	堺村	相原地区連合会	相原町
小山村		小山・小山ヶ丘地区連合会	小山町、小山ヶ丘

(3) その他のコミュニティ・エリア

しかし、町田市の政策的なコミュニティ・エリアの設定は、この 10 地区に一本化されているわけではない。

(a) 福祉系の地区割り

民生委員児童委員の地区レベルの協議会（地区民生委員児童委員協議会。以下「地区民児協」という）は、9 地区で、おおむね、上記 10 地区のうちの相原地区と小山地区を「堺地区」として一つにしている点が差異である。

2022 年度から、国の重層的支援体制整備事業のもとで「地域福祉コーディネーター」が「まちだ福祉〇ごとサポートセンター」に配置され始め、2025 年 4 月には 5 つ目の拠点が開所し、旧 5 か町村に 1 か所ずつのエリアマネジメントを展開している。また、当センターでは民生委員と協力して困難を抱える人を支援することが多く、各エリア内では地区民児協と地区ごとに連携できる体制をとっている。

ただし、「高齢者支援センター」（介護保険法でいう「地域包括支援センター」）は、12 ヶ所（そのブランチ的存在である「あんしん相談室」を入れると 24 ヶ所）である。ここに配属されている「生活支援コーディネーター」は、フットワークよく地域に出向いており、また年に数回行われる「地域ケア会議」には地域の人も参加しており、町田市における重要なコミュニティ・ワークの専門機関である。「10 地区」を基礎としながら、こうした身近なコミュニティ支援の仕組みづくりでは、より身近なコミュニティ・エリアを設定していく点で、町田市の政策的なエリア設定は柔軟性があるといえる。

(b) 青少年健全育成地区委員会と学校

今述べた高齢者支援センター・あんしん相談室の 24 エリアと似て、地域側の活動組織としてかなり以前から「青少年健全育成地区委員会」が 24 地区設立されている（本報告書執筆時点では、一地区活動を休止しているので 23 地区）。

青少年分野の住民組織は、民生委員制度やスポーツ推進委員制度などと違って、国の法律上の根拠があるわけではないが、日本全国ほとどの自治体にも各自自治体の政策的判断で委嘱委員が置かれており、その地区別の協議会組織が存在する。その中でも、東京都内によく見られる「青少年健全育成地区委員会」ないし「青少年対策地区委員会」の仕組みは、小中学校との連携が密である点に大きな強みがあるように思われる。町田市の地区委員会も、地区内の多様な活動者の参加を得て、また学校側の熱心な参画を得て、高い活力を持った地区委員会が多い。

ただ、この「地区」は小中学校の通学区域と合致しているわけではない。今後学校統廃合が進められていく中で、どのようにしていくかが重要な政策課題である。

(c) 防災と消防団、自主防災組織

町田市の防災を地域コミュニティ側で担う中心的な組織は、消防団と自主防災組織である。

町田市の消防団は、5 個分団からなっており、エリアは旧 5 か町村の区分けである。また、2025 年 1 月現在、302 ある自主防災組織は、連合町内会・自治会の単位（すなわち 10 地区）の区分けであり、最近はマンションなどの集合住宅単位での組織も増加している。消防団と町内会は、引き続き防災訓練や団員の募集などで連携して活動している状況がある。

(d) 住みよい街づくり条例のもとでの地区まちづくり組織

地区街づくり課が所管している住みよい街づくり条例のもとでの住民組織は、市域全体を覆うようにくまなく組織されるものではないが、街並みの維持保全や、地域交通や移動支援、空き家活用等の地域活動の支援のための制度であるから、一定のエリアを定めて活動している。

テーマの性質上高い専門性が要求されるが、いくつかの地域では人材を得て活発に活動している。

(e) 町田市のコミュニティ・エリア小括

政策的に設定されたコミュニティ・エリアが複数交錯していることは、それぞれの政策・制度の目的や実情、歴史的経緯などからそれぞれの合理性を持っており、必ずしもマイナスの効果を持つわけではないが、他都市と比較してどのエリア設定も概ね大規模であるのは町田市の特徴と言える。

また、重要なことは、高度成長期以降の人口膨張の中で、町田市が課題に応じ地域の状況に応じて、柔軟にコミュニティ・エリアを見直してきたことである。連合町内会・自治会と地区協議会の基礎になっている「10 地区」からして、5 か町村の合併を基礎としつつも、いくつか分割して実情に合わせつつ現在の 10 地区に至っている。公共施設も、特に行動範囲が広くない児童に配慮して、5 の子どもセンターと子どもセンターを補完する施設として 7 の子どもクラブとを設置していて、合計 12 箇所（小山ヶ丘にある子どもセンター分館を入れると 13 箇所）である。

(4) テーマ型の市民活動や地域のボランティア団体

一定の地域エリアを定めて活動する地縁型の団体とは異なる、いわゆるテーマ型の活動団体、あるいはそこから組織性、事業性、専門性を高めて成長した NPO 法人等の法人たる活動団体、それらを支援する中間支援組織なども、町田市では多彩に存在しており、活発に活動している。こうした団体は、特に活動エリアを

明確に定めていないことが多いが、それでも地域社会に働きかける活動として、地域コミュニティの重要な構成要素である。

町田市では、2001 年度に大規模な市民活動団体・地域活動団体に関するアンケート調査を行っており、報告書や調査データも残っている¹が、この時に対象となった団体は 3600 ほど（3627 団体）あったようであり、その豊富さには驚かされる。

これらの団体に関しては、2024 年度はそれほどの知見を得たわけではないが、2025 年度においては、アンケート調査を含めて本格的な調査を予定している。

2024 年度は、冒険遊び場と子ども食堂に関して、若干のインタビュー調査を行うにとどまったが、町田市民の優れた市民性の片鱗に触れることができた。

(5) 行政と専門機関

4 の (1) で述べたように、現代日本の公共サービス提供システムから言っても、また市政の民主的な運営の観点から言っても、地域コミュニティは不可欠のパートナーであり、町田市のガバナンスにおける不可欠の構成要素であるから、行政組織内の多くの部署が地域コミュニティとの相互関係を持っている。その中でも、市民協働推進課と福祉総務課とは、本共同研究の直接の当事者であるが、それ以外にも、多くの課・係に、インタビューをしたり調査の仲介・同行をしていただいたりして、ともに研究を進めてきた。ここに「町田市の地域コミュニティの概要」を述べることができているのも、そうしたご協力があったことである。

さらに、本共同研究に多大の貢献をしていただいているのが、町田市の中間支援組織であり、とりわけ町田市社会福祉協議会と町田市地域活動サポートオフィスである。

¹ 町田市（2001）『「町田市の市民活動団体に関する調査」報告書』。なお、たまたま名和田は、この調査に関して町田市の政策情報誌に論稿を寄せている：名和田是彦（2006）「協働型都市内分権制度とコミュニティの役割」町田市『まちだ政策研究誌 窓』第 2 号、23 頁～34 頁。

5. 調査研究によって明らかになった町田市の地域コミュニティの特徴・現状・課題

町田市の地域コミュニティの概要を以上のように把握した上で、我々は、一つは 2024 年秋に実施した市民アンケート調査の集計と分析によって、もう一つには 2024 年 5 月以降継続している、地域組織、活動団体、関係機関などへのインタビューや会議傍聴による調査によって、さらにはそれに付帯して他都市の文献資料等の探索と訪問調査によって、町田市の地域コミュニティの特徴、現状、課題を解明するように努めた。

アンケート調査の解析に当たっては、前述の 2006 年度の町田市と地方自治研究機構との共同調査との比較により、単純集計だけでも相当なことが分かるように思われる。

以下は、こうした研究活動から得られた暫定的な結論の簡単なまとめである。この限りでも、町田市役所及び町田市民による政策的考慮の一助となるものと考えられる。

なお、今回のアンケート調査の調査票は、巻末資料 3 に収録しているので、適宜ご参照いただきたい。

(1) 都市町田の成熟と人口の定着

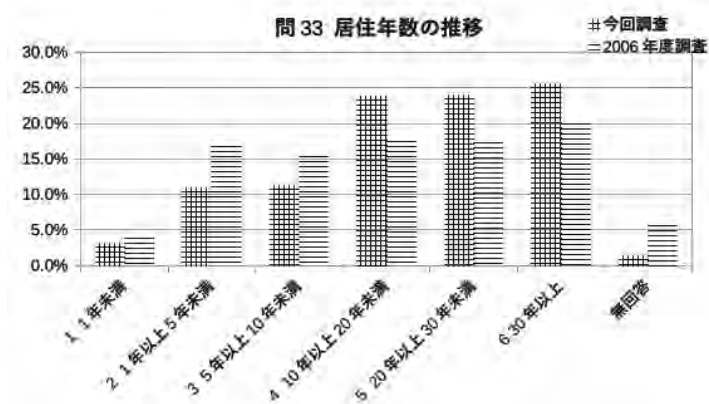
1954 年に町田町と南村が合併し、さらに 1958 年にこの町田町と鶴川村、忠生村、堺村が合併して町田市が誕生した時に、6 万人程度であった人口は、その後増え続け、新しい人口を受け入れるための住宅の新規開発も相次いだ。しかし、今世紀に入って人口増はかなり緩やかになり、落ち着いている。

その結果、地域に愛着を持つ人が増え、定住志向も高まっているようである。

(a) 居住年数の長い人が増えている

右のグラフは、居住年数を回答してもらった設問を、2006 年度調査と今回調査とで比較したものである。

この約 20 年の間に、居住年数 10 年以上の人の割合が増えていることが分かる。



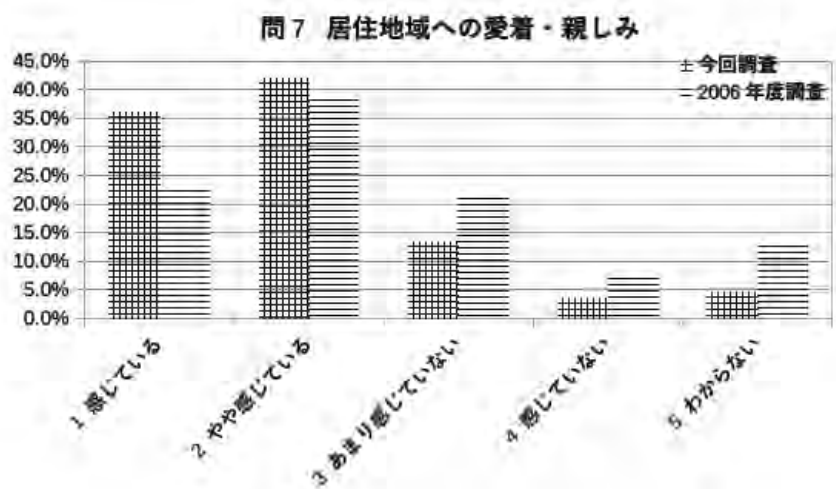
多くの市民が、町田市の居住環境に満足して住み続けていることがうかがわれるであろう。

(b) 「地域」に愛着を持つ人が増えている

実際にも、住んでいる地域に愛着を持つ人が増えている。

右のグラフは、住んでいる地域に愛着を持っているかどうかを聞いた設問の回答を、今回と 2006 年度調査とで比較したものである。積極的な回答が増え、否定的な回答や「わからない」という回答が減っている。

今回の回答には、地区によりまた年齢層により若干の差はあるが、どの区分でも選択肢 1 と 2 の合計は 7 割をはるかに超えていた。



(c) 住み続けたい人が増えている

問 8 は定住意向を尋ねているが、2006 年度調査と選択肢の言い方がやや異なっているとところがあるので、別々に示すと、右の表のとおりである。

それぞれの 3 番目以降の選択肢を回答者がどのように理解したかは微妙であるが、選択肢 1 と 2 を積極的な継続居住意向、選択肢 3 以下を消極的継続居住意向または継続居住否定意向と見れば、積極的居住意向はやや増えていると言える。

今回調査選択肢	割合
1 ぜひ住み続けたい	24.2%
2 できれば住み続けたい	50.1%
3 町田市内の他の地域に住み替えたい	3.0%
4 町田市外に移りたい	5.7%
5 わからない	16.5%

2006 年度調査選択肢	割合
1 ぜひ住み続けたい	25.6%
2 できれば住み続けたい	41.8%
3 機会があれば住み続けたい	26.0%
4 他の地域へ住み替えたい	4.6%

(2) 地域のつながりと地域力の現状

こうした住みやすさ・暮らしやすさを維持していくためには、今後の自治体の財政制約や少子高齢化による公共サービス需要の増大を考えると、さまざまな政策的対応が必要であるが、地域コミュニティの力を高めていくこともその一つである。

しかし、町田市の地域コミュニティがそれに十分対応できるかどうかについては、若干懸念される兆候も見られる。地域のつながりの希薄化とか地域力の低下と言われる全国的な現象が町田市でも見られるようである。

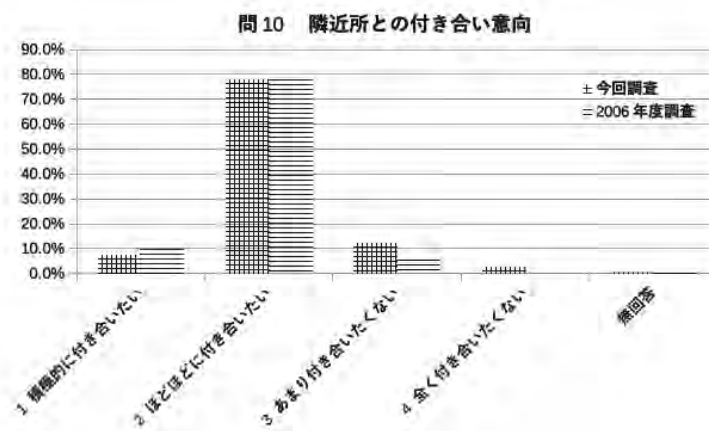
「地域のつながりが希薄化している」と最近よく言われ、実感としてもそのように思われはするものの、やや漠然としていて、具体的にはどのような現象として把握すればいいのか、あまり明確ではない。

ここでは、先に4の(1)で述べた「親睦」に関する地域の雰囲気や狭義の「地域のつながり」ととらえ、より具体的に、「公共サービスの提供活動」や「市政参加」の行動は「地域力」と呼んだほうが分かりやすいと考えた。

(a) 親睦的な地域のつながり

親睦的な地域のつながりについては、ここでは問10を材料に考えてみる。右のグラフが集計結果である。選択肢1と2は付き合いに積極的で、3と4が消極的、といえよう。積極派は減少しており

(グラフでは見にくい)が選択肢2も微減である)、消極派が増えている。



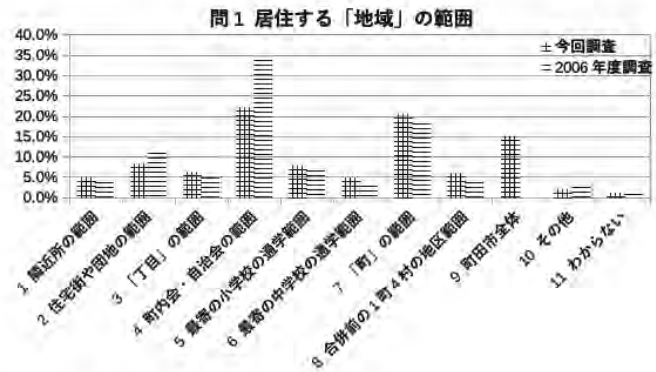
ここではデータは示さないが、町内会・自治会の加入・未加入とクロスすると、積極派は加入者に多く、消極派は未加入者が多い。どちらが原因でどちらが結果かはこれだけでは言えないが、隣近所との付き合いに消極的である人が増えていくと、町内会・自治会の加入率がさらに低下していく可能性があるだろう。

(b) 「地域」イメージの希薄化

もう一つ、問1では、「住んでいる地域」という場合に、「地域」とはどの範囲を考えているかという設問について見てみると、「2 住宅街や団地の範囲」とか「4 町内会・自治会の範囲」といった地域コミュニティと関連づいたイメージの回答が減っており、住所上の「丁目」の範囲

とか「町」の範囲といった回答が若干増えている。また、2006年度調査にはなかった選択肢だが、「町田市全体」という回答がかなりの回答数であったのも注目される。

なお、この中で、小学校区や中学校区といった学校の通学区域を「地域」と感ずる人が一定のボリュームで存在することは、政策上留意すべきであり、本報告書の7でも若干述べているが、さらに2025年度においてより深く分析してみたい。

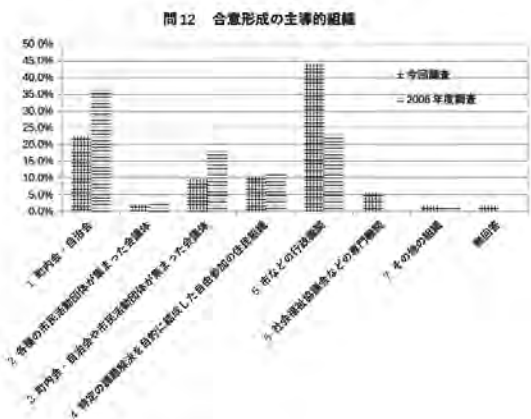


以上のように、地域コミュニティのつながりを意識して暮らしていこうという人が減少しており、このような意味において、「地域のつながりが希薄化している」と言えそうである。

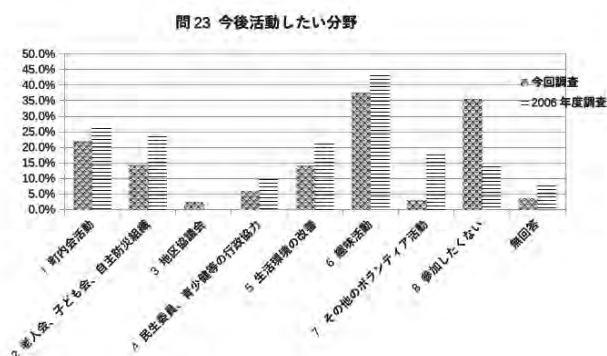
(c) 地域で生活課題を解決しようとする志向の低下

さらに懸念されるのは、こうした「希薄化」とおそらく関連して、生活上の課題を地域コミュニティの力で解決していこうとする意向が低下し、その意味で地域力が低下しているように見える兆候が見られることである。

例えば、問 12 で、「あなたのお住まいの地域で、課題解決のために住民の合意を形成していくには、どのような組織が中心となって取り組むべきだと思いますか。」と問うているのに着目しよう。右のグラフで見ると、2006 年度調査と比べると、合意形成の主導を町内会・自治会に期待する割合と行政に期待する割合とが、まさに逆転している。



また、問 23 で、地域活動への今後の参加意向を尋ねているのに着目すると、2006 年度調査と比べて、町内会・自治会活動だけではなく、どの活動についても軒並み活動意向が減少しており、「どれにも参加したくない」が増えている。



このほか、今回はこれ以上述べない（巻末資料 3 の単純集計結果を参照されたい）が、問 11 で住んでいる地域の課題を尋ね、さらに問 11-1 でその中でも最も関心のある課題を尋ねて、それについて問 11-2 でどのように地域で取り組みが行われているかと尋ねているのだが、ここでも住民が主導的に取り組んでいるとの認識が、2006 年度調査よりも減少し、どんな取り組みが行われているかわからないという回答が増えている。

(d) 町内会・自治会への加入の減少とともに、活動参加意向の低下

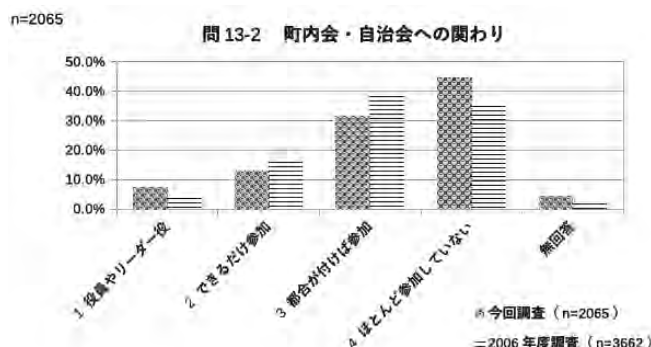
問 13 では、回答者の暮らす世帯が町内会・自治会に加入しているかどうかを尋ねている。周知のように、町内会・自治会の「会員」は世帯であって、個人ではない。「加入率」というのは、加入世帯数を総世帯数で割った値である。

この問 13 でわかるのは、加入率ではなく、いわば町内会・自治会の「人口カバー率」であり、町田市民の何パーセントが町内会・自治会の輪の中で暮らしてい

るかを示す。2006 年度調査では約 8 割であったものが、今回調査では約 6 割にまで低下している。

それだけではなく、右のグラフに見られるように、町内会・自治会の中でも地域活動への参加の低下が見られる。

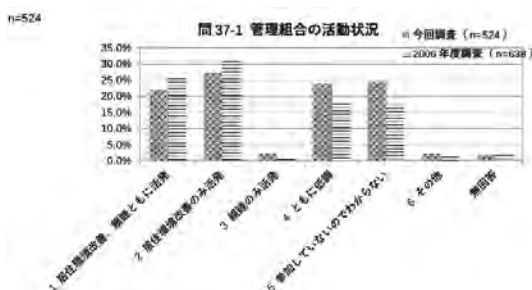
右のグラフは、問 13-2 の集計結果を 2006 年度調査と比較したものであるが、町内会・自治会加入世帯に暮らす回答者に尋ねている。ほとんど参加していない人の割合が増え、活動に参加している人の割合は減少している中で、選択肢 1「組織の役員や活動のリーダー役をできるだけ引き受けて活動している」人の割合だけが増えている。加入者が減る中で、各町内会・自治会で必要な役員やリーダー役のポスト数は減らないからであろう。一部の積極的な活動者への負担が増しているのである。



(e) 分譲マンションの管理組合の自治的活動意向の低下

問 37-1 では、分譲マンションの居住者に、管理組合の自治的な活動の状況について尋ねている。

分譲マンション（区分所有建物）には法律上当然に管理組合という、区分所有者を構成員とする団体があり、地域コミュニティ形成の観点からは、さまざまな問題に自主的に取り組むことが期待されるが、そうした活動に取り組む傾向は 2006 年度調査と比較すると低下しているようである。すなわち、問 37 で回答者の居住形態を尋ねたのに続いて、分譲マンションに住んでいるという 524 人に管理組合による自治的な活動について尋ねたところ、居住環境改善活動においても、親睦的な活動においても、2006 年度と比較して「活発」との回答割合が減り、「低調」との回答と「参加していないからわからない」との回答割合が増えた。



以上のことから、生活課題を地域コミュニティの力で共同して解決しようとする志向が低下してきたと言えそうである。

しかしこのことは、各市民個人のやる気の問題というよりは、そのような意識を持たざるを得ない大きな客観的構造変化の結果ではないだろうか。

(3) 地域力低下の客観的構造的要因と今後の対応

(a) 地域でボランティア活動に十分な力を割ける人が減っている

これらの地域力の低下の兆候は、人々が豊かさに慣れたとか個人主義が蔓延したとかいった主観的な変化ではなく、構造的客観的に地域で活動する基盤が弱体化したことによるのではないかと思われる。そのように考えるべき根拠がいくつか見出された。

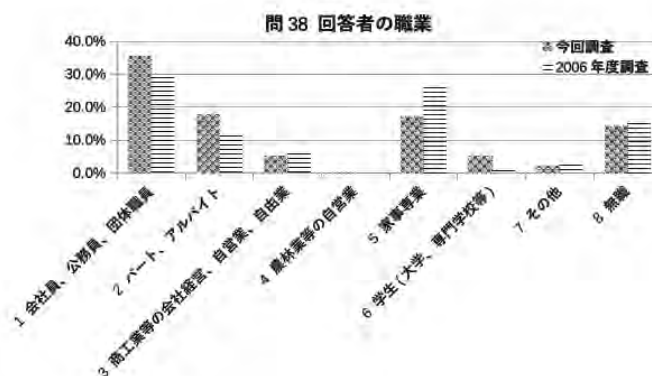
一つは、町内会・自治会の活動をボランティアで支えることのできる社会層が薄くなっていることである。ボランティアの地域活動に十分な力を割ける人といえば、専業主婦、リタイアした高齢者、自営業者の三つであった。しかしこの三つとも細まっていることは明らかである。専業主婦は、女性も大いに職業に就くようになったことによって、リタイアした高齢者は、老後の所得に不安があり、さまざまな形で働き続ける人が多くなったことによって、そして自営業者は、経済のグローバル化の中で減少することによって、それぞれ地域活動に従事できる人が減っている。

実際、本アンケート調査でも、回答者の職業を尋ねた問38の集計（右のグラフ）によれば、この三つの層とも2006年度調査に比して大きく減少していることがわかる。選択肢8の「無職」にはさまざまな人が含まれると思われるが、かなりの部分がリタイアした高齢者と見ていいだろう（実際に年齢別に集計してみ

ると、無職の人の4分の3は65歳以上であった）。2006年度以降高齢化が大いに進んだにもかかわらず、このカテゴリーが減っているのは驚くべきことである。そして、選択肢1と2の賃金労働に従事する人が増えている。

これでは、今までの形では続かないのが道理である。こうした事態が各人の意識にも反映して、地域活動には参加したくないということになるのであろう。

だとすれば、適切な、現状にマッチした活動スタイル、活動内容に変えていけば、地域力は再生できるのではないか。



ではその糸口はどこにあるのか？

それを考える前に、もう一つ、地域活動への取り組みを難しくしている要因について、考えておこう。

(b) 地域活動に求められる専門性が高まって、取り組みにややハードルが生じている

もう一つ、地域活動をやりにくくしている客観的な構造変化として、生活課題が複雑化・高度化した結果、それに対応する活動も専門性が増しており、場合によっては専門的な事業として提供される必要のあるものが増えたという事情がありそうである。

2019 年度に全国市長会とそのシンクタンクである日本都市センターが共同で行った全国都市自治体へのアンケート調査によれば、現在の地域コミュニティに求められる主要な生活課題解決活動は防災と地域福祉であるが、この二つともそれなりに専門性があり、専門人材が必要である。これについては、6 の (2) で紹介しているので、そちらを参照していただきたい。

現状では、地域活動など生活上必要としていないとか、地域活動に参加したくないとかいった意識を持った人であっても、ニーズに応える活動を地域コミュニティが組み立てることができれば、変わってくるのではないか。しかしそのためには、その活動に見合った専門人材や専門知識が必要となっているのである。

6. 町田市の地域コミュニティに関する政策的考慮

以上のように、今までの地域活動のスタイルや行政・専門機関のスタイルを継続する限り、現在「地域力の低下」の兆候として我々の眼前にある懸念すべき事態は克服できそうにない。しかし他方で、町田には優れた地域力の表れと見られるたくさんの地域活動とその活力があるのも事実であり、また、以下に述べるように、アンケート調査においてもそうした地域力の表れと見られるデータも出ている。それが今後も持続可能でかつ発展していけるような政策的対応を考えていくことにより、少子高齢化・人口減少の隘路を克服していける展望が開けるのではないかと。

(1) 助け合い意識の存在とマッチングの仕組みづくり

今回の市民アンケートでは、問4において、地域での助け合いの仕組みづくりの可能性を探るために、いくつかの困りごとについて、地域の人に頼みたいかどうか、頼まれたらできるかどうか、を尋ねている。集計結果は巻末資料を御覧いただきたいが、頼みたい人の人数と頼まれたらできる人の人数との関係を整理すると以下の表のとおりである。

頼みごとと項目	頼みたい人より頼まれたらできる人が
1) 日常の安否確認の声がけ	多い
2) ちょっとした買い物やゴミ出し	多い
3) 食事を作ったり、掃除や洗濯の手伝い	少ない
4) 外出の手助け	少ない
5) 子どもの遊び相手	多い
6) 話し相手や相談相手	多い
7) 災害時避難の手助け	少ない
8) 具合が悪くないときに病院や役所などへの連絡	少ないが拮抗

頼まれたらできる人のほうが少ない項目は、場合によっては公助（例えば介護保険など）によって補うこともできるし、また、こうした「できる・できない」の意識は、固定的なものではなく、地域での取り組みによって変化していくものでもある。

町田市の現在の意識状況は、各地域において適切なマッチングの仕組みを構築していけば、安心して暮らせる地域福祉ネットワークが形成でき、それを通じて地域コミュニティへの信頼も高まると期待できよう。

(2) 地域活動の専門性、事業性への対応

(a) 日本都市センター調査から

今後地域コミュニティに求められると考えられる地域活動分野は、同時にある程度の専門人材を必要としている。先ほどふれたが、全国市長会のシンクタンクである日本都市センターは、全国市長会と共同して2018～19年度の2年間「地域社会を運営するための人材確保と人づくりのあり方に関する研究会」を行い、その一環として全国の都市自治体（市と東京23区）にアンケート調査を行った²。下の表は、日本都市センター（2020）の名和田分担部分に掲載した表（52頁）をやや見やすくしたものである。

この調査は、全国の都市自治体を対象に、自治体の所管部署に回答していただいたものである。したがって、この調査で回答しているのは、市民ではなく、行政の担当者であることに留意されたい。

この表の1列目、2列目に掲げられている地域活動の諸分野それぞれについて、専門人材が必要か、必要だとしてそれは確保されているか、を問うている。ここでは、「不要」の列、つまり、当該活動分野において専門人材は特に必要ないと考えている自治体の割合に注目するとよい。例えば、「地域福祉」では、2つの活動分野があり、「日常の見守り、高齢者のサポート等」は、専門人材は「不要」との回答が35.3%にも達しており、こうした活動は日常生活の中で各市民が隣人に接する普通の感覚で対応すればよく、専門人材は必要ないと考えられているのであろう。ところが、もう一つの地域福祉の活動「コミュニティ・ソーシャル・ワーカー、コミュニティ・ナースに関する取組等」は、専門人材が必要な、やや高度な活動であると考えられており、住民が取り組むにしても、行政や専門機関と連携し支援を受けながら取り組むことが必要だと考えられているのであろう。

このような視点で見ると、専門人材が必要とされている活動分野は、地域福祉と防災であることがわかる。そして、この日本都市センターの研究によれば、この2つの活動分野こそ、今後地域コミュニティに求められる重点的な活動分野の筆頭格なのである。つまり、自治体行政から見て、（したがっておそらく市民の目から見ても）今後地域コミュニティに取り組んでももらいたい活動分野は、そう

² 研究結果は、日本都市センター（2020）『コミュニティの人材確保と育成～協働を通じた持続可能な地域社会』に報告されている。以下において、日本都市センター（2020）として引用する。

は言われても、その専門性というハードルからすぐに取り組めるものでもないのである。

地域活動分野		専門 人材 不要	専門 人材 確保 済み	専門 人材 未確 保
地域 福祉	日常の見守り、高齢者のサポート等	35.3%	17.9%	44.2%
	コミュニティ・ソーシャル・ワーカー、コミュニティ・ナースに関する取組等	12.7%	15.5%	68.3%
まち づくり	空き家・空き地、景観・緑化、エリアマネジメント等	20.0%	10.6%	64.7%
	環境（清掃・美化、ゴミ・資源、環境保全等）	51.7%	16.6%	29.1%
教育	学校教育（学習支援、コミュニティ・スクール等）	16.8%	23.7%	56.5%
	生涯学習（地域の歴史、文化・スポーツ活動等）	18.8%	29.7%	48.9%
地域公共交通（デマンド型交通、コミュニティバス等）		27.4%	17.2%	52.8%
防災・危機管理（地域防災マップの作成、要援護者の避難支援、安否確認等）		16.2%	20.0%	61.2%
コミュニティ・ビジネス（上記の区分に当てはまるものを除く）		27.2%	3.4%	56.9%

今後、地域課題の解決に地域コミュニティ組織が取り組んでいくときに、こうした活動の専門性に対応する態勢をどう作るのが大きなポイントになっている。

こうした専門人材は、行政や専門機関の側にも、また地域コミュニティの側にも必要であるが、前者については、あとでも述べるように、このところ、福祉関係の地域福祉コーディネーターや生活支援コーディネーターの配置、学校分野の地域学校コーディネーター（町田市では「学校支援ボランティアコーディネーター」）の配置などもあり、支援のポテンシャルは向上しつつある。また、地域コミュニティの側でも、町田市の地域にはもともと様々な専門性を持った人材が豊富であり、また町田市の政策的な地区割りや地域コミュニティサイドの住民組織の組織エリアは十分な規模を持っていて（連合町内会・自治会や地区協議会の組

織エリアが他都市に比べて大きめであることはすでに述べたし、また単位町内会・自治会の規模も大きなものが多い）、専門人材が得やすい状況にある。

(b) 地域活動の有償・無償

活動の専門性の考慮において重要なのが、専門人材の確保とそれへの報酬の問題である。

専門的で事業性の高い活動をするに際しては、活動者にはそれ相応の責任もともなうから、有償ボランティアという考え方、さらにはコミュニティ・ビジネス的な考え方が必要となるのではないか。

こうした考え方は、過疎に悩む中山間地域ではつとに広く普及していたが、近年は都市部でもかなり広まってきた。

町田市ではどうであろうか。

今回のアンケート調査での問 19 の分析が重要な示唆を与えてくれる。

まず、単純集計をして、

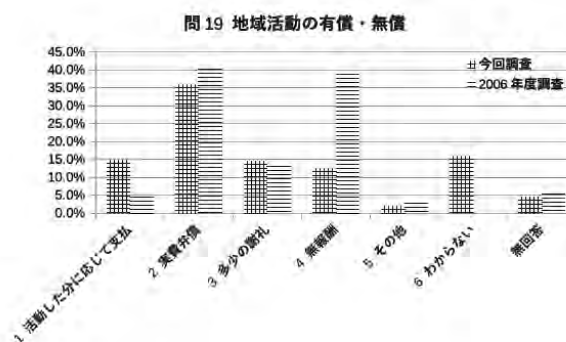
2006 年度調査と比較したのが右のグラフである。

この 20 年ほどの変化はかなり顕著である。すなわち、

「活動した分に応じて支払」の考えが増加し、「地域活動は無償のボランティアで行われるべきである」との回答が減少している。そして、「実費

弁償程度」や「多少の謝礼」との回答は横ばいといったところである。また、

「わからない」との選択肢は、2006 年度調査では存在しなかったもので比較できないが、7 人に 1 人程度であるから比較的回答数は多く、市民の中にも迷いがあるのであろう。「多少の謝礼があるべきだ」というのが、最低賃金をかなり下回るいわゆる有償ボランティアであるとする、今回大いに増加した「活動した分に応じて支払」というのは、最低賃金に近いあるいはそれを上回る正式の雇用のレベルを正当と考える意識であろう。実際の例で言えば、町田市の冒険遊び場（いわゆるプレーパーク）は、正式の雇用のケースまたは最低賃金に近い有償ボランティアでプレイリーダーを確保して運営されている。



右のグラフは、「活動した分に応じた支払」（凡例では「有償派」と表現している）と「無償であるべきだ」（凡例では「無償派」と表現している）との回答を年齢層別に集計したものであり、パーセンテージはそれぞれの年齢層内の回答の割合である。

これを見ると、50歳代前半までの年齢層とそれ以降の年齢層とで、くっきりと傾向が分かれている。特に高齢者は無償派が多く、したがって、ここでは示さないが、町内会・自治会の加入・未加入とクロスして集計すると、無償派は加入者に多い。

また、いくつかの自治体での自治会の加入率の経年変化を見ると、2000年くらいを境に加入率低下のスピードが速まる現象が見られるが、これは、「自治会に入るのは当たり前だ」という意識が共有されていない年齢層の人々が家族をかまへ世帯主になる時期だと見られ、それは現在の50歳代前半の層だと見られるが、まさにこの世代は、町内会のボランティア原理に馴染めないのかもしれない。

実際には、インタビュー調査などからは、役員に、低額ではあるが一定の手当を支払っている町内会・自治会も割にあり、また、純粋なボランティアではなかなかやりきれないとの声も聞かれる。実際に活動をしている人たちの間では、かなり有償性を是認する意識が広がっているとの印象を持つ。

有償ボランティアや専従職員を雇用した活動といった形態は、思いのほか町田市でも浸透しており、それは市民の意識状況を反映したものといえるであろう。

一定の責任ある立場、あるいは一定の専門知識・技能を要する活動に従事する立場に対しては、相応の報酬を支払ってしっかり活動してもらうことにより、無償のボランティアも安心して活動に参加でき、そのボランティア精神の崇高さがむしろ輝くというべきではなかろうか。

地域活動の有償・無償という論点は、このアンケート調査に限ってもさらに深掘りすべき側面があり、また質的調査を通じても深めていけるものであると思われる、2025年度の研究においてさらに追究していきたい。



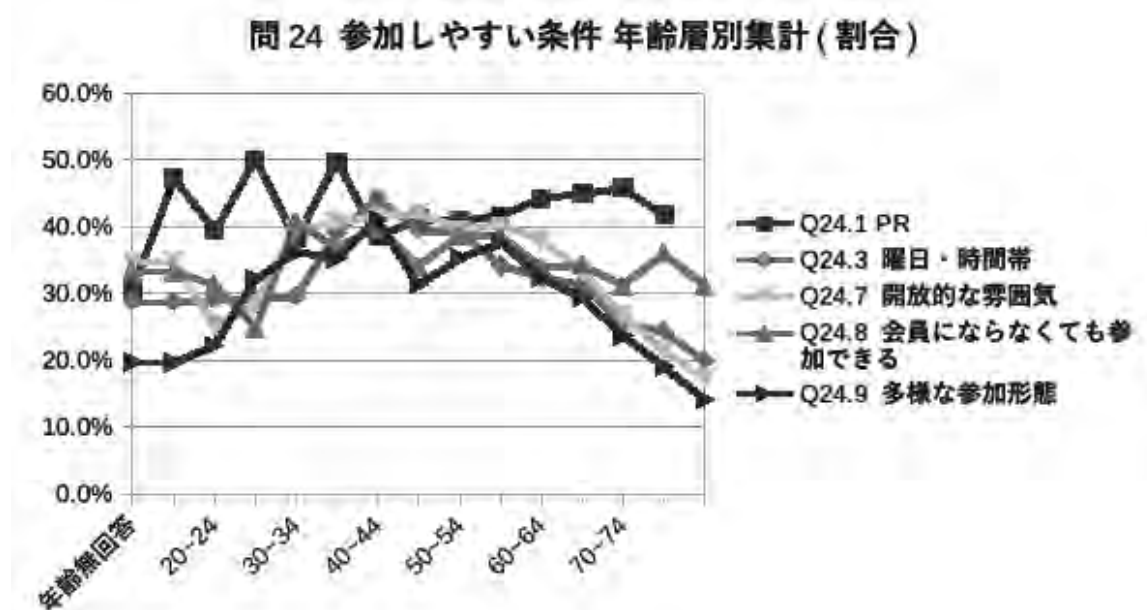
(3) 地域活動の輪を広げるために

(a) 参加しやすい条件

アンケート調査では、問 24 において、地域での活動がもっと参加しやすくなるために必要なことを聞いている（複数回答あり）。

活動の担い手が高齢化し固定化しているとは、町田市に限らず日本全国どこでも聞かれる声である。なかなか活動に参加できない現役世代、とりわけ 40 代、50 代の状況を見てみよう。

下のグラフは、問 24 の中で、特に現役世代の回答の多かった選択肢を選んで、年齢層別に集計したものである。回答者の各年齢層は、多い少ないがあり、回答件数（度数）では様子がわかりにくいので、ここでは、各年齢層それぞれの中で各選択肢を何%の人が選んだかを算出してグラフにしている。



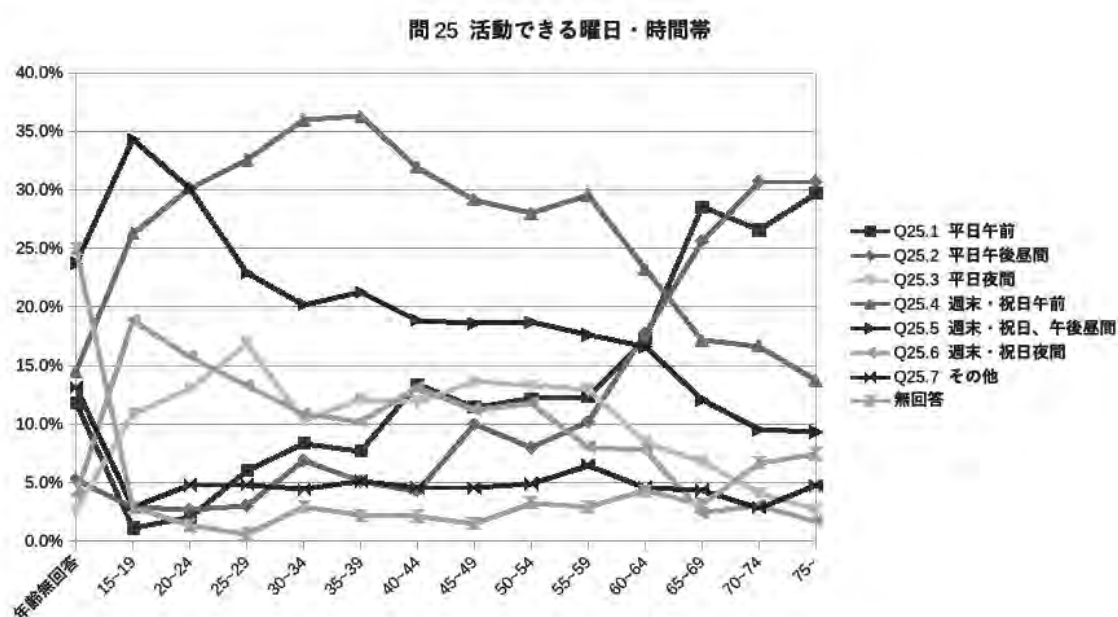
現役世代の回答件数の多い選択肢の中でも、「1 活動に関する情報をもっと PR する」と「8 会員にならなくても、活動メンバーとして参加できるようにする」は、それ以上の年齢層にも多いが、「3 参加しやすい曜日や時間を設定する」、「7 しがらみがあって参加したらやめられないなど、閉鎖的な雰囲気をなくす」、「9 特定のイベントのみの参加、インターネット上での参加など、多様な参加方法を用意する」の 3 つは、それ以上の高齢世代にはそれほど多くない。

まず、活動の PR が重要、というのは、ほとどの年齢層でも 4 割以上の回答がある最重要の着眼点といえる。この点についてさらに付言するならば、近年は、若い世代にとっては情報の取得と交換の主要な媒体はもはや紙ではなく電子媒体だということを肝に命ずる必要があるだろう。

また、会員にならなくても活動メンバーとして参加できるように、というのも、ほとんどの年齢層にわたって 3 割から 4 割の支持のある考え方であり、例えばイベントの企画と実施にあたって実行委員会形式を採用するなどが、我々がインタビューをした範囲でもよく見られる工夫であった。一般的に言っても、青少

年なども含めて企画段階から主体的に加わってもらうというやり方はかなり増えてきている。この条件は次第に顧みられつつあると見ていいだろう。

次いで、問 24 で現役世代に回答の多い、曜日・時間帯の設定については、さらに問 25 で具体的に尋ねており、これを年代層別に集計したのが下のグラフである。



例えばイベントを企画しているとして、その準備のための会合をセットする場合と、目的のイベントそのものの日時を定める場合とでは、考慮事項や都合の付け方が異なるであろうから、一概にはいえない面もあるが、グラフを見ると、現役世代は都合が付きやすいのが、週末・祝日の午前、次いで週末・祝日の午後の昼間、そして平日の夜、というところであるが、これらはいずれも高齢者層にはありがたないことが分かる。これに対して高齢者層にとっては平日の午前や午後の日中が都合が良いが、これは現役世代にとっては難しい。これは、活動の目的や態様によってどこかで妥協して進めていくほかはないし、実際我々が傍聴させていただいた会議でも出席予定者の都合を勘案して多様な曜日・時間帯で行われていた。したがって、近年の地域活動においては、「曜日・時間帯」という点も顧みられ配慮されてきている点である。

ただ、行政や専門機関が参加する場合は、近年は人員体制が厳しいせいもあり、代休が取りづらく、平日の午前や午後の日中に行うことが多いように見受けられる。それでも地域側の主催の会議であれば、夜間や休日でも職員が頑張って参加している。

こうして見ると、活動の曜日・時間帯の問題は活動者によって意識され配慮されてきている。問題がいつも自覚されている限り、妥協と工夫が積み重ねられていくと期待できそうである。

問 24 選択肢 7 の「しがらみがあって参加したらやめられないなど、閉鎖的な雰囲気はなくす」というのは、ある面で選択肢 8 の「会員にならなくても活動メンバーになれる」というのと似ており、特に初動期において気軽な参加を可能とする配慮を求める意識であろう。若い世代にとっては、既存の活動に入っていく場合は、いつもいわば「新参者」としておそろおそろ入っていくことになるわけで、当該団体や活動の雰囲気を確かめようとしていることに、既存メンバーは配慮する必要がある。

選択肢 9 の「特定のイベントのみの参加、インターネット上での参加など、多様な参加方法を用意する」についても、以上の点と同様のことがいえるほか、インターネットによる参加という形態も、コロナ禍で電子会議が随分普及した現在、使いこなしていくべき通常のツールになっている。

以上を要するに、多くの活動団体は、参加しやすい条件についてすでに様々な配慮をし始めており、やはり最初に取り上げた「活動の PR」（参加しやすい活動であることも含めた PR）がポイントであるといえる。

(b) 活動に参加したくない人々の意見

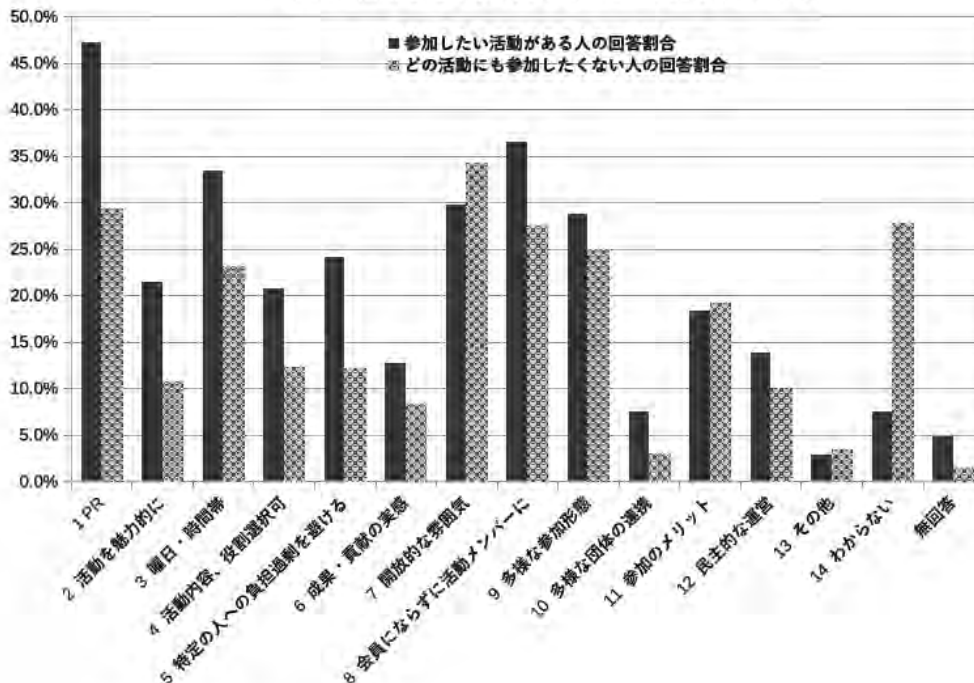
先に見たように、問 23 では、今後の活動意向として、どの分野についても活動に参加したいという人の割合が 2006 年度調査と比べて減少しており、どの活動にも参加したくないという人の割合が増加していた。特に、どんな活動にも参加したくないという人が 3 分の 1 以上を占めている現実には衝撃的でさえある。

この人たちはどんな意見を持っているのか、少々探ってみよう。

今しがた見たように問 24 は、どんな条件があったら活動に参加しやすいかを尋ねているのだが、この問いには、問 23 でどの活動にも参加したくないと回答した方々も回答しているのである。つまり、はなから拒絶しているのではなく、現状ではとても参加できそうもないと捉えているようである。

下のグラフは、問 23 で、無回答者を除いて何らかの活動に参加したいと答えた人（2388 人）とどんな活動にも参加したくないと回答した人（1232 人）とが、それぞれ問 24（どんな条件があれば活動に参加しやすいか）の各選択肢を選んだ割合を示したものである。

問 24 活動したくない人にとっての参加しやすい条件



たしかに、どんな活動にも参加したくない人たちは、「わからない」との回答が多く、またその他の選択肢への回答割合もおおむね低いですが、それでも、こんなふうにしたら参加しやすいということをお考えである。そして、選択肢の中でも選択肢7「しがらみがあって参加したらやめられないなど、閉鎖的な雰囲気をなくす」及び選択肢11「参加した人が、なんらかのメリットを得られるようにする」では、活動への参加意向を持っている人たちを上回る回答割合を示している。

もう一つ見ておくと、問11では、回答者が関心を持っている地域の課題は何かと尋ねており、ここでも問23で活動への参加意向がない人たちも様々なお考えをお持ちであることが伺われる。

次ページの表が集計結果で、ここでも、各選択肢それぞれについて該当人数を分母として回答割合を集計している。項目が多く、グラフにするとわかりにくくなるので、表にした。

これを見ると、「活動参加意向なし」層は、「特に課題はない」や「わからない」が多少多いようでもあるが、全回答の中でそれほど大きな比重でもない。参加意向のある層と比べて一定の傾向があるようにも見受けられるが、地域の課題についての認識はきちんと持っている。したがって、こうした課題を、行政だけではなく、地域コミュニティの力をも借りて、解決していくことの、大切さや楽しさを伝えることができれば、状況は変わってくるのではないだろうか。

こうした回答傾向も、地域課題の解決にあたって、住民と地域コミュニティが相応の役割を果たせることを実践的に示すことによって、状況は変わっていくのではないか。

このほか、ここではデータは示さないけれども、問 11-2 で、地域課題の解決に現在取り組まれている状況の認識について尋ねているのに対しては、両者の回答はそれほど大きくは違っておらず、参加意向なし層に、「わからない」とか無回答が多い程度である。

他方で、問 12 の、地域課題解決のための合意形成を主導すべき組織についての考え方（5 の（2）の（c）で述べた）は、参加意向なし層においては行政主導が半数を超えている。地域コミュニティの主導で地域課題に関する合意を形成するという行動は、課題の内容にもよるが、地域活動に接していない人にとってはややハードルが高そうであつて、やはり、地域コミュニティにそうした力があることを実際の生活の中で体験していくことによって、認識も変わっていくものではなかろうか。

（c）地域活動の内容について ～若い世代に響く活動～

以上においては、活動のスタイルや担い手について考察したが、活動の内容についても考えておこう。活動に関心が持てる上で、やはり一番大切なのは、その

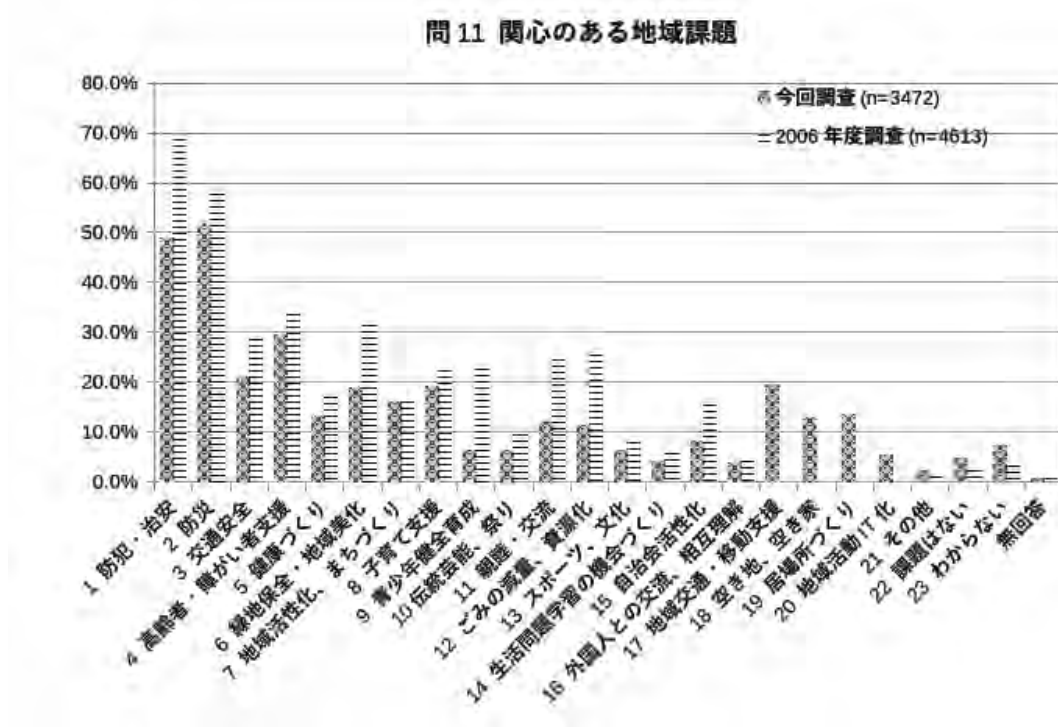
	問 23 で参加意向 あり (n=2388)	問 23 で参加意 向なし (n=1232)
Q11.1 防犯	46.9%	46.6%
Q11.2 防災	52.0%	44.9%
Q11.3 交通安全	17.7%	25.2%
Q11.4 高齢、障がい支援	30.4%	24.1%
Q11.5 健康づくり	15.3%	7.5%
Q11.6 緑地保全	18.4%	17.1%
Q11.7 地域活性化	16.9%	12.5%
Q11.8 子育て支援	18.3%	18.1%
Q11.9 青少年健全育成	6.5%	5.1%
Q11.10 伝統芸能、祭り	7.0%	4.1%
Q11.11 親睦・交流	14.9%	4.5%
Q11.12 ごみ減量、資源化	10.8%	11.3%
Q11.13 スポーツ、文化	7.8%	2.4%
Q11.14 学習の機会づくり	4.8%	2.5%
Q11.15 町内会活性化	10.1%	3.3%
Q11.16 外国人との交流	4.0%	2.8%
Q11.17 地域交通	18.1%	20.0%
Q11.18 空き地・空き家	12.1%	12.8%
Q11.19 居場所づくり	15.5%	7.7%
Q11.20 IT 化	5.2%	5.3%
Q11.21 その他	2.1%	2.7%
Q11.22 特に課題はない	3.6%	6.2%
Q11.23 わからない	4.7%	11.4%
無回答	0.7%	0.6%

活動の中身であろうからである。誰もが気にし心配している、あるいは興味を持ち楽しめる、内容の活動を手掛けることが地域コミュニティに目を向けてもらう基本である。

先ほど、日本都市センターの調査研究を参照して、今日の地域活動の主要な重点課題は、大きくまとめると地域福祉と防災だととらえたが、町田市に即してもう少し見てみよう。

まず、下のグラフは、問 11 で、関心のある地域の課題を 5 つまで選んでもらったものの割合を 2006 年度調査と比較したものである。

17 から 20 までの選択肢は、2006 年度調査には存在しなかった。これらの選択肢は今回調査では、回答数が結構多く、その分ほかの選択肢の回答が減ったとも考えられ、両調査の比較は難しいところもある。

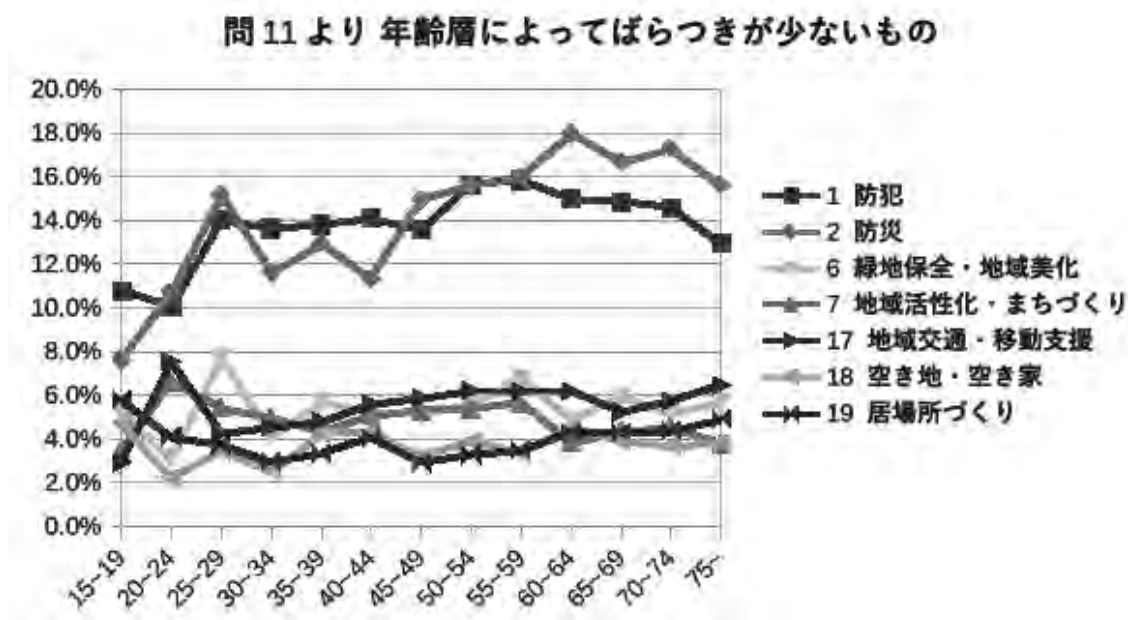


まず、防犯、防災は、暮らしていくうえでの基盤的な条件であるから、やはり関心が高い。この課題については、2006 年度調査では、防犯が防災よりも回答が多かったが、今回は逆転している。2011 年の東日本大震災ほかその後大きな災害が頻発していることが影響しているのであろうか。しかし、この種の暮らしやすさの要因の分析は、問 2 等との関連もあり、2025 年度により総括的に分析して報告したい。

ここでは、地域活動の輪を広げていくためにはどうしたらよいかを、活動内容の面から探るために、いくつか回答の多い課題について、年齢層別の集計を考えてみたい。

問 11 に選択肢として挙げている課題は、日本全体あるいは都市町田の構造的要因から客観的に重視すべき課題ばかりで、これについて、関心が低かったり年齢層別に大きなばらつきがあったりすることは望ましいことではあるまい。

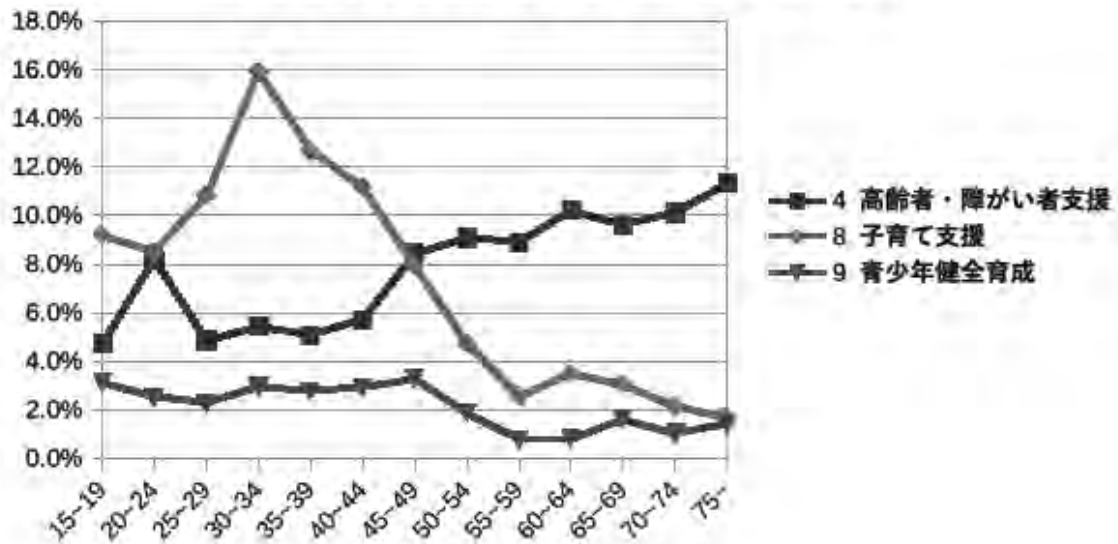
こうした観点から言うと、回答数も多く、年齢層ごとのばらつきも比較的少ないのは、防犯（選択肢 1）、防災（選択肢 2）、緑地保全・地域美化（選択肢 6）、地域の交通・移動支援（選択肢 17）、空き地・空き家問題（選択肢 18）、身近な居場所づくり（選択肢 19）などである。



これらの多くは、専門性や事業性もそれなりに高い場合があるが、我々が訪問調査などで伺ったところでも、いくつか先進的な取り組みが見られ、今後こうした分野に地域コミュニティ全体が関心を持って取り組むことにより、地域への関心が高まることが期待される。また、こうした専門性・事業性の高い取り組みについて、行政や専門機関が支援体制を整備することも大きな政策課題である。

これに対して、年齢層別にややばらつきのある課題として、子ども青少年分野や高齢者・障がい者福祉がありそうである。これらの分野は、2006 年度調査と比べると回答割合も低下している。

問 11 より 年齢層によってばらつきがあるもの



他の先進諸国と同様に少子化の傾向が止まらない日本にとって子ども青少年やそれに関わる親世代等への支援を強めることは国民的課題であるし、高齢化の中で高齢者の暮らしやすさの条件を理解し、またノーマライゼーションの観点から障がい理解を深めていくことは、重要な政策課題であるから、いわば当事者だけではなく、誰しもこうした課題について関心と理解を深め、行動に移していくことが地域コミュニティにとっても重要である。

また、今後重視されるべきテーマとして、外国人との交流・相互理解（選択肢16）などがあるだろう。

以上の地域課題に関しては、町田市の政策課題として重要なものばかりであり、2025年度は質的調査も充実させて、さらに考察を深めていくこととしたい。

(d) 活動内容に関する補足的考察

地域活動の内容について、アンケート調査とインタビュー調査などからいくつか述べたが、さらに、2025年度の研究において留意すべき点として、二つほど補足的にメモしておきたい。

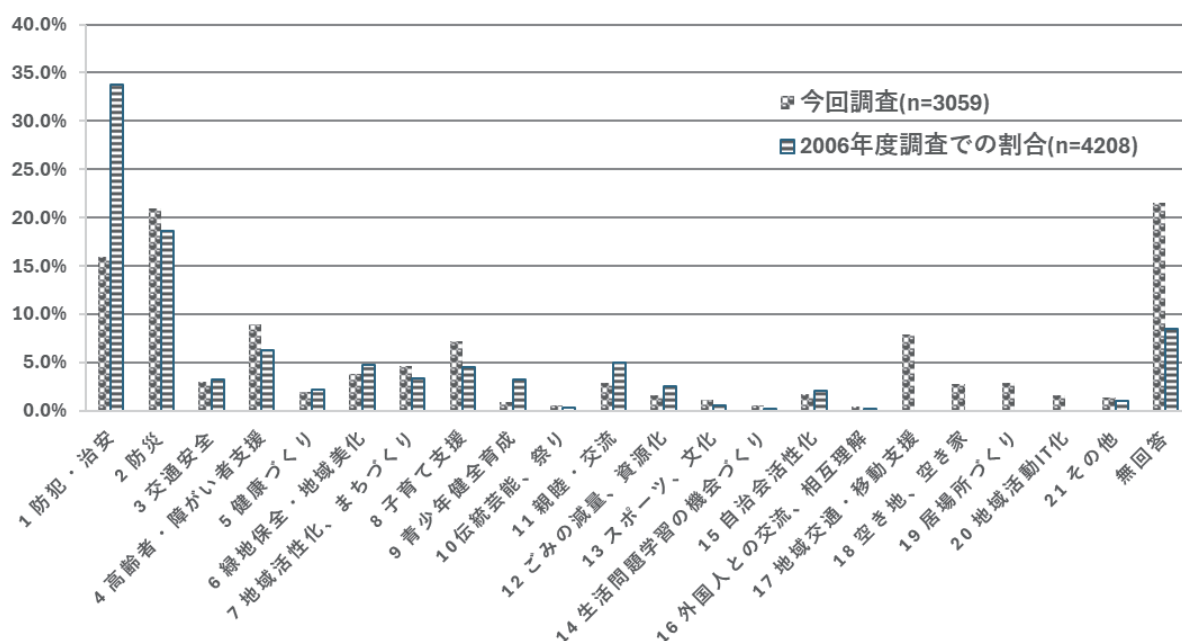
一つは、防災という活動分野の位置付けである。

市民に関心のある地域課題の中でも防犯と防災は、2006年度調査でも今回調査でも回答数はトップクラスである。そして、防災は、2006年度以降多くの大規模

な災害があり、国や自治体もこれに対応して地域での啓発を強め取り組みを促してきただけあって、今回調査では、防犯を上回る回答数であった。

問11の問いかけの後、問11-1として、その中でも最も関心のある課題はどれかと問うと、2006年度調査と比較して防犯と防災とはまさに逆転している。（下のグラフを参照）

問11-1 最も関心のある地域課題



ただし、そのトップの防災にしても、2006年度調査における防犯ほどの比率ではない。おそらく、防災という課題の特有な性格が関連しているように思われる。つまり、災害というものは、一旦起こると大変な事態になるが、日常的に生ずる課題ではない。普段の市民生活を考えると、他の課題に目を向けざるを得ないのである。また、ここではグラフは示さないが、地域別に集計すると、地域の事情によって、防犯が防災を上回っている地域もある。まさに地域の事情は地域によって様々である。したがって、防災一本槍ではなかなか地域住民の関心を惹くことは難しい。合わせ技というか、そこに何か別な課題を組み合わせることで取り組んでいくことが有効ではなかろうか。たとえば、横浜市の地域福祉保健計画では（特に各地区レベルで策定されている地区別計画において）、防災と関係づけて普段の近隣での見守りの態勢を構築するように考えている。

二つ目は、上のグラフやさらにその前の問11について集計したグラフを見ると、2006年度調査では選択肢として立てられていなかった、地域の交通・移動支援（選択肢17）、空き地・空き家問題（選択肢18）、身近な居場所づくり（選択肢19）が、今回は選択肢として設定され、それなりの回答を得ている。こうした

新しい課題に関心を寄せる人が一定のボリュームで存在すること、そしてまた今回調査では問11-1の最も関心を持つ課題に関して「その他」として独自の記述をしてくださった回答が多かったことから、地域活動の取り組み対象が多様化し多彩になってきていることが想像されるだろう。

(4) 町田における地域組織、行政、専門機関のあり方

町田における地域のつながりの希薄化ないし地域力の低下の兆候として懸念されるデータに対して、それを克服して住みやすい町田を地域コミュニティの力で持続させていく要素を探ってみた。

こうした方向性をより具体的に担うのは、各地域における地域活動団体であり、行政や専門機関である。そうした具体的な活動と活動団体に関しては、さらに 2025 年度に調査研究を深めてからでなければ十分なことは言えない。特に 2025 年度は、テーマ型の市民活動団体へのアンケート調査と町内会・自治会へのアンケート調査を予定しており、またインタビュー調査もさらに積み重ねていく予定である。ここでは、これまでに気がついたことをいくつか述べるにとどめたい。

(a) 「地区」レベルの地域組織のあり方

近隣社会でのコミュニティ活動の基本は単位町内会・自治会であるけれども、それを補完し支援する点において、連合町内会・自治会、さらには地区協議会、青少年健全育成地区委員会や地区民児協などの「地区」レベルの住民組織もきわめて大きな役割を果たしている。

すでに述べたように、町田市の「地区」の設定は、「10 地区」を基本としながら柔軟であり、実情に合わせた運用がされてきたし、これからも柔軟に考えられるべきである。

(b) 青少年健全育成地区委員会

青少年健全育成地区委員会は、すでに述べたように、多彩な青少年分野の活動団体や専門機関が集う活気にあふれた場である。そうした多彩な主体が相互に情報交換、意見交換を行う場であること、全部で 24 地区とややきめ細かく「地区」が設定されていること、そして小中学校の熱心な関わりが得られていること、さらに青少年健全育成地区委員会それ自体としても独自の事業を行っている（そのための補助金が不足しているとの声が聞かれるのも、活動の活発さゆえであろう）こと、こうしたことが活気と求心力を保っている要因ではなかろうか。

(c) 地区協議会

地区協議会も、青少年健全育成地区委員会に似て、地区内の活動団体や行政・専門機関等が集まる総合的な情報交換、意見交換の場となっており、こうしたあ

り方は好ましいと感ぜられる。地区協議会も、各地区 100 万円のまとまった補助金を受けて各地区で生かしているが、地区協議会自身が何らかの事業を行う方向性と、地区協議会自体は地区の司令塔的な存在として、具体的な事業は地区内の多様な団体に補助金を支出して任せていく方向性と考えられよう。

地区協議会は、2013 年度から行われている仕組みで、連合町内会・自治会のエリアをベースに 10 地区に設立されている。

右の表は、今回のアンケート調査で地区協議会を知っているかどうかを尋ねた問 14 の集計結果である。「内容まで含めて知っている」（選択肢 1）と「名前は知っている」（選択肢 2）とを合わせると 30% ちょっとな

問 14 選択肢	回答率
1 内容まで含めて知っている	3.9%
2 名前は知っている	28.0%
3 知らない	65.9%
無回答	2.2%

いうところだが、これは発足 10 年目の制度として他都市と比べて実はそれほど悪い数字ではない。地区別に集計すると、玉川学園・南大谷地区と相原地区では 40% を超えていた。

発足 10 年で順調に展開していると言ってよいのである。

地区協議会のような仕組みを「都市内分権」とか「地域分権」とかいう。全国の都市自治体の 6 割程度が導入しており、もはや定番のコミュニティ政策のツールと言える。また、合併によって大規模化した自治体のガバナンスを高める仕組みとして世界的にも広く見られる。

(d) 地区民児協

地区民児協についても、若干述べる。

近年全国的にも民生委員の欠員が増加しているが、町田市でもいわゆる充足率が 7 割程度とやや低い状態になっている。今回のアンケート調査の問 29 でも、民生委員のことを知らないとの回答が 4 割にも達しており、2019 年度に福祉総務課が行った調査での数字（30%）とは調査の条件が異なるので単純な比較はできないとはいえ、特に年齢層別に集計してみると 50 歳未満では半分以上が知らない結果となった。地区民児協の会議を傍聴させていただいても、また他の団体のインタビューでのお話においても、各民生委員の活動ぶりは素晴らしいものがあるが、地域の中では民生委員という存在があまり知られていない。守秘義務の関係もあるのだろう。

町田市の地区民児協は民児協という組織それ自体の事業として地域で事業を展開するということをあまりしていないことから、認知度が低く、なり手も少なくなっているのではないだろうか。民生委員としての高度な実践性と専門性を活かした先導的開拓的な事業を一つでも各地区で取り組んでいけば、状況は変わるのではなかろうか。今後、民児協の組織エリアをもう少し細かくして民児協として地域福祉に取り組むことも考えられているようで、今後に期待したい。

(e) 行政、専門機関のあり方

本研究の直接の当事者である市民協働推進課と福祉総務課はもちろん、他の多くの課・係も、さらには町田市社会福祉協議会や町田市地域活動サポートオフィスなどの中間支援組織も、地域コミュニティに向き合う業務が増えており、そのような場で支援的コーディネーター的な役割を果たすことが期待されている。

全国的にも、福祉分野の地域福祉コーディネーターや生活支援コーディネーターの配置、学校における地域学校コーディネーターの配置、社会教育分野における社会教育指導員等のコーディネート機能、支所・出張所・コミュニティセンターなどへのコーディネーターの配置、さまざまな地区担当制職員の試みなど、今や地域はコーディネーターだらけといってもよい。

町田で行政・専門機関が、こうした地域コーディネートの機能をどのように果たしていけるか、まさに本研究の中心的なテーマの一つとして、2025年度も研究を深めていきたい。

7. 2025 年度の調査研究の展望

すでに町田市では、今後の少子化を見据えた学校の地区再編を進めており、学校を統合するだけでなく、市民が学校を地域の取り組みに使用する「地域活用型学校」と位置づけることで、地域コミュニティの再生を目指す政策を示している。

また、民生委員児童委員協議会においても小学校区をベースにした地区再編に取り組んでいる。

実は日本の多くの自治体では、連合町内会・自治会のエリア、いわゆる明治期の「村」のエリアが小学校区と重なっていることから、小学校区をコミュニティ・エリアとして設定する政策が行われてきた背景がある。エリア設定に柔軟な姿勢で取り組んできた町田市にとっても、地域のシンボルとなり得る学校の施設や学区を活用したコミュニティ形成によって、持続的かつ活気ある地域づくりを実現できる可能性は十分に高い。

そのため、すでに始まっている町田市の取り組みとの親和性に資するためにも、学校を中心とした地域コミュニティが形成されることを近未来的な仮説として視野に入れつつ政策的な調査研究を深めていく。

これらを踏まえ、2025 年度もまた、質的調査と大量観察調査とを組み合わせる進めていく。

インタビューや会議傍聴などの質的調査は、2024 年度に引き続いて、できるだけ多くの分野の活動団体やキーパーソンの方々、さらには行政各部署や専門機関にお目にかかり、できるだけ多くのことを学んでデータの蓄積と精緻化を図る。

アンケート調査としては、引き続き今回の市民アンケートのデータを読み解く作業を続けつつ、市民活動団体に関するアンケート調査と、町内会・自治会に関するアンケートも実施する予定である。

こうした調査活動を通じて、とりわけ留意すべき論点を以下にいくつかメモしておく。

(1) 住民や地域の属性をより多面的に考慮に入れた考察

2024 年度は、アンケート調査においても質的な調査においても、まだ各地域・各地区の特性や、居住形態など、多様な具体的属性に即した考察が十分にできてはいない。本中間報告では、アンケート調査の分析において、年齢層別の特徴について多少見てみた程度である。

住民個々人の属性については、性別や職業、居住形態、家族形態、学歴、収入など様々な属性に着目して市民のコミュニティ意識の実相に迫る必要があるし、地域の実情を解明するためには、10 地区の地区ごとの集計と分析、さらにはいくつかの「町」や住宅団地を選んでその特性を分析する作業も必要である。

本中間報告においては、地域コミュニティの活動分野で、いくつかニーズの高いものや、年齢層によってニーズに大きな違いがあるもの、あるいはこの間注目

されるようになった新しい分野などについて、主として年齢層別の集計によって、若干の考察を試みたが、こうしたニーズの性格をさらに正確に掴むためには、より多面的な考察が必要であろう。

(2) 「地域」に関するイメージと政策的なコミュニティ・エリアの設定

上に述べたように、町田市はすでに今後政策的に重視すべきコミュニティ・エリアとして学校区に着目しようとしている。日本の多くの自治体では、連合町内会・自治会のエリア（「明治の村」のエリア）が小学校区と重なっていることから、小学校区をコミュニティ・エリアとして設定し、そこにコミュニティセンターや公民館のような集会施設を一つずつ整備していくという政策が行われてきた。これに比べると、町田市の地域集会施設はあまり密度が高くなく、すでに2001年度の市民活動団体調査でも、集会機能の不足を訴える回答が多かった。

また他方、町田市の青少年健全育成地区委員会は、必ずしも学校区を組織エリアとしているわけではないが、学校との連携を重視した設計となっており、それが活動に活気をもたらしているように思われた。

このように考えれば、小学校や中学校の通学区域をコミュニティ・エリアとして設定すべき政策分野が考えられてよい。

右のグラフは、問1の「住んでいる地域」という場合の「地域」とはどの範囲をイメージするかという設問において、「5 小学校の通学範囲」または「6 中学校の通学範囲」と答えた回答（428件）を年齢層別に集計したものである。割合は、それぞれの年齢層の中の回答率を示す。



とりわけ小学校区を「地域」と感ずる意識は、子育て世代かと思われる年齢層にやや多く見られることがわかる。すでに、学校再編や民生委員児童委員協議会の改組において、小学校区重視へと足を踏み出した町田市の今後の方向性を、こうした年齢層の意識やニーズに即してさらに政策的留意点を明らかにしていく必要がある。

(3) 地域の力を発掘し結びつけていく支援のあり方の説明

昨今のニーズに対応するために求められているコミュニティ活動の中には、それなりの専門性や事業性を必要とするものが増えている。こうしたニーズへの対応には、地域での専門人材を発掘するとともに、行政や専門機関が支援的役割を十分に果たすことが必要である。

こうした行政・専門機関の支援的なコーディネート機能は、町田市の実情に即してどのようにあるべきなのか、2024年度はまだまだどんな仕組みがあるのかを整理し得ただけで、十分に調査できていない。行政各部署や、諸々の専門機関の果たしている、あるいは果たすべき機能を、十分に把握し、政策的な方向性を見出していきたい。

＜資料編＞

資料 1 研究組織

資料 2 質的調査一覧

資料 3 2024 年度町田市地域コミュニティに関する市民アンケート調査結果

＜資料 1＞ 研究組織

氏名	所属	役割
名和田 是彦	法政大学	研究代表者
三輪 律江	横浜市立大学	研究委員会委員
藤井 多希子	国立社会保障・人口問題研究所	研究委員会委員
石井 大一朗	宇都宮大学	研究委員会委員
平野 友康	横浜創英大学	研究委員会委員
杉崎 和久	法政大学	研究委員会委員
伊藤 雅春	大久手計画工房、明星大学	研究事務局
西谷内 博美	法政大学	研究事務局、研究委員会委員 (2024年10月から)
淵元 初姫	法政大学、大久手計画工房	研究事務局、研究委員会委員 (2024年9月まで)
町田市 市民協働推進課	町田市役所	共同研究メンバー
町田市 福祉総務課	町田市役所	共同研究メンバー

※研究委員会の会議には、以上のほか、町田市役所の地域コミュニティに関係する部署、町田市社会福祉協議会、町田市地域活動サポートオフィスが参加している。

＜資料 2＞ 質的調査一覧

1 町内会・自治会（地区連合）

N o	インタビュー先	日時
1	小山地区	2024 年 9 月 25 日
2	木曽地区	2024 年 10 月 8 日
3	町田第一地区	2024 年 10 月 9 日
4	町田第二地区	2024 年 10 月 12 日
5	南地区	2024 年 10 月 13 日
6	高ヶ坂・成瀬地区	2024 年 11 月 13 日
7	鶴川地区	2024 年 11 月 21 日
8	相原地区	2024 年 12 月 4 日

2 町内会・自治会

N o	インタビュー先	日時
1	鶴川地区の単一町内会（解散検討中）	2024 年 11 月 5 日
2	町田第二地区の単一町内会	2024 年 12 月 9 日

3 民生委員児童委員協議会

N o	インタビュー先	日時
1	南第二地区	2024 年 9 月 25 日
2	忠生第一地区	2024 年 9 月 26 日
3	町田第一地区	2024 年 9 月 30 日

4 青少年健全育成地区委員会

N o	インタビュー先	日時
1	小山田地区	2024 年 10 月 29 日
2	忠生第六地区	2024 年 11 月 19 日
3	忠生第三地区	2024 年 12 月 5 日
4	町田中央地区	2025 年 1 月 9 日

5 地区協議会

N o	インタビュー先	日時
1	忠生地区	2024 年 8 月 26 日
2	南地区	2025 年 1 月 14 日

6 まちづくり協議会

N o	インタビュー先	日時
1	小山田桜台地区	2024 年 12 月 6 日
2	玉川学園地区	2024 年 12 月 6 日

7 社会福祉協議会、地域活動サポートオフィス等

N o	インタビュー先	日時
1	社会福祉協議会	2024 年 8 月 27 日
2	地域活動サポートオフィス	2024 年 8 月 27 日
3	地区社会福祉協議会（玉川学園地区）	2024 年 8 月 27 日
4	まちだ福祉〇ごとサポートセンター 地域福祉コーディネーター	2025 年 1 月 7 日

8 子ども食堂、冒険遊び場

N o	インタビュー先	日時
1	冒険遊び場（鶴川地区）	2024 年 10 月 18 日
2	子ども食堂（町田地区）	2024 年 10 月 18 日

9 その他

N o	インタビュー先	日時
1	消防団（組織強化担当会議）	2024 年 11 月 8 日
2	ケアマネジャー（役員会）	2024 年 11 月 28 日

10 他都市調査

No	インタビュー先	日時
1	青森市浅虫地区及び油川地区	2024 年 11 月 1 日
2	横浜市瀬谷区民生委員児童委員協議会	2024 年 11 月 8 日
3	大田区社会教育指導員	2024 年 11 月 18 日
4	横浜市瀬谷区地域振興課 (青少年指導員制度)	2025 年 2 月 13 日
5	一関市いちのせき市民活動センター	2025 年 3 月 4 日
	一関市山目市民センター	
	一関市役所まちづくり推進課	
6	丸亀市川西地区、飯山南地区、岡田地区	2025 年 3 月 23 日

＜資料 3＞2024 年度市民アンケート単純集計結果

資料 3

2024年度 町田市地域コミュニティに関する 市民アンケート調査結果

目次

I. 調査の概要	53
II. 調査結果	57
III. 調査票	87

I. 調査の概要

1. 調査目的

近年、価値観やライフスタイルの多様化、新型コロナウイルス感染症の影響による地域活動の縮小、民生委員や消防団員等の担い手の減少などにより、地域コミュニティが希薄化しているといわれています。そこで町田市では持続可能な地域社会をつくり、地域ぐるみで見守り合い、助け合える場づくりを目指すため、法政大学と共同で地域コミュニティに関する研究を行っております。その研究の一環として本アンケートを実施いたしました。本アンケートの結果は、市民の皆様の地域との関わり、地域コミュニティに関する意識や活動の現状、生活実態を把握し、今後の施策を検討する貴重な資料として活用させていただきます。

2. 調査項目

調査項目	調査内容
I お住まいの地域について	「地域」のイメージ、暮らしやすさ、定住意向など
II お住まいの地域で取り組まなければならない課題について	関心のある地域課題、取り組み状況、合意形成の組織など
III 町内会・自治会や自主的活動への参加状況について	参加状況、活動の種類、参加の意向、参加・不参加の理由など
IV 活動のための場所について	場所の認知、利用経験、活用意向など
V 町内会・自治会や自主的活動への今後の参加意向について	参加したい活動の種類、参加のためのきっかけ、参加できる時間帯など
VI あなたの生活と相談機関について	生活に関する困りごとの種類、相談機関の認知、利用経験、利用意向など
VII あなた自身のことについて	性別、年齢、世帯構成、居住地区など

3. 調査設計

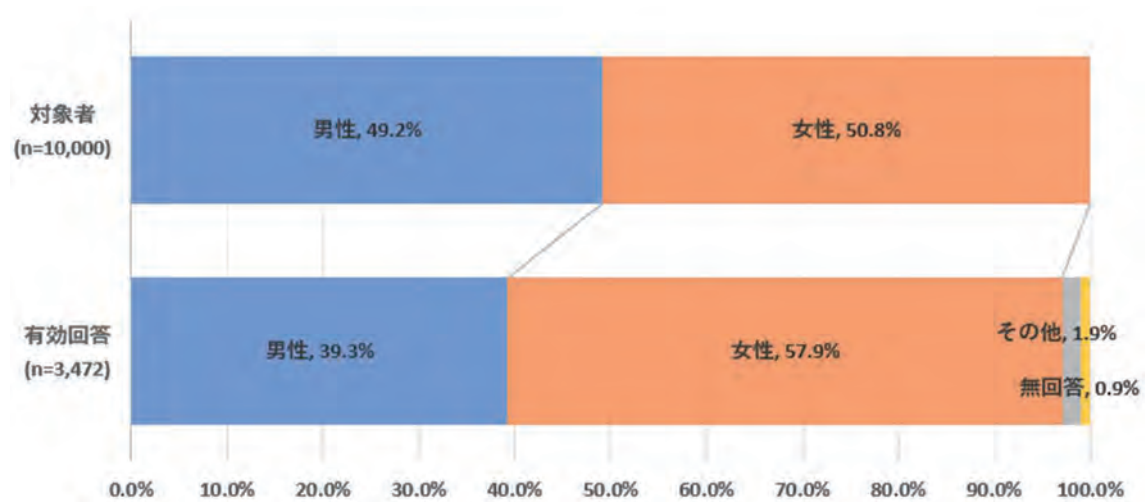
- (1) 調査地域 町田市全域
- (2) 調査対象 市内在住の 15 歳以上 80 歳未満の男女個人 (2024 年 8 月 1 日現在)
- (3) 対象者数 10,000 人
- (4) 抽出方法 住民基本台帳からの無作為抽出 (外国人を含む)
- (5) 調査方法 郵送による配布、郵送および インターネット による回収
- (6) 調査時期 2024 年 9 月

4. 回収結果

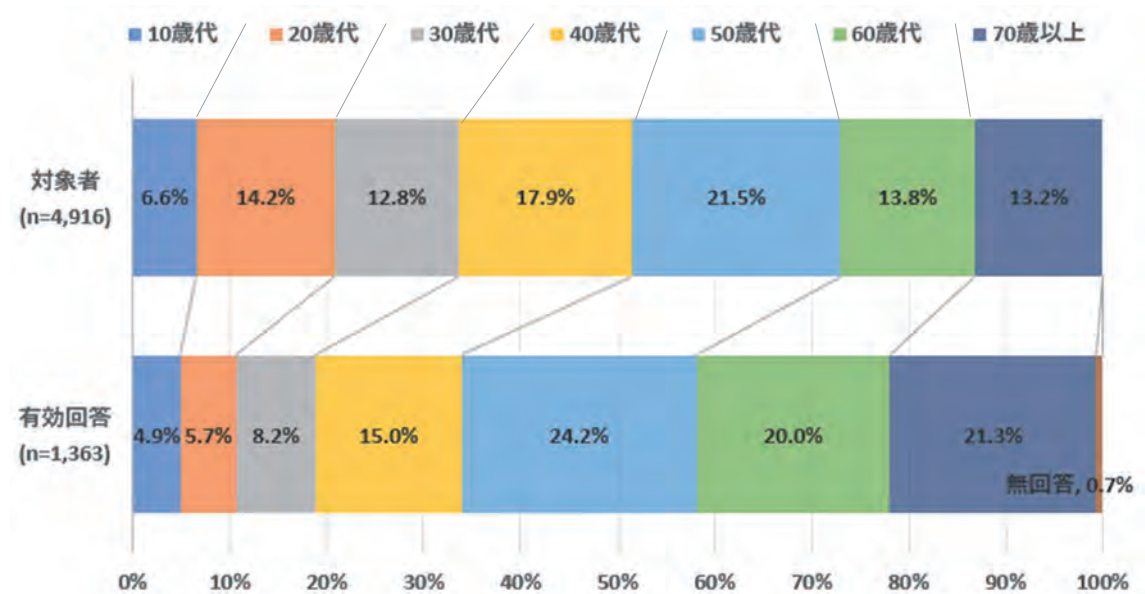
- (1) 調査件数 10,000 件
- (2) 有効回収数 3,472 件（うち、郵送 2,142 件、インターネット 1,330 件）
- (3) 有効回収率 34.7%（うち、郵送 61.7%、 インターネット 38.3%）

(4) 回収状況

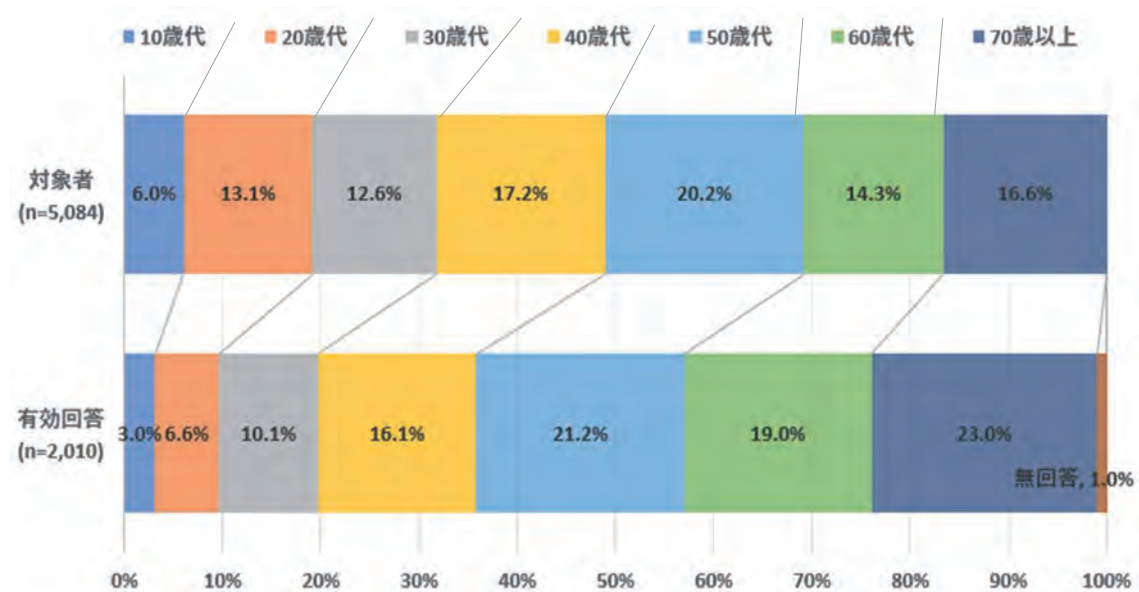
◆ 性別



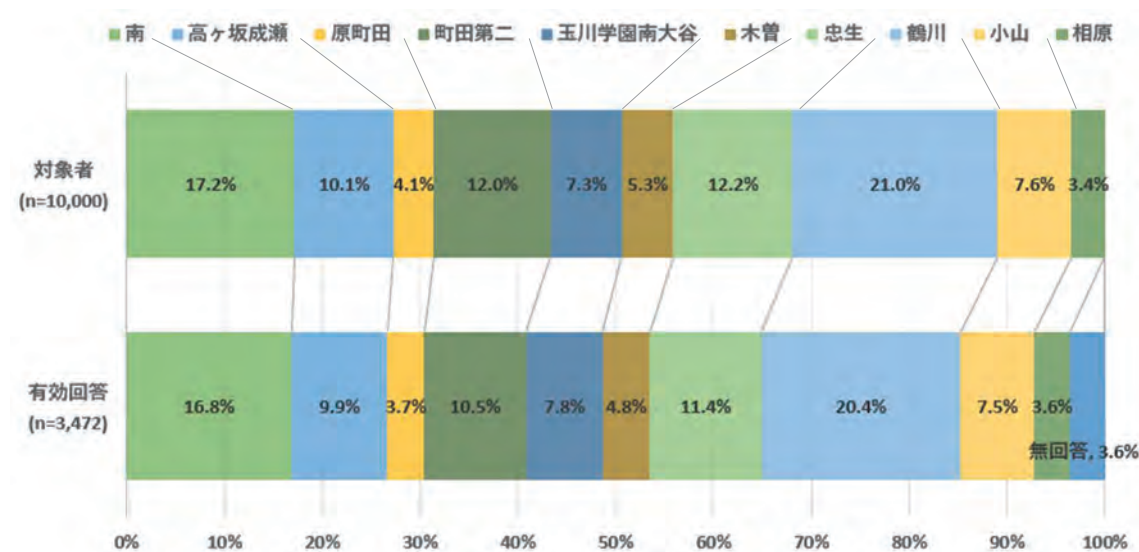
◆ 年齢 男性



◆ 年齢 女性



◆ 居住地区



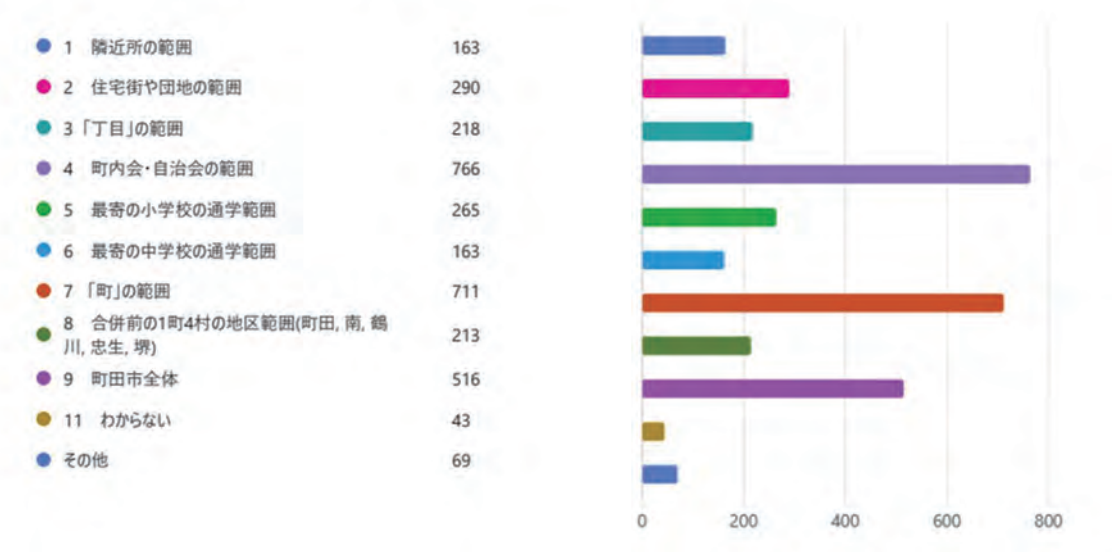
5. 地域区分

郵便番号で回答を収集し、それを地区協議会のエリアに基づいて層化した。

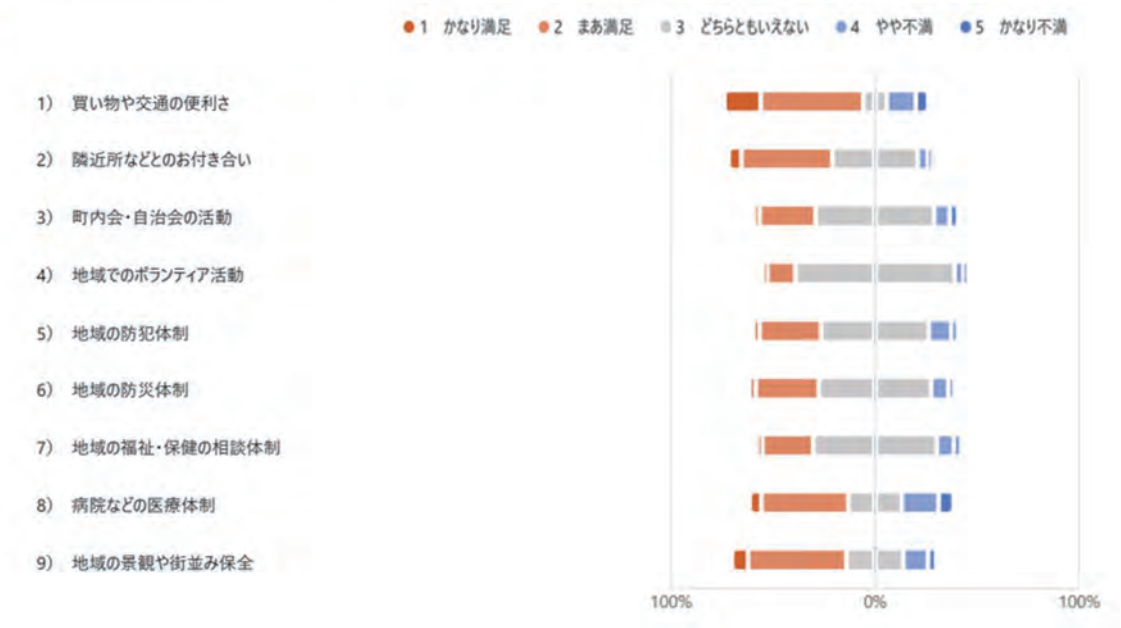
II. 調査結果

- ※ この調査結果を示すグラフは、中間報告における暫定的なまとめとして、基本的にマイクロソフトフォームズが自動生成した画像を利用しています(ただし一部編集・変更したものもあります)。そのため以下の点にご留意ください。
- マイクロソフトフォームズの仕様により「無回答」は反映されていません。つまり、無回答を除いた回答数を分母として割合が算出されグラフ化されています。
 - 分岐設問では、回答該当者数を n として追記しました。回答非該当者の回答が含まれている場合があることや、無回答が反映されていないことなどにより、 n とグラフ上の全数とはわずかに異なる場合があります。
 - 「その他」の選択肢には番号が付与されておらず、また最後列に表示されていません。そのため、選択肢の番号が必ずしも連番ではありません。

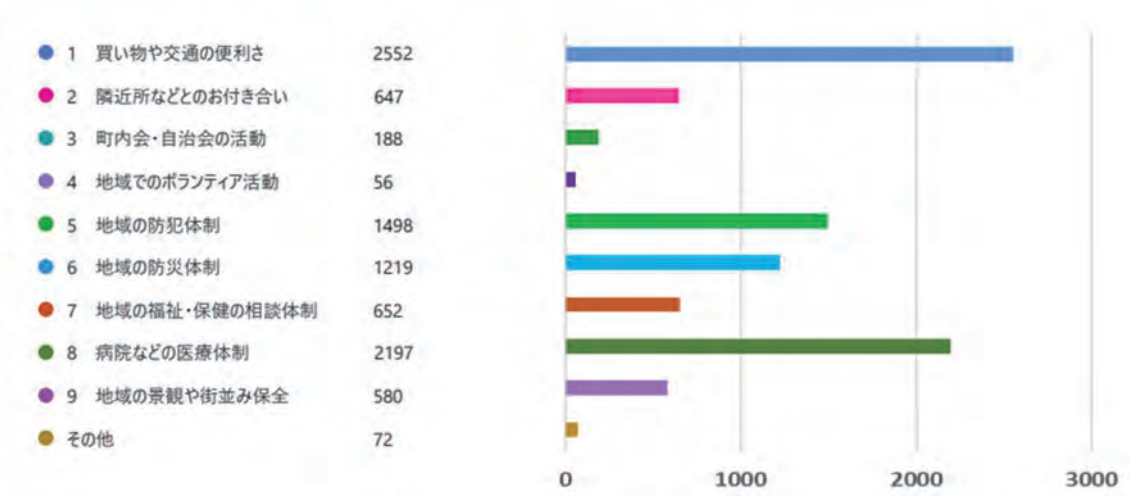
1.【問1】あなたは、自分が住んでいる「地域」という場合に、どの程度の範囲をイメージしますか。



2.【問2】あなたは、あなたが現在 お住まいの地域 での暮らしやすさについて、どの程度満足していますか。

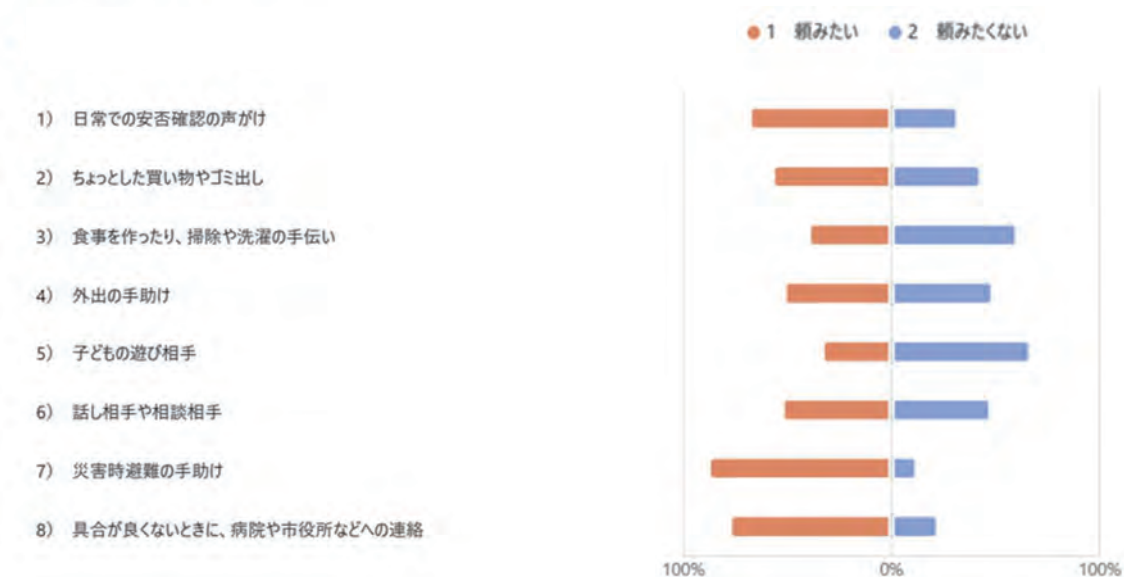


3. 【問3】あなたは、お住まいの地域 で安心して暮らしていくためには、特にどのようなことが重要だと思いますか。

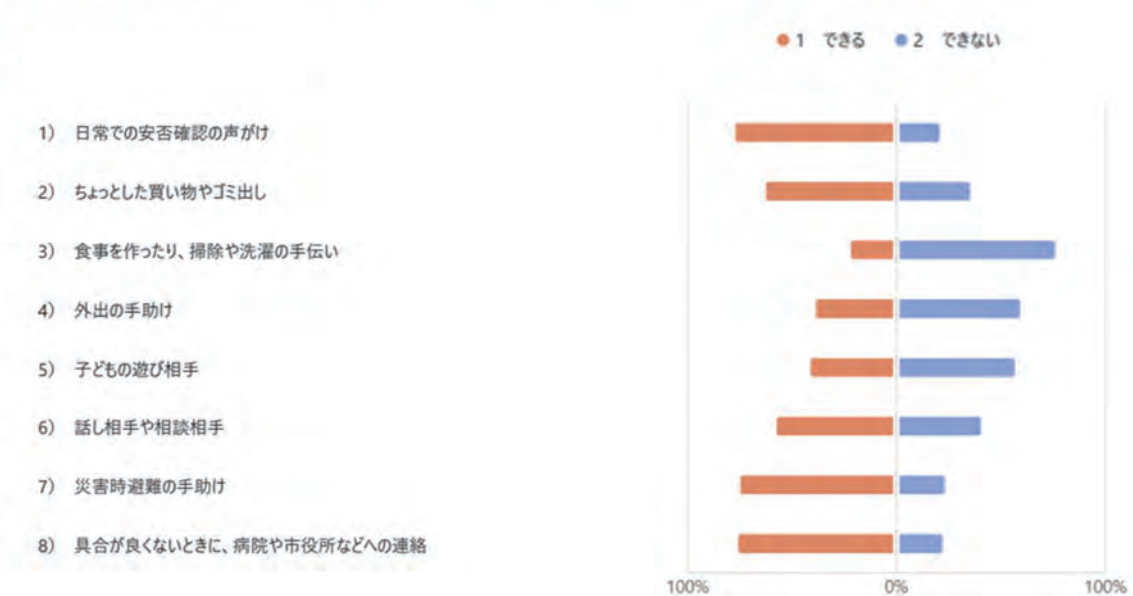


4. 日常生活に関することについて、お伺いします。

【問4-①】あなたがこれから、病気や事故で日常生活が不自由になったときや、高齢になったときに、お住まいの地域 に頼みたいと思うことはありますか。



6.【問4-②】あなたの お住まいの地域 で、日常生活を送るうえで高齢、障がい、子育てなどで困っている方がいた場合、頼まれたらできることはありますか。

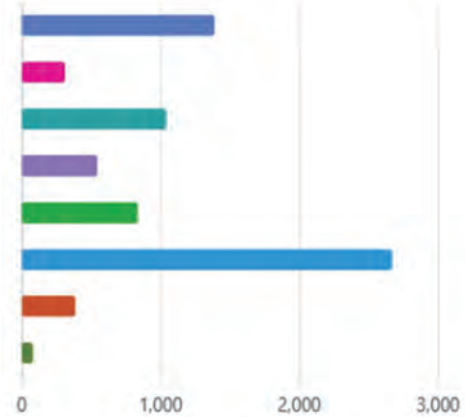


8.【問5】あなたには、お住まいの地域 に、いざというとき助け合える人や、信頼して相談できる人がいますか。



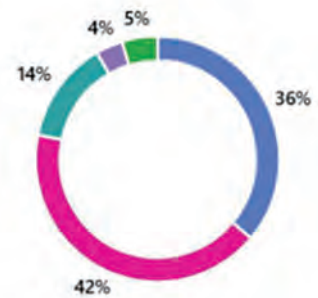
9. 【問6】お住まいの地域 で住民同士の信頼感や助け合い意識を高めるには、どのようなきっかけがあったら効果的だと思いますか。

1 行事やサークル等、身近な交流や親睦の機会がある	1385
2 地域の公園などを共同で管理する	308
3 防災や防犯など地域の問題の解決に、一緒に取り組む	1037
4 身近なテーマについて、一緒に学べる講習会等がある	541
5 地域の高齢者や子どもの見守りやお世話を一緒に行う	831
6 あいさつや声を掛け合う	2664
8 わからない	383
その他	77



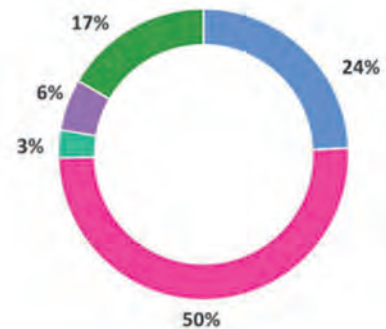
10. 【問7】お住まいの地域 に対して愛着や親しみを感じていますか。

1 感じている	1249
2 やや感じている	1453
3 あまり感じていない	467
4 感じていない	124
5 わからない	162



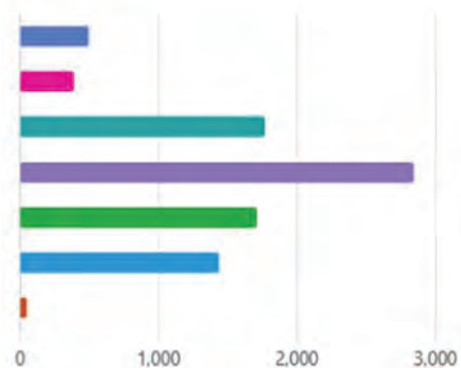
11. 【問8】これからも、現在 お住まいの地域 に住み続けたいと思いますか。

1 ぜひ、住み続けたい	839
2 できれば、住み続けたい	1740
3 町田市内の他の地域へ住み替えたい	104
4 町田市外に移りたい	199
5 わからない	573



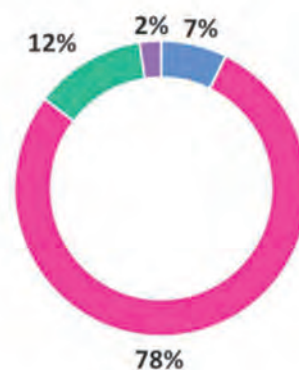
12.【問9】今度は特に、隣近所の方々 とのお付き合いについて伺います。あなたは、隣近所の方々 と、どの程度のお付き合いをしていますか。

1 家を行き来したり、一緒に出かけたりする人 がいる	493
2 たがいに相談するなど、生活面で協力し合っ ている人がある	386
3 立ち話をする人がある	1764
4 会ったらあいさつをする人がある	2839
5 顔を知っているだけの人がいる	1706
6 全く顔も知らない人がいる	1432
その他	45

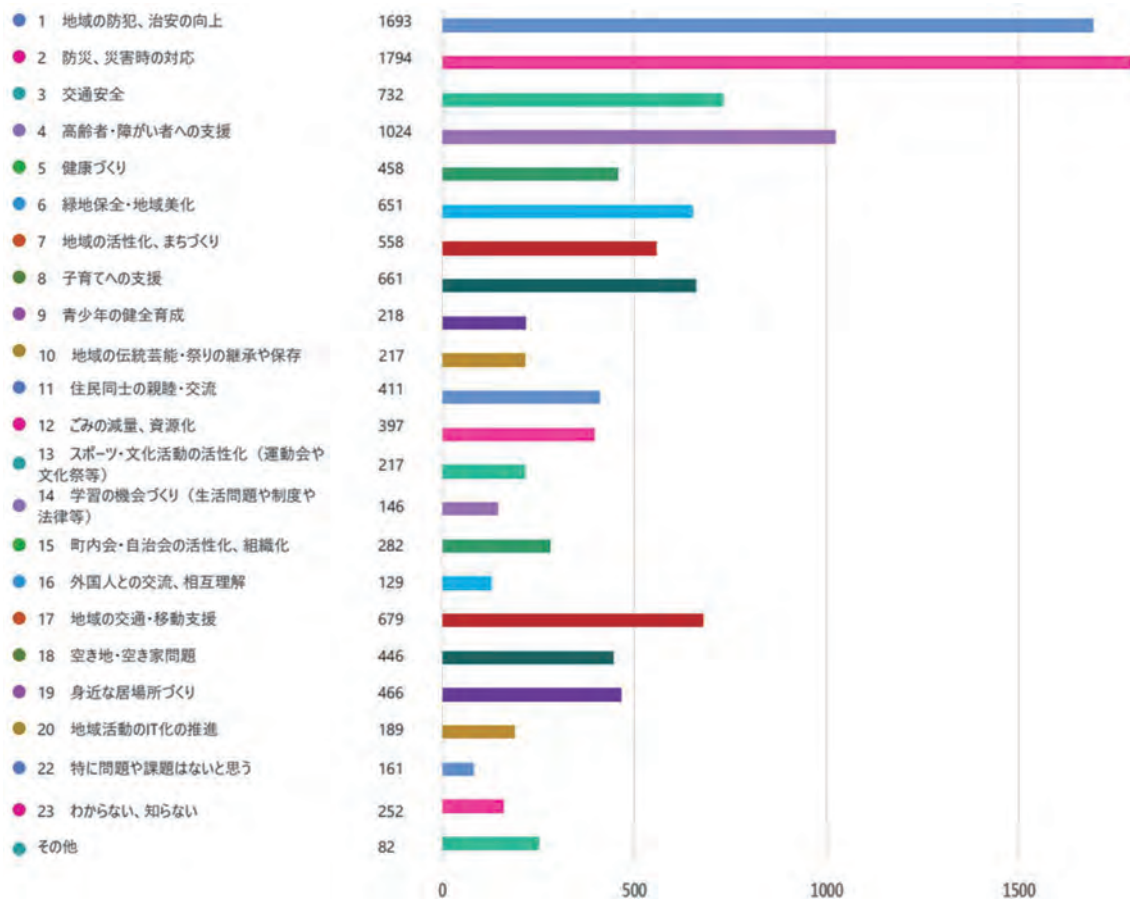


13.【問10】あなたは今後、隣近所の方々 と、どの程度のお付き合いをしていきたいですか。

1 積極的に付き合いたい	251
2 ほどほどに付き合いたい（問9の3や4程度）	2698
3 あまり付き合いたくない	423
4 全く付き合いたくない	82

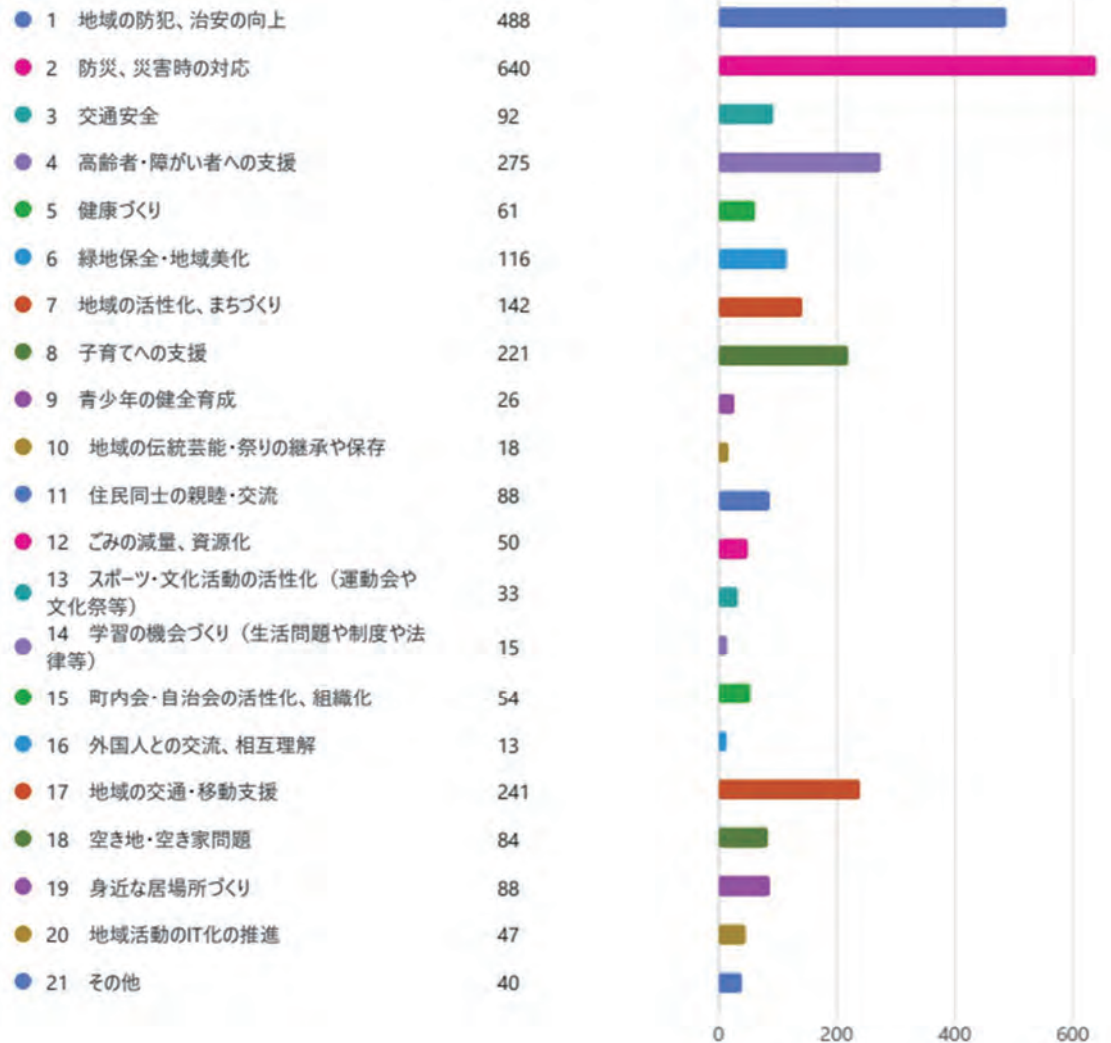


14.【問11】あなたが関心をもっている お住まいの地域 の課題は何ですか。



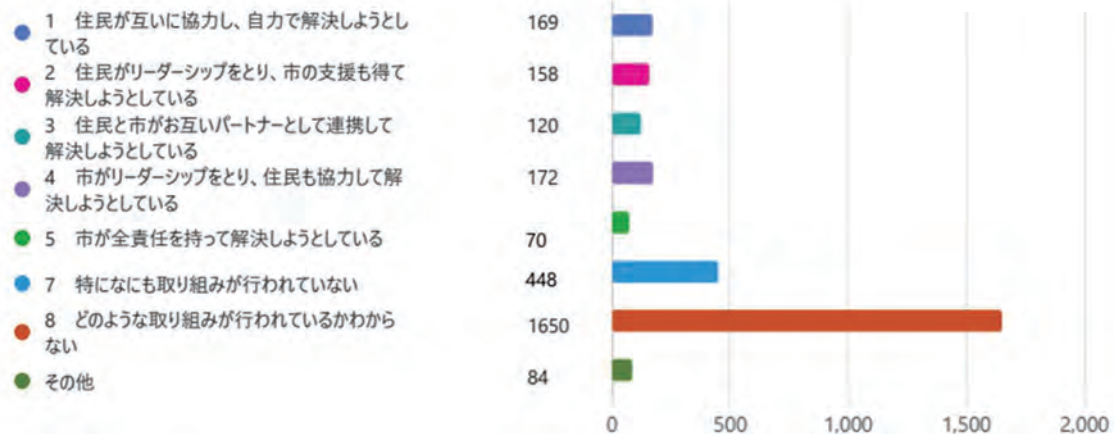
15. 【問11-1】問11で○をつけた地域課題の中で、当面、最も関心のある課題は何ですか。

n=3073

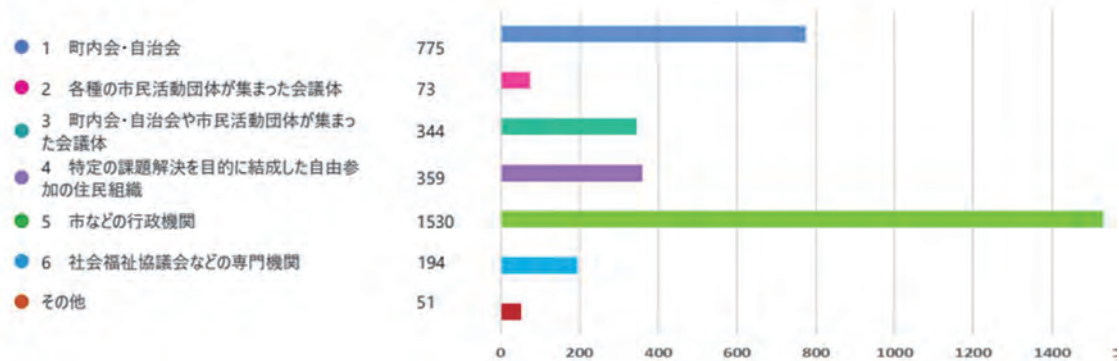


16. 【問11-2】問11-1で選択した課題に対して、現在、解決に向けた取り組みがどのように行われていますか。

n=3073



17.【問12】今後、あなたの お住まいの地域 で、課題解決のために住民の合意を形成していくには、どんな組織が中心となって取り組むべきだと思いますか。



18. <町内会・自治会について>

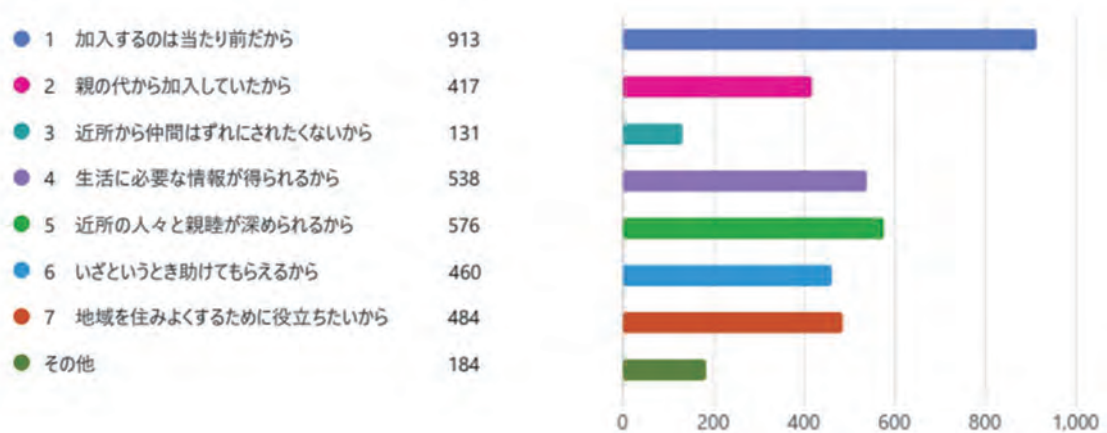
【問13】あなたの世帯では、町内会・自治会に加入していますか。

1 加入している	2059
2 加入していない	1387



19.【問13-1】町内会・自治会に加入している理由は何ですか。

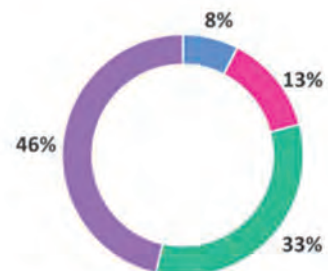
n=2059



20. 【問13-2】ふだんの町内会・自治会との関わり方についておうかがいします。

n=2059

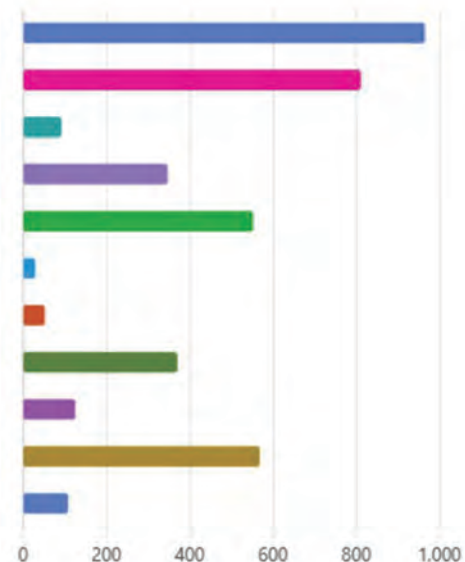
1 組織の役員や活動のリーダー役をできるだけ引き受けて活動している	149
2 会合や行事などの際は、できるだけ手伝うようにしている	266
3 都合がつくときは、行事や総会などに顔を出すようにしている	649
4 会合や活動には、ほとんど参加していない	922



21. 【問13-3】あなたの世帯が加入している町内会・自治会では、現在、どのような組織の運営や活動上の課題がありますか。
なお、直接あなたが経験したこと、他の人から伝え聞いたこと、いずれでも結構です。

n=2059

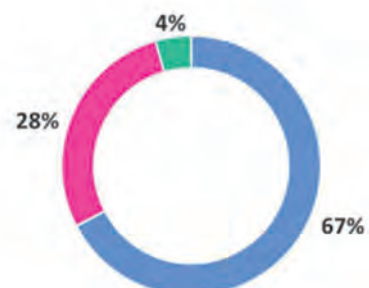
1 役員を引き受ける人が少なくなってきた	964
2 会員が高齢化して、活動全般の運営が滞ってきた	810
3 従来からのリーダー層と、若い世代や転入者のリーダー層との間で、運営や活動の仕方を巡って摩擦が起きてきた	91
4 個人情報の取り扱いが厳しくなり、会員の連絡網づくりや、災害時等に援助が必要なお宅の確認が難しくなってきた	346
5 退会を申し出る会員が増加してきた	551
6 町内会館や集会所の維持管理について、会員の合意が得られない	28
7 地域の事業者や住民等からの寄付が減少してきた	51
8 新規転入世帯に加入の勧誘をしても、断られることが増えてきた	369
9 特定の人たちが長く役職についていて自由な議論や企画提案がしにくい	124
11 わからない	567
その他	107



22. 【問13-4】現在 お住まいの地域で町内会・自治会に加入していたことはありますか。

n=1387

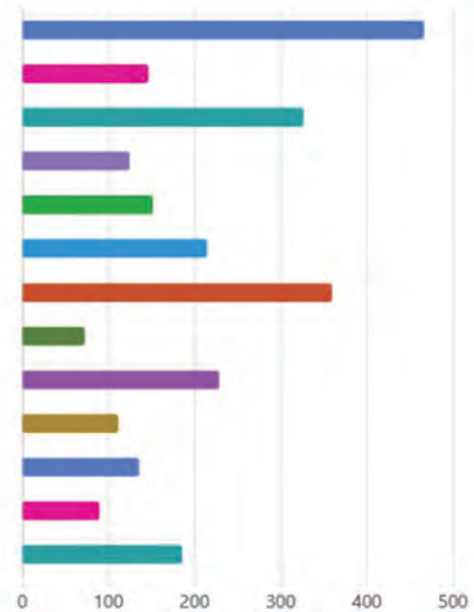
1 一度も加入したことはない	923
2 加入していたが、退会した	386
その他	61



23. 【問13-5】町内会・自治会に加入していない理由は何ですか。

n=1387

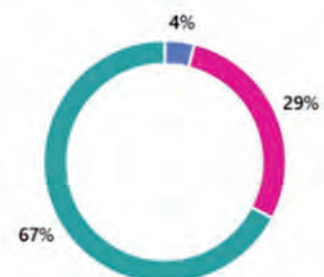
1 活動時間を取ることができないから	466
2 近所の人と関わるのが面倒だから	146
3 加入するきっかけがないから	326
4 申込方法がわからないから	124
5 会費を負担したくないから	152
6 町内会・自治会の活動の必要性を感じていないから	215
7 役員になると忙しくて大変だから	359
8 今住んでいる所に長く住むつもりがないから	72
9 町内会・自治会の活動に制約されたくないから	228
10 町内会・自治会の雰囲気になじめないから	111
11 町内会・自治会があることを知らなかった	135
12 住んでいる地域に町内会・自治会がない	89
その他	187



24. <地区協議会について>

【問14】町田市では、町内会・自治会や地域の諸団体、住民の方々などが集まって、各地区ごとに（市内で10地区）「地区協議会」というネットワーク組織を設置しています。あなたは「地区協議会」をご存知ですか。

1 内容まで含めて知っている	134
2 名前は知っている	973
3 知らない	2288



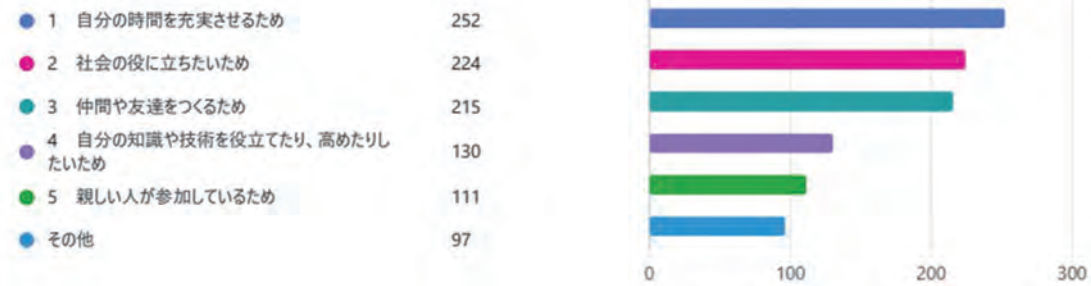
25. <町内会・自治会以外の地域活動について>

【問15】町内会・自治会の他に、現在、参加されている地域住民等による自主的な活動はありますか。



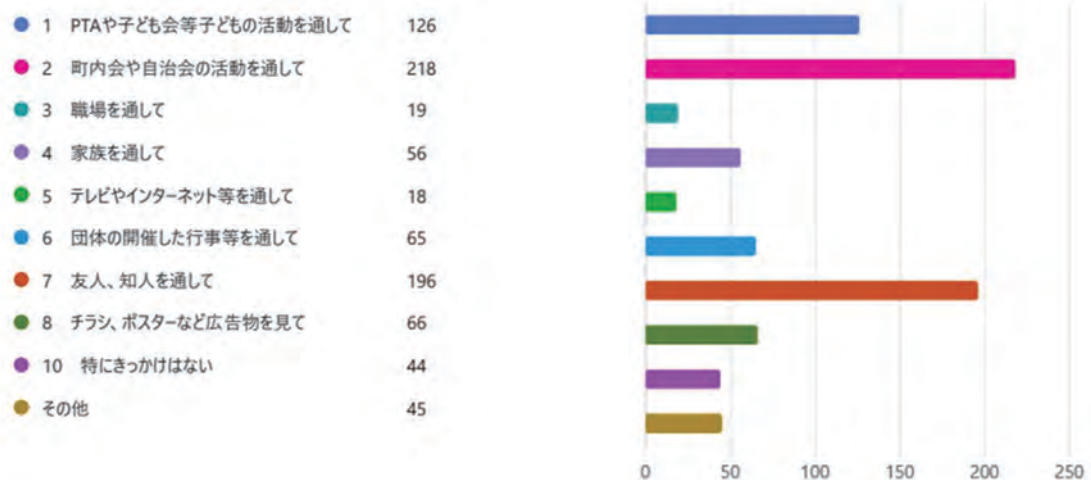
26. 【問15-1】活動に参加している理由は何ですか。

n=646



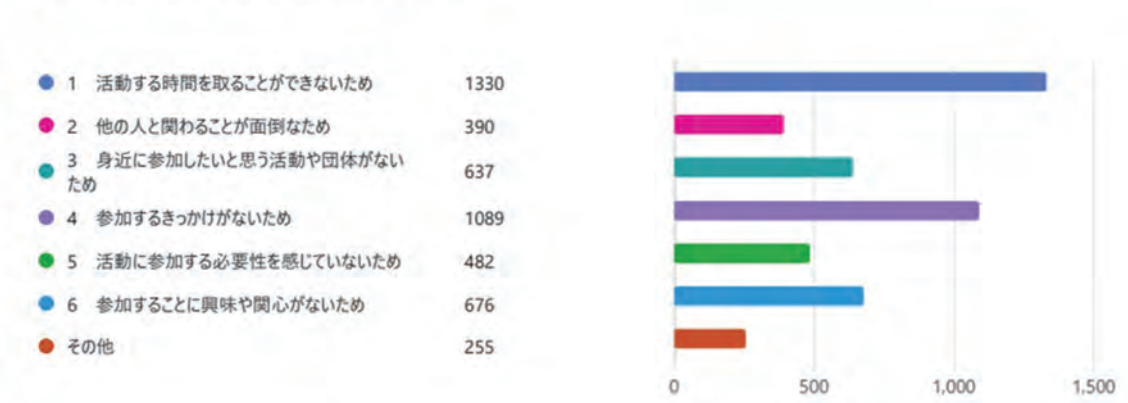
27. 【問15-2】活動に参加するようになった直接のきっかけは何ですか。

n=646



28. 【問15-3】活動に参加していない理由は何ですか。

n=2740



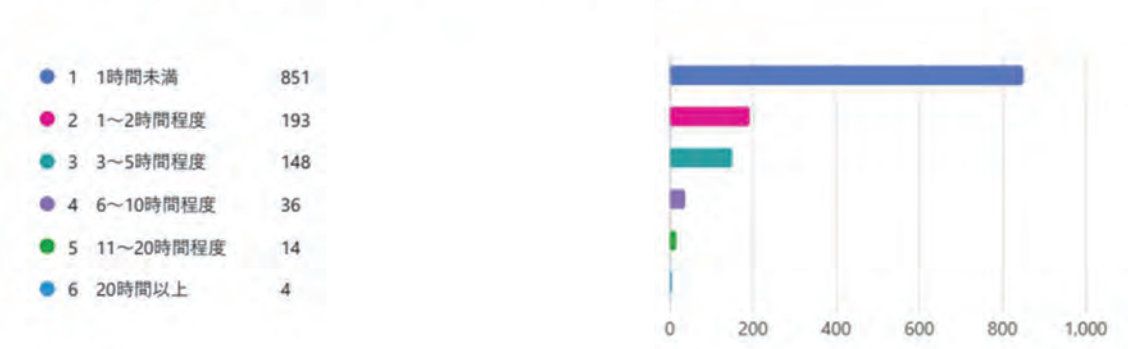
30. 【問16】あなたが、お住まいの地域で参加している活動のグループ・団体の数はいくつですか。

n=2195



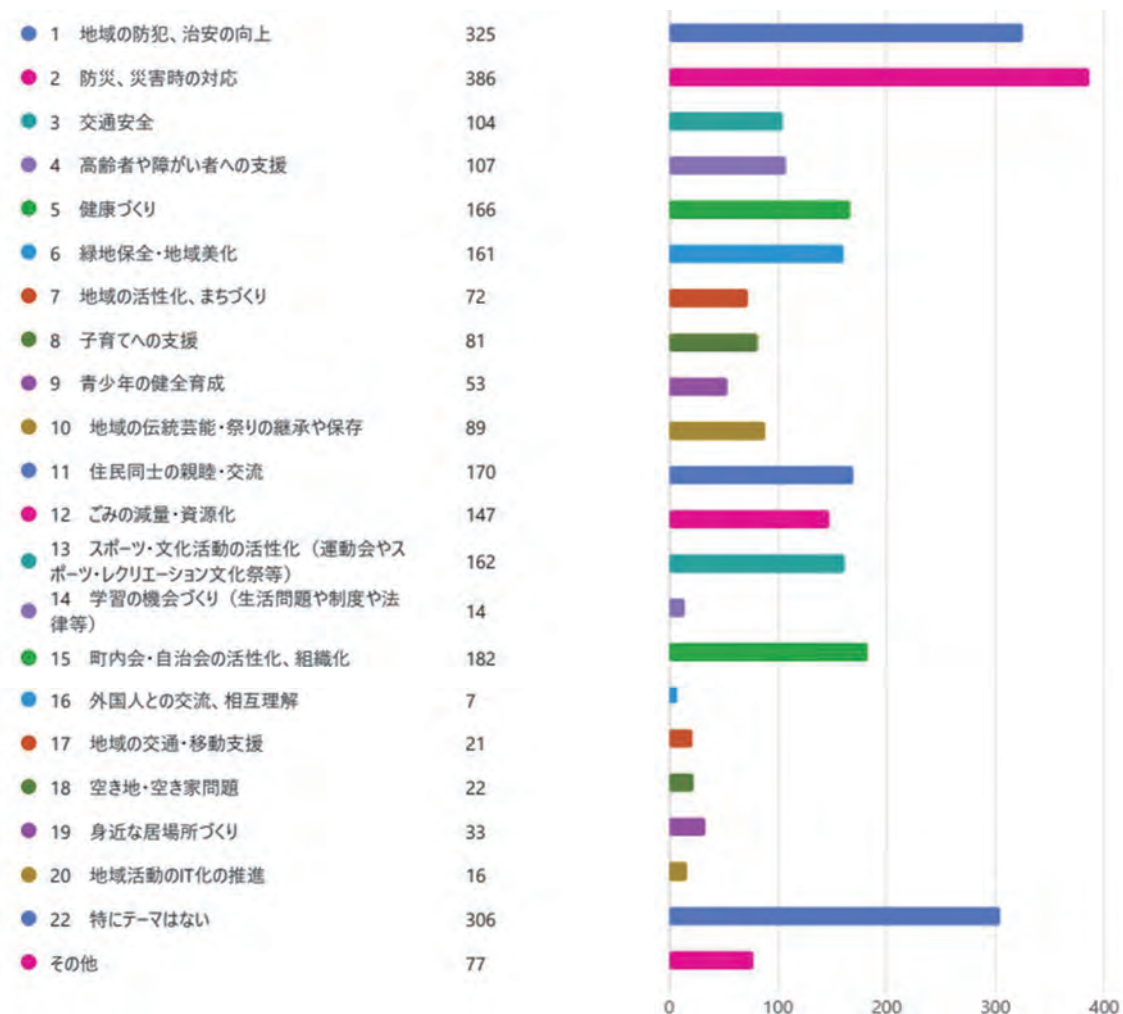
31. 【問17】あなたは、お住まいの地域で、活動に参加する時間が1週間にどのくらいありますか。

n=2195

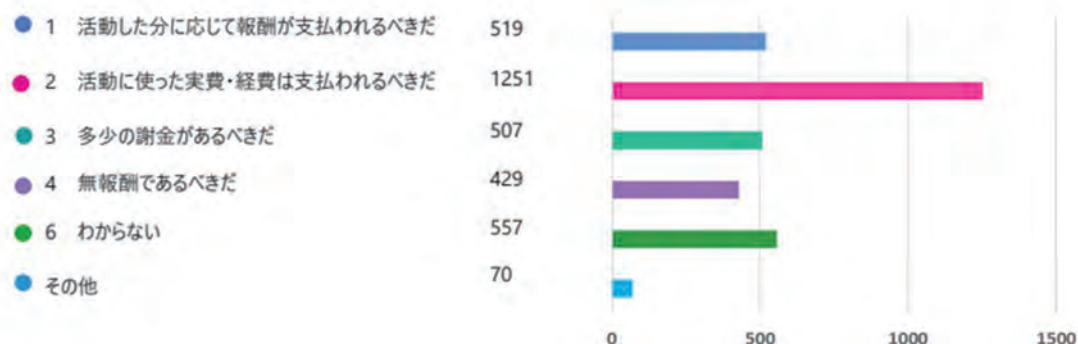


32. 【問18】あなたが お住まいの地域 で現在取り組んでいる主な活動テーマは何ですか。

n=2195

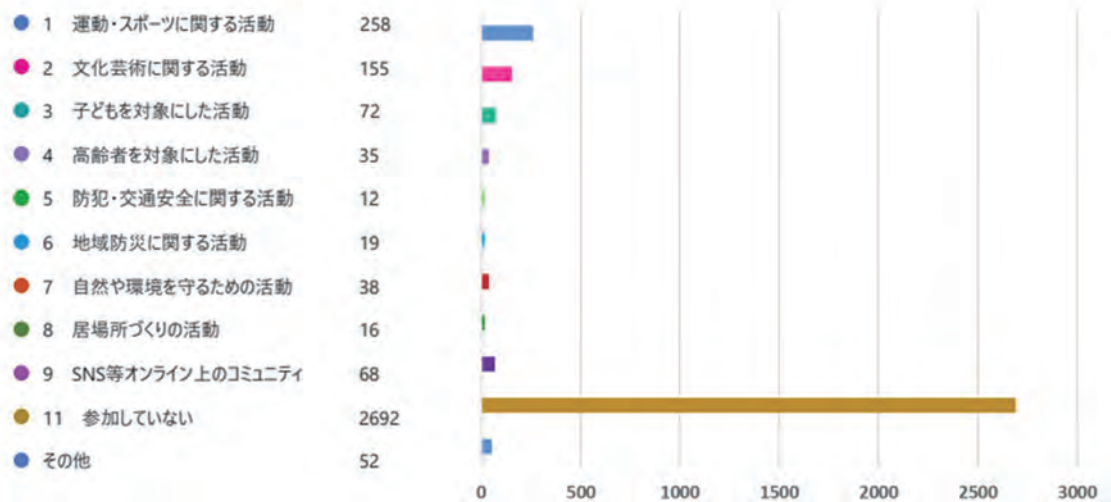


33. 【問19】あなたは、お住まいの地域で公益的な活動（町内会・自治会の役員や街の清掃など）に参加する場合、報酬については一般論としてどうあるべきだと思いますか。

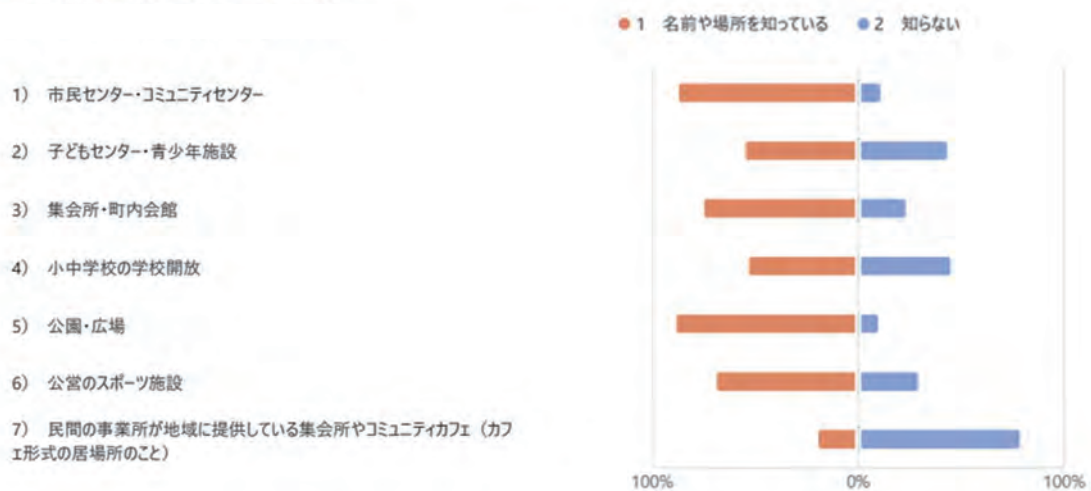


34. < お住まいの地域以外 の活動について >

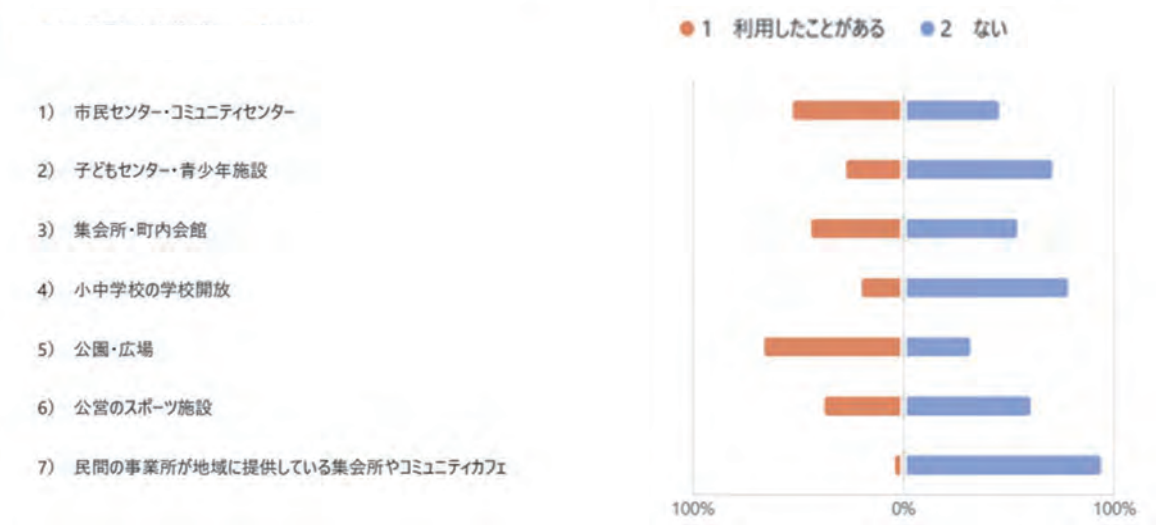
【問20】あなたは、お住まいの地域以外 で、何かサークルやボランティア等の自主的な活動に参加していますか。



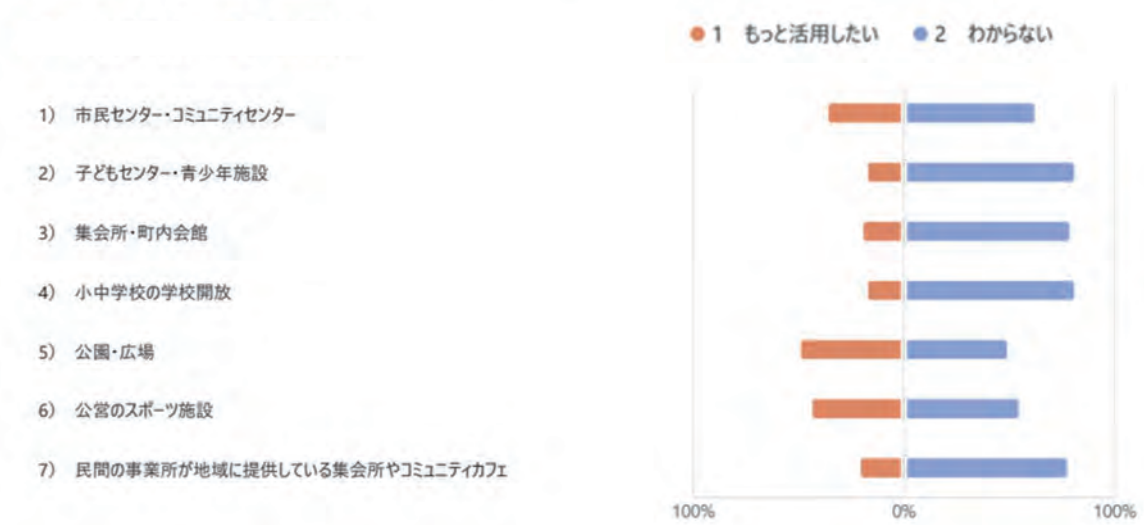
35. 【問21-①】自主的な活動に利用できる次の施設について、具体的に名前や場所を知っていますか。



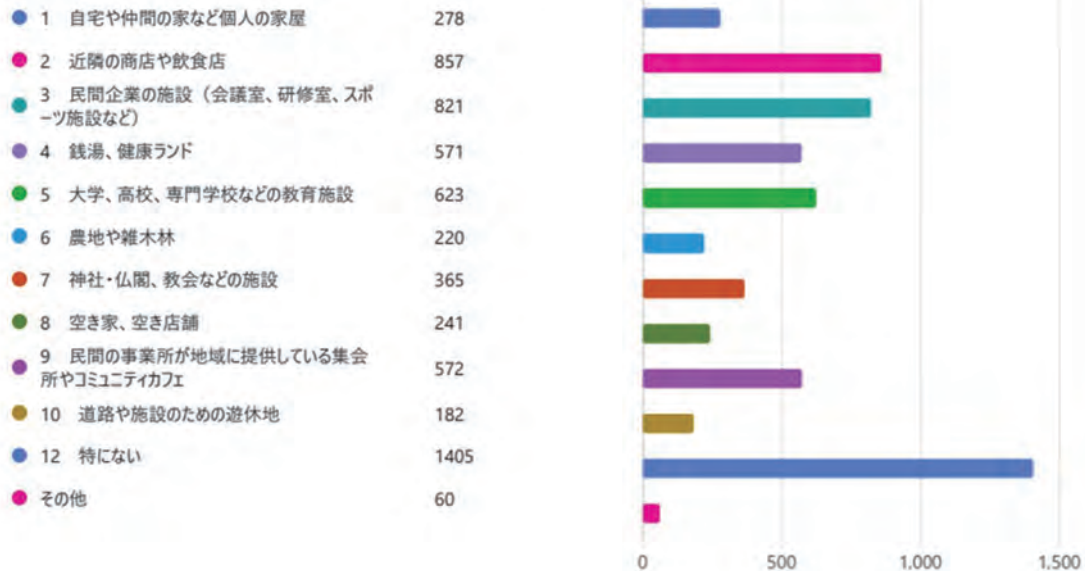
36.【問21-②】自主的な活動に利用できる次の施設について、町内会・自治会や地域の自主活動等で利用したことがありますか。



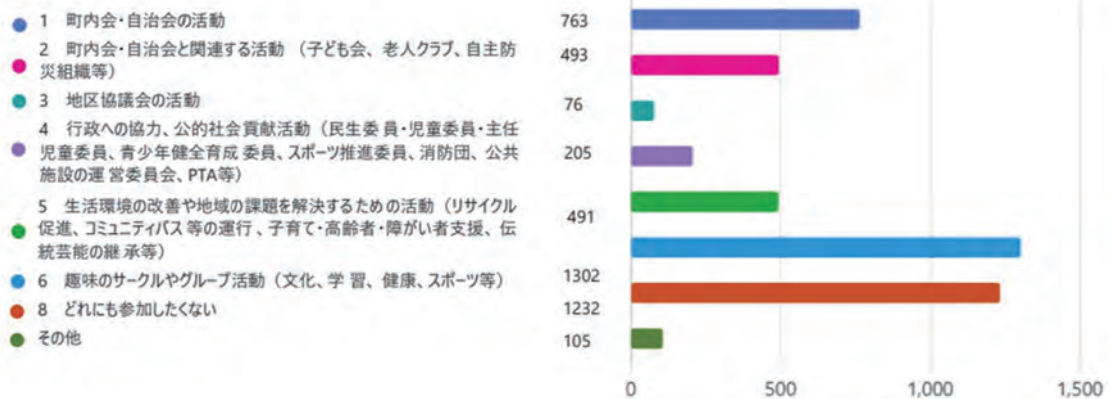
37.【問21-③】自主的な活動に利用できる次の施設について、今後、もっと活用したいですか。



38. 【問22】お住まいの地域の中で、自主的な活動のために利用したい場所がありますか。

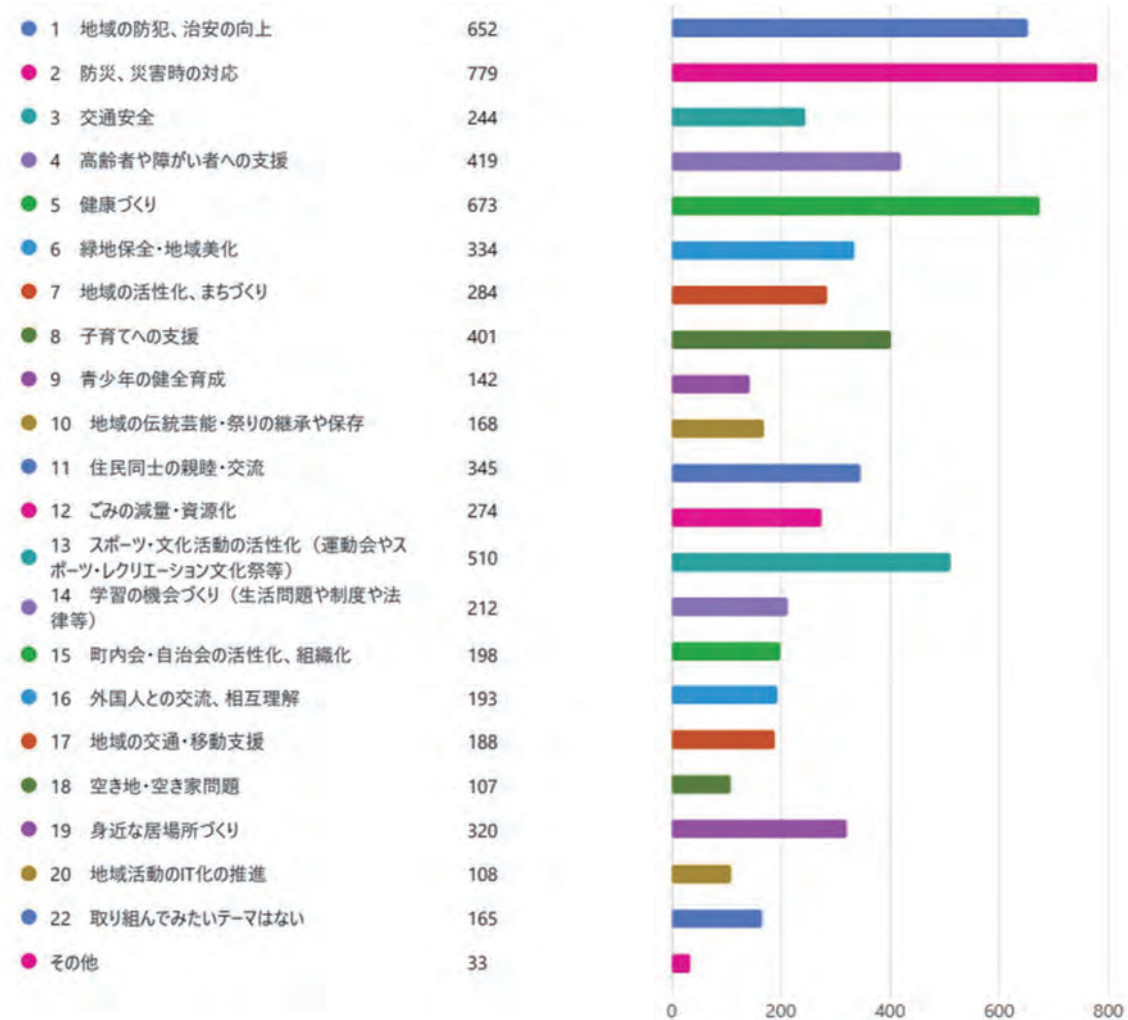


39. 【問23】あなたは、今後4～5年を見通して、お住まいの地域でどのような種類の地域活動に参加したいと思いますか。ただし、「現在参加しており今後も活動を継続するもの」も含めてお答えください。



40. 【問23-1】今後、参加する活動で特に取り組みたいと思うテーマは何ですか。なお、「現在参加しており、取り組んでいるテーマを継続する」場合も含めてお答えください。

n=2127



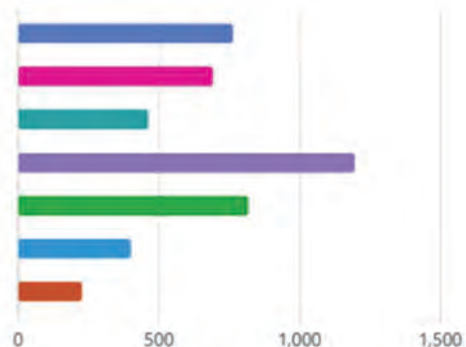
41. 【問24】お住まいの地域の活動が、もっと参加しやすいものとなるためには、どのようなことが必要だと思いますか。

1 活動に関する情報をもっとPRする	1487
2 活動の内容がマンネリ化しないよう魅力的なものにする	642
3 参加しやすい曜日や時間を設定する	1083
4 活動内容や役割を選べるようにする	646
5 役員やリーダーを任期制にするなど、特定の人にずっと負担がかからないようにする	726
6 成果や貢献が具体的に見えたり、実感できるように工夫する	404
7 しがらみがあって参加したらやめられないなど、閉鎖的な雰囲気をつくす	1132
8 会員にならなくても、活動メンバーとして参加できるようにする	1209
9 特定のイベントのみの参加、インターネット上での参加など、多様な参加方法を用意する	995
10 地域内の様々な住民組織、活動団体が連携して、一緒に取り組める活動をする	215
11 参加した人が、なんらかのメリットを得られるようにする	675
12 参加者の意見を尊重し、民主的な運営をする	453
14 わからない	519
その他	108



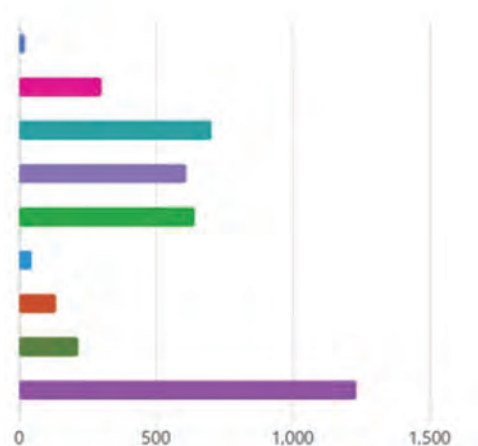
42. 【問25】仮にあなたが お住まいの地域 の活動に参加するとしたら、どのような曜日、時間帯が参加しやすいですか。

1 平日の午前	762
2 平日の午後の昼間	689
3 平日の夜間	461
4 週末や祝日の午前	1194
5 週末や祝日の午後の昼間	816
6 週末や祝日の夜間	399
その他	225



43. 【問26】同居されている方に、次のような方はいますか。

1 妊産婦	20
2 小学校入学前の乳幼児	300
3 小学生・中学生・高校生など	702
4 65～74歳の方	609
5 75歳以上の方	640
6 「ひきこもり」の状態にある方	43
7 日常生活を送る上で介助を必要とする方	134
8 心身に障がいのある方	215
9 該当する人はいない	1231

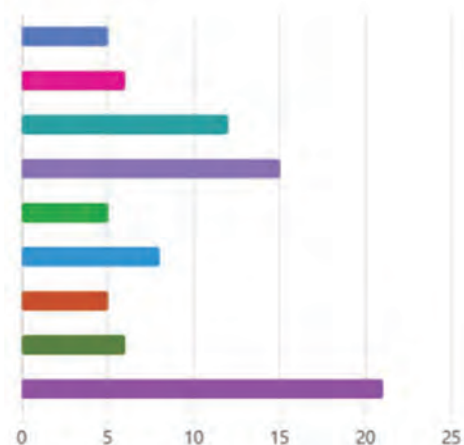


(*仕事や学校に行かず、かつ家族以外の人と交流をほとんどせずに、6か月以上自宅に引きこもっている状態にある方)

44. 【問26-1】「ひきこもり」の状態にある方の年齢は次のどれですか。

n=43

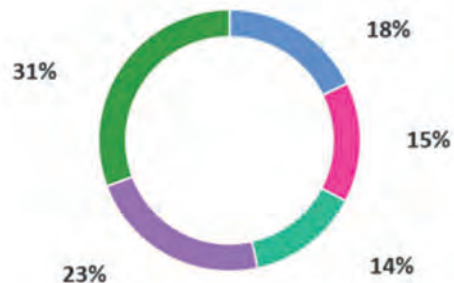
1 小学生・中学生	5
2 10歳代 (中学校卒業後)	6
3 20歳代	12
4 30歳代	15
5 40歳代	5
6 50歳代	8
7 60歳代	5
8 70歳以上	6
9 わからない	21



45. 【問26-2】ご家族がひきこもりの状態にある方にどのような支援を望むか、最もあてはまるものを選択してください。

n=43

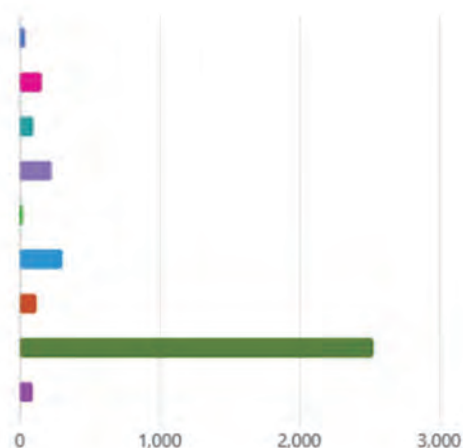
- | | |
|------------------------------------|----|
| 1 家族や本人の悩み相談を聞いてほしい | 18 |
| 2 本人に合いそうな就労先、就労訓練機関を紹介してほしい | 15 |
| 3 本人に合いそうな居場所・コミュニティ・サークル等を紹介してほしい | 14 |
| 4 本人に合いそうな医療機関やカウンセリング機関を紹介してほしい | 23 |
| 5 そっとしておいてほしい | 31 |



46. 【問27-①】あなたが、毎日のくらしのなかで、困っていることはありますか。

①健康のこと

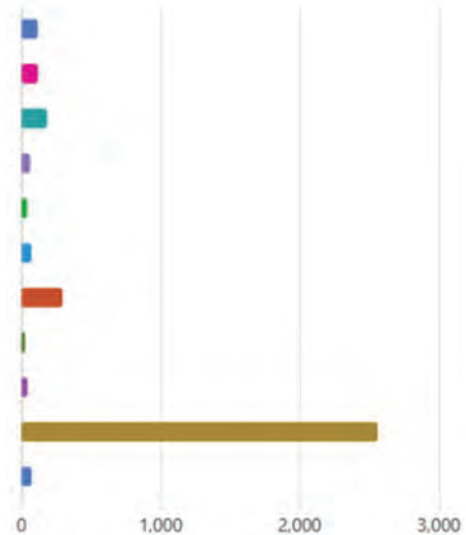
- | | |
|-------------------------------|------|
| 1 一人で通院するのが難しいが、付き添ってくれる人がいない | 36 |
| 2 健康について気になることがあるが、相談先がわからない | 155 |
| 3 病気で、働くことができない | 95 |
| 4 身近に専門的な治療を行う病院がない | 225 |
| 5 薬の管理が苦手で、自分で薬の管理ができない | 18 |
| 6 通院・治療費用が大きな負担になっている | 303 |
| 8 上記の困りごとについて家族が困っている | 117 |
| 9 特にない | 2527 |
| その他 | 91 |



47.【問27-②】あなたが、毎日のくらしのなかで、困っていることはありますか。

②子育てのこと

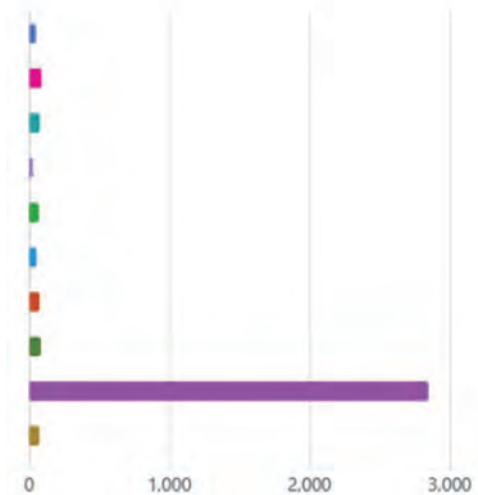
1	子育てで、十分に休養・睡眠がとれない	114
2	子育てで、自由に外出できない	115
3	子育てで、余暇や趣味の時間を持ってない	181
4	子育てで、働くことができない	58
5	子育ての相談をできる人がいない	37
6	子育てを手助けしてくれる人がいない	68
7	養育・進学費用が大きな負担になっている	292
8	子どもがひきこもり・不登校である	23
10	上記の困りごとについて家族が困っている	40
11	特にない	2556
その他		70



48.【問27-③】あなたが、毎日のくらしのなかで、困っていることはありますか。

③介護のこと

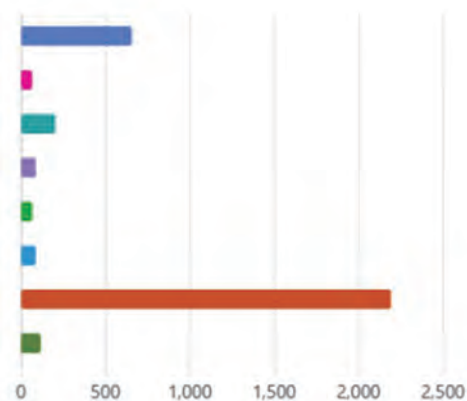
1	介護で、十分に休養・睡眠がとれない	45
2	介護で、自由に外出できない	84
3	介護で、余暇や趣味の時間を持ってない	73
4	介護で、働くことができない	21
5	介護の相談をできる人がいない	64
6	介護を手助けしてくれる人がいない	49
7	介護費用が大きな負担になっている	71
9	上記の困りごとについて家族が困っている	80
10	特にない	2843
その他		69



49. 【問27-④】あなたが、毎日のくらしのなかで、困っていることはありますか。

④経済的なこと

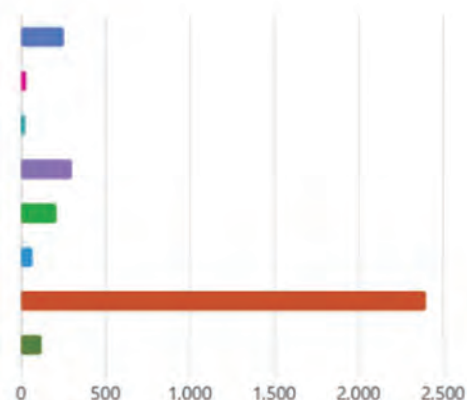
1 仕事をしているが、収入が十分でない	654
2 求職中のため収入がない	64
3 仕事をしていないため、収入がない	201
4 仕事をしていない親族の生活費を負担している	86
5 家計管理が苦手であり、生活に支障が出ている	64
7 上記の困りごとについて家族が困っている	85
8 特にない	2188
その他	114



50. 【問27-⑤】あなたが、毎日のくらしのなかで、困っていることはありますか。

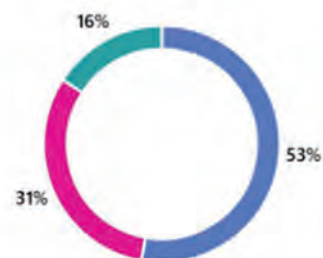
⑤住まいのこと

1 家賃が高く、大きな負担になっている	252
2 住まいを借りたいが、保証人になってくれる人がいない	28
3 住まいを借りたいが、自身の年齢や障がいなどで借りられない	21
4 住まいが老朽化しているが、住み替え・改築ができない	299
5 段差などに不安があるが、住まいがバリアフリーになっていない	207
7 上記の困りごとについて家族が困っている	66
8 特にない	2396
その他	119



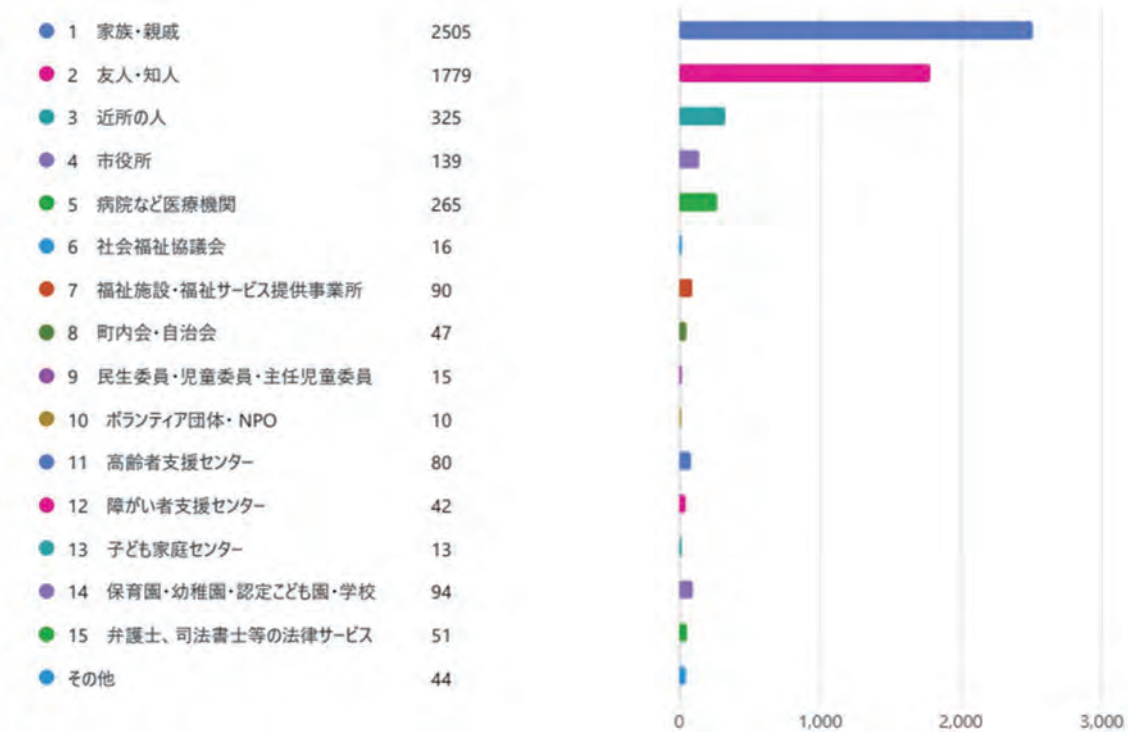
52. 【問28】あなたは、悩みごとや困りごとを相談できる相手（機関も含む）はいますか。

1 身近にいる（徒歩30分未満）	1948
2 遠くにいる（徒歩30分以上）	1157
3 いない	586

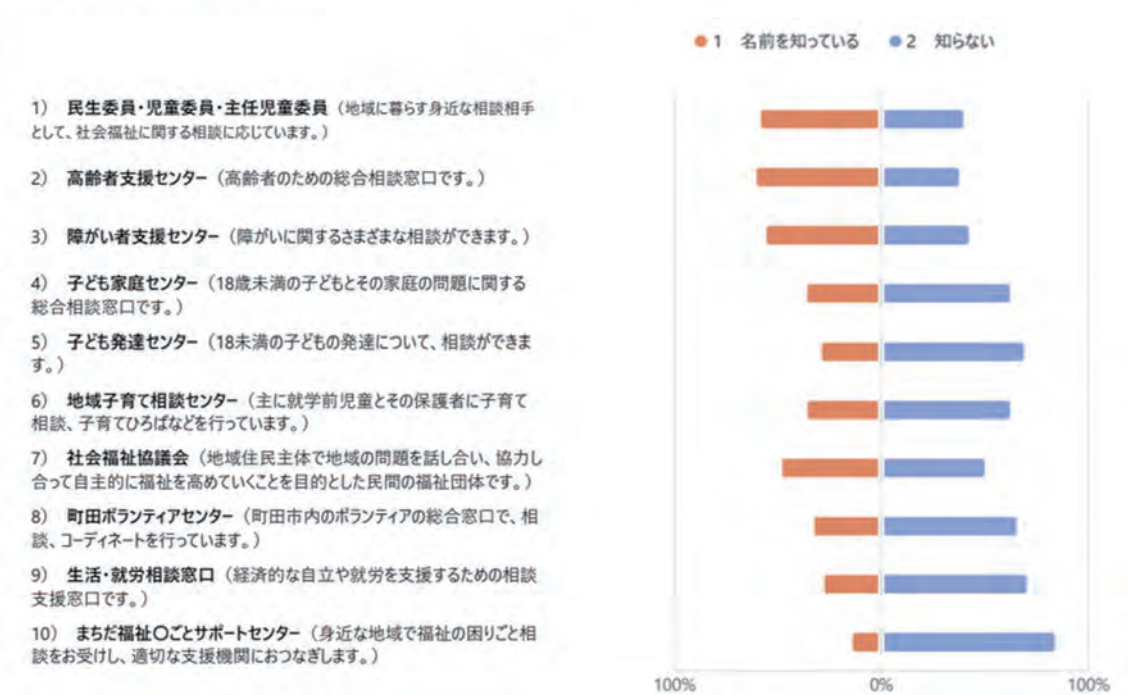


53.【問28-1】あなたの相談できる相手は、誰ですか。

n=2754



54.【問29-①】あなたは、次の福祉に関わる相談窓口・機関などの名前を知っていますか。



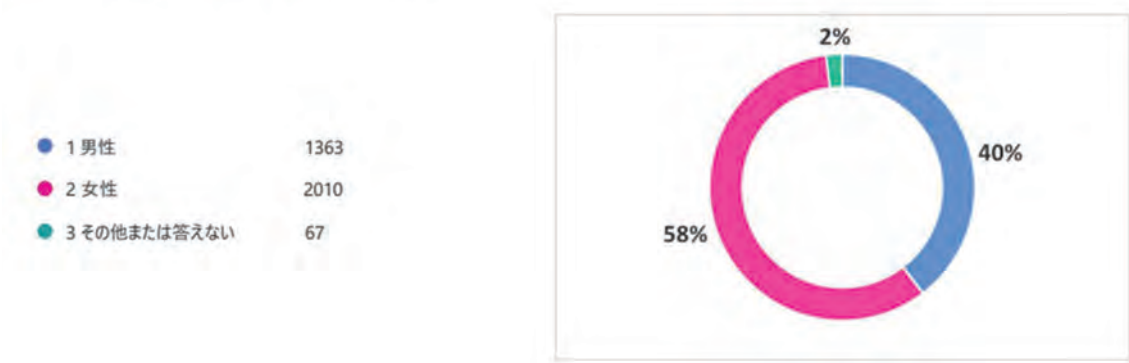
55. 【問29-②】あなたは、次の福祉に関わる相談窓口・機関を利用したことがありますか。



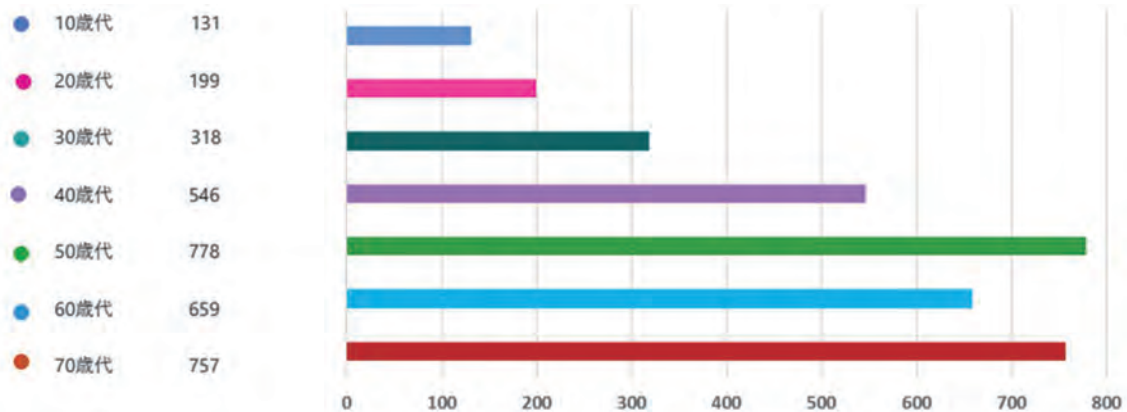
56. 【問29-③】あなたは、次の福祉に関わる相談窓口・機関を利用したいですか。



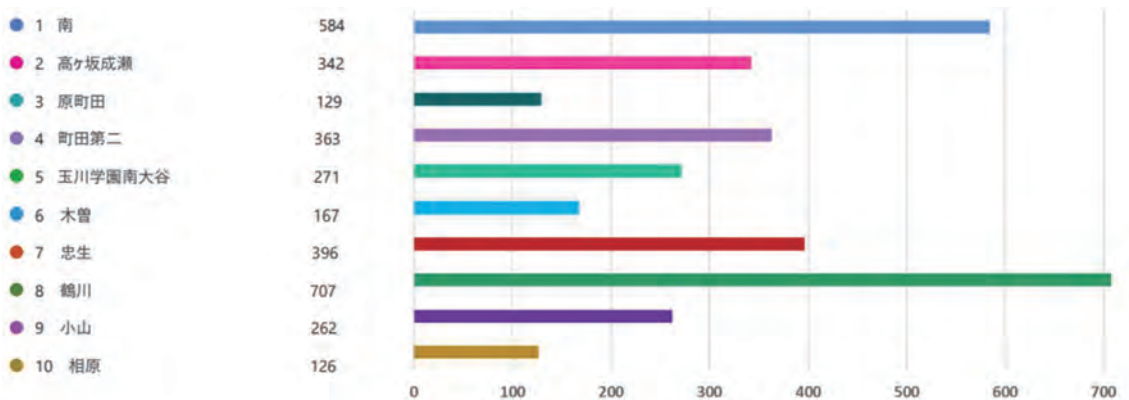
57.【問30】あなた（あて名のご本人）の性別を教えてください。



58.【問31】あなたの2024年10月1日現在の年齢を教えてください。（※グラフは10歳単位で層化しました）

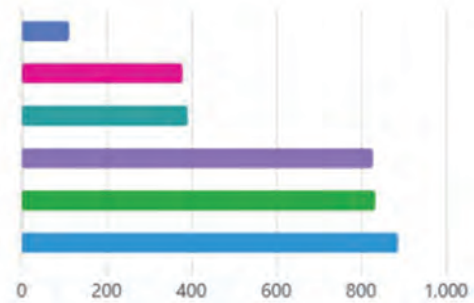


59.【問32】あなたのお住まいの郵便番号を教えてください。（※グラフは地区協議会のエリアで層化しました）



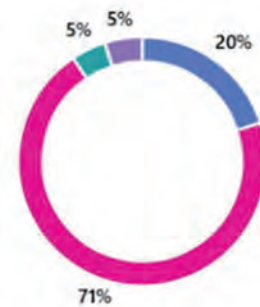
60. 【問33】あなたは現在 お住まいの地域 にどのくらい住んでいますか。

1	1年未満	111
2	1年以上5年未満	378
3	5年以上10年未満	390
4	10年以上20年未満	828
5	20年以上30年未満	831
6	30年以上	887



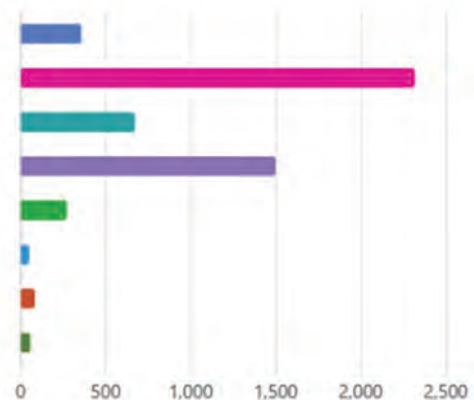
61. 【問34】あなたに配偶者（パートナーを含む）はいますか。

1	未婚	678
2	配偶者（パートナー）あり	2404
3	死別	154
4	離別	166



62. 【問35】現在あなたと一緒にお住まいの方を選択してください。

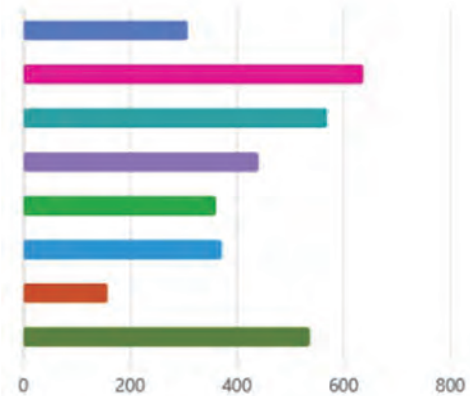
1	一人で住んでいる	354
2	配偶者	2315
3	父母（配偶者の父母を含む）	669
4	子	1496
5	兄弟姉妹	269
6	祖父母（配偶者の祖父母を含む）	48
7	孫	81
その他		54



63. 【問36】昨年の年間の世帯の総収入はいくらですか。

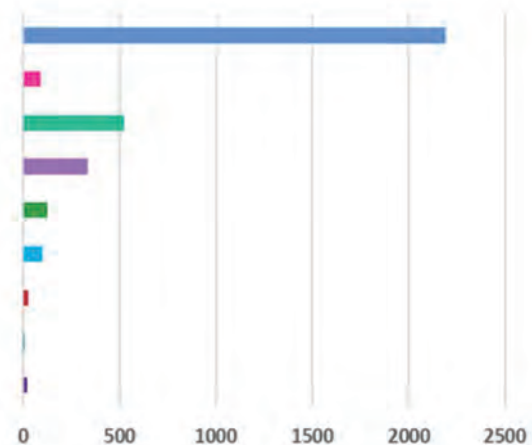
※すべての収入が対象です（就業で得た収入、年金・手当、家族からの仕送りなど）

1	200万円未満	307
2	200万円以上～400万円未満	635
3	400万円以上～600万円未満	568
4	600万円以上～800万円未満	440
5	800万円以上～1,000万円未満	360
6	1,000万円以上～1,500万円未満	371
7	1,500万円以上	157
8	わからない・答えない	536



64. 【問37】あなたのお住まいの形態は、次のどれにあたりますか。

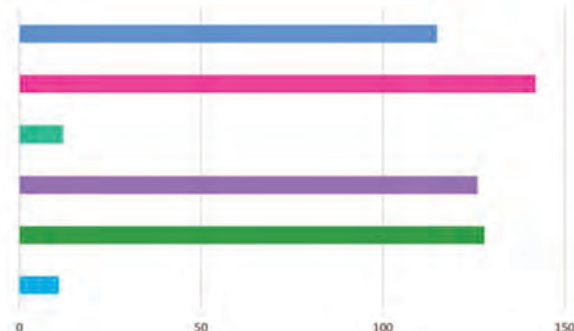
1	持ち家一戸建て	2194
2	賃貸一戸建て	90
3	分譲集合住宅（マンションなど）	524
4	民間の賃貸住宅（アパートなど）	334
5	都市機構（旧公団）・公社の賃貸住宅	126
6	公営住宅（都営・市営）	98
7	社宅・官舎・寮	25
8	間借り	8
9	その他	21



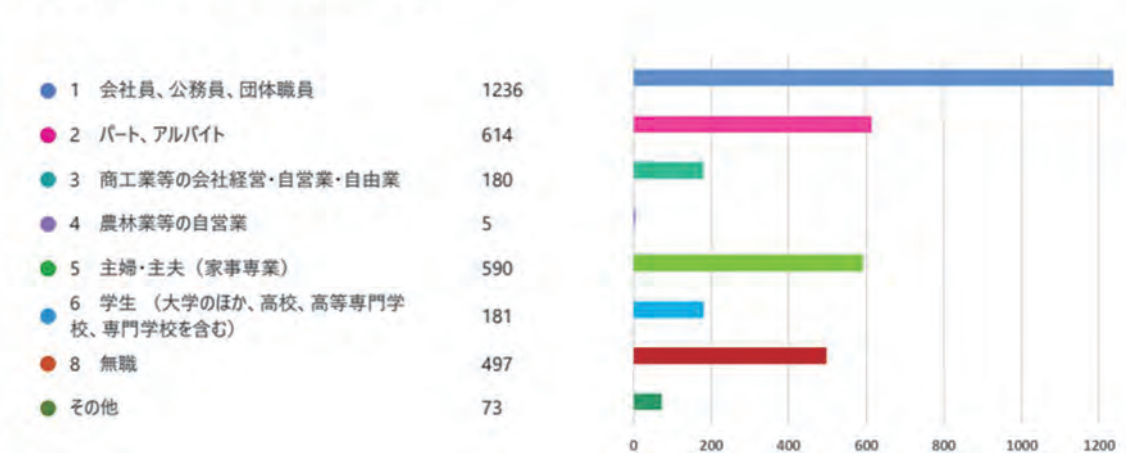
n=524

65. 【問37-1】お住いの集合住宅での住民活動の状況についておうかがいします。

1	居住環境改善、親睦ともに活動が活発に行われている	115
2	居住環境改善のための活動は活発に行われているが、親睦活動はあまり行われていない	142
3	親睦活動は活発に行われているが、その他の活動はあまり行われていない	12
4	居住環境改善、親睦ともにほとんど行われず、理事会や総会が開催されているだけ	126
5	参加していないのでわからない	128
6	その他	11

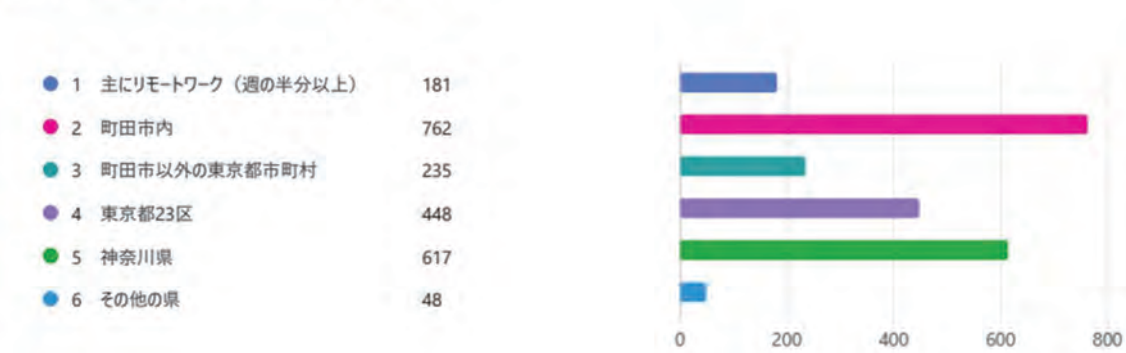


66. 【問38】あなたの職業についておうかがいします。

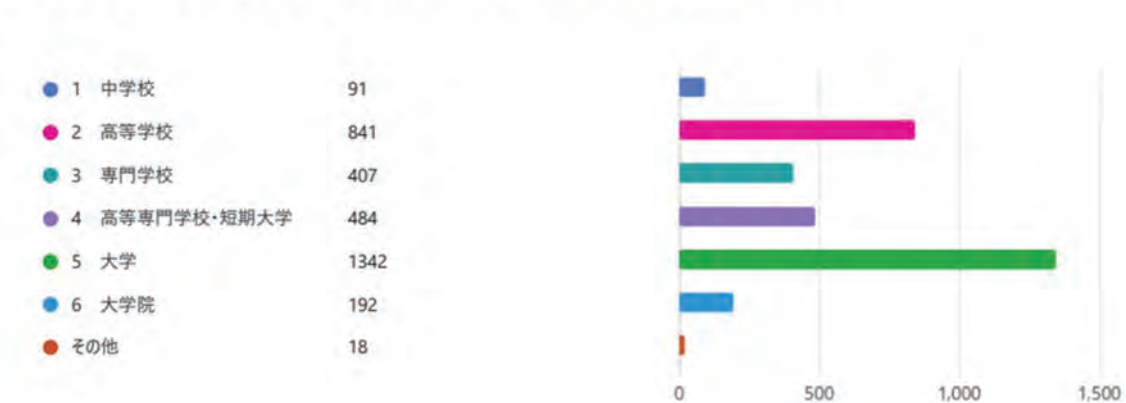


67. 【問38-1】あなたの通勤・通学先は、どちらですか。

n=2288

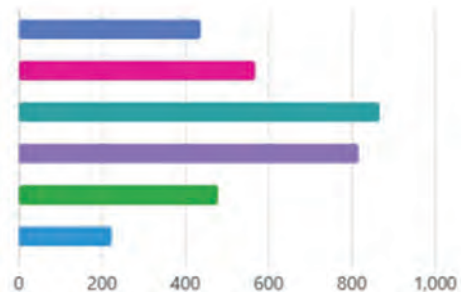


68. 【問39】あなたが最後に卒業（中退を含む）した、または現在、在学している学校はどれですか。



69.【問40】あなたは、日ごろ、家事、育児、介護、学校または仕事以外で自由に行動できる時間（睡眠時間を除く）は、1週間にどのくらいありますか。

1	ほとんどない	436
2	10時間程度まで	566
3	10～20時間程度	865
4	20～40時間程度	815
5	40～70時間程度	477
6	70時間以上	222



70.【問41】あなたは現在どの程度幸せですか。1（幸せではない）～10（幸せである）の10段階でお答えください。



III. 調査票

地域コミュニティに関する市民アンケート

ご協力をお願い

市民の皆様には、平素から市政にご理解とご協力をいただき、厚く御礼申し上げます。

近年、価値観やライフスタイルの多様化、新型コロナウイルス感染症の影響による地域活動の縮小、民生委員や消防団員等の担い手の減少などにより、地域コミュニティが希薄化しているといわれています。

町田市では持続可能な地域社会をつくり、地域ぐるみで見守り合い、助け合える場づくりを目指すため、法政大学と共同で地域コミュニティに関する研究を行っております。本アンケートの結果は、市民の皆様の地域との関わり、地域コミュニティに関する意識や活動の現状、生活実態を把握し、今後の施策を検討する貴重な資料として活用させていただきます。

本アンケートの対象として、2024年8月1日現在市内にお住まいの15歳以上80歳未満の方を住民基本台帳から無作為に10,000人抽出したところ、あなたに回答をお願いすることになりました。無記名でお答えいただいた内容は、統計的に処理するため、記入者が特定されることはありません。お考えのままをご記入ください。

お忙しいところ誠に恐縮ではございますが、本アンケートにご協力くださいますよう、お願い申し上げます。

2024年8月
町田市長 石坂 丈一

<回答方法について>

回答は「郵送」または「インターネット」のいずれかの方法で行うことができます。

郵送で回答する場合

本アンケートに回答をご記入いただき、同封いたしましたアンケート回収用封筒に入れて期限までにお近くのポストへご投函ください（切手を貼る必要はありません）。

インターネットで回答する場合

パソコンまたはスマートフォン、タブレットで、以下の（１）、（２）いずれかの方法で回答フォームにアクセスし、期限までに回答を入力、送信してください。

（１）２次元コードを読み取り回答フォームにアクセス

（２）URLを直接入力し、回答フォームにアクセス

URL : <https://forms.office.com/r/2QFhZDW3AR>



回答期限：2024年9月25日（水）まで

【 問合せ先 】

町田市市民部市民協働推進課

〒194-8520 東京都町田市森野 2-2-22

TEL : 042 (724) 4362 FAX : 050 (3085) 6517

■ 回答に際してのお願い

▶アンケートをお送りした**お名前のご本人**がお答えください。

※ご本人が長期不在等で回答できない場合は、回答いただく必要はありません。
お手数ですが、この調査票は破棄してください。

▶回答は、**おおむね最近 1 年間程度の状況**でお答えください。

▶回答のご記入は、ボールペンまたは鉛筆をお使いください。

▶回答は質問ごとに、選択肢から選んでいただく形式です（一部、自由記述があります）。

▶選んでいただく数は、「1 つだけ」、「3 つまで」、「いくつでも」等と指定されています。

指定数よりも多く選択された場合、集計上無効となってしまいます。

▶選択肢「その他」を選んだ場合は、枠内に具体的な内容をご記入ください。

▶回答に迷う場合は、あなたのお考えにできるだけ近いものをお選びください。

▶回答の記入方法は、郵送回答では選択肢の番号に○印を記入し、
インターネット回答では選択肢をクリックして（押して）ください。

▶回答を修正する場合は、郵送回答では○印を二重線で消し、
インターネット回答では、再度、選択肢を選び直してください。

▶調査についてのお問い合わせは、表紙の問合せ先までお願いいたします。

インターネット回答の画面イメージ（スマートフォンの場合）

①

forms.office.com

1. <1 お住まいの地域について>
【問1】あなたは、自分が住んでいる「地域」という場合に、どの程度の範囲をイメージしますか。*

1 隣近所の範囲

2 住宅街や団地の範囲

3 「丁目」の範囲

4 町内会・自治会の範囲

5 最寄の小学校の通学範囲

6 最寄の中学校の通学範囲

7 「町」の範囲

8 合併前の1町4村の地区範囲(町田, 南, 鶴川, 忠生, 堺)

9 町田市全体

10 わからない

更新ボタンは使用しないでください。

選択肢をクリックすると印がつきます。

②

送信

パスワードを記載しないでください。不正使用を報告する

回答が終了したら最下部の「送信」をクリックしてください。回答が送信されます。

※送信後は、修正・再回答はできません。

③

回答が送信されました。

この画面が表示されれば回答終了です。

正常に動かなくなるため、ブラウザやスマートフォンの『<』（戻る）、『>』（進む）は使用しないでください。

I お住まいの地域について

問1 あなたは、自分が住んでいる「地域」という場合に、どの程度の範囲をイメージしますか。
(○は1つ)

1 隣近所の範囲	7 「町」の範囲
2 住宅街や団地の範囲	8 合併前の1町4村の地区範囲(町田、南、鶴川、忠生、堺)
3 「丁目」の範囲	9 町田市全体
4 町内会・自治会の範囲	10 その他 ()
5 最寄の小学校の通学範囲	11 わからない
6 最寄の中学校の通学範囲	

問2 あなたは、あなたが現在 お住まいの地域 での暮らしやすさについて、どの程度満足していますか。
(1から9について、それぞれ○を1つずつ)

質 問 内 容 \ 満 足 度	かなり満足	まあ満足	どちらともいえない	やや不満	かなり不満
1) 買い物や交通の便利さ	1	2	3	4	5
2) 隣近所などのお付き合い	1	2	3	4	5
3) 町内会・自治会の活動	1	2	3	4	5
4) 地域でのボランティア活動	1	2	3	4	5
5) 地域の防犯体制	1	2	3	4	5
6) 地域の防災体制	1	2	3	4	5
7) 地域の福祉・保健の相談体制	1	2	3	4	5
8) 病院などの医療体制	1	2	3	4	5
9) 地域の景観や街並み保全	1	2	3	4	5

問3 あなたは、お住まいの地域 で安心して暮らしていくためには、特にどのようなことが重要だと思いますか。
(○は3つまで)

1 買い物や交通の便利さ	6 地域の防災体制
2 隣近所などのお付き合い	7 地域の福祉・保健の相談体制
3 町内会・自治会の活動	8 病院などの医療体制
4 地域でのボランティア活動	9 地域の景観や街並み保全
5 地域の防犯体制	10 その他 ()

問4 日常生活に関することについて、お伺いします。

- ① あなたがこれから、病気や事故で日常生活が不自由になったときや、高齢になったときに、お住まいの地域に頼みたいと思うことはありますか。
- ② あなたの お住まいの地域 で、日常生活を送るうえで高齢、障がい、子育てなどで困っている方がいた場合、頼まれたらできることはありますか。

(1から9について、①と②のそれぞれ1つに○)

質 問 内 容	①頼みたいこと		②頼まれたらできること	
	た頼 いみ	く頼 ない いた	で き る	な い き
1) 日常での安否確認の声かけ	1	2	1	2
2) ちょっとした買い物やゴミ出し	1	2	1	2
3) 食事を作ったり、掃除や洗濯の手伝い	1	2	1	2
4) 外出の手助け	1	2	1	2
5) 子どもの遊び相手	1	2	1	2
6) 話し相手や相談相手	1	2	1	2
7) 災害時避難の手助け	1	2	1	2
8) 具合が良くないときに、病院や市役所などへの連絡	1	2	1	2
9) その他 ①頼みたいこと () ②頼まれたらできること ()				

問5 あなたには、お住まいの地域 に、いざというとき助け合える人や、信頼して相談できる人がいますか。 (○は1つ)

1 5人以上いる	2 1～4人いる	3 一人もいない	4 わからない
----------	----------	----------	---------

問6 お住まいの地域 で住民同士の信頼感や助け合い意識を高めるには、どのようなきっかけがあったら効果的だと思いますか。 (○はいくつでも)

1 行事やサークル等、身近な交流や親睦の機会がある	6 あいさつや声を掛け合う
2 地域の公園などを共同で管理する	7 その他
3 防災や防犯など地域の問題の解決に、一緒に取り組む	()
4 身近なテーマについて、一緒に学べる講習会等がある	8 わからない
5 地域の高齢者や子どもの見守りやお世話を一緒に行う	

問7 お住まいの地域 に対して愛着や親しみを感じていますか。 (○は1つ)

- | | | |
|-----------|-------------|---------|
| 1 感じている | 3 あまり感じていない | 5 わからない |
| 2 やや感じている | 4 感じていない | |

問8 これからも、現在 お住まいの地域 に住み続けたいと思いますか。 (○は1つ)

- | | |
|---------------|--------------------|
| 1 ぜひ、住み続けたい | 3 町田市内の他の地域へ住み替えたい |
| 2 できれば、住み続けたい | 4 町田市外に移りたい |
| | 5 わからない |

問9 今度は特に、隣近所の方々 とのお付き合いについてお伺いします。あなたは、隣近所の方々 と、どの程度のお付き合いをしていますか。 (○はいくつでも)

- | | |
|-------------------------------|----------------|
| 1 家を行き来したり、一緒に出かけたりする人がいる | |
| 2 たがいに相談するなど、生活面で協力し合っている人がいる | |
| 3 立ち話をする人がいる | |
| 4 会ったらあいさつをする人がいる | 6 全く顔も知らない人がいる |
| 5 顔を知っているだけの人がいる | 7 その他 () |

問10 あなたは今後、隣近所の方々 と、どの程度のお付き合いをしていきたいですか。 (○は1つ)

- | | |
|--------------------------|---------------|
| 1 積極的に付き合いたい | 3 あまり付き合いたくない |
| 2 ほどほどに付き合いたい (問9の3や4程度) | 4 全く付き合いたくない |

Ⅱ お住まいの地域で取り組まなければならない課題について

問11 あなたが関心をもっている お住まいの地域 の課題は何ですか。 (○は5つまで)

- | | |
|---------------------|-----------------------------|
| 1 地域の防犯、治安の向上 | 13 スポーツ・文化活動の活性化 (運動会や文化祭等) |
| 2 防災、災害時の対応 | 14 学習の機会づくり (生活問題や制度や法律等) |
| 3 交通安全 | 15 町内会・自治会の活性化、組織化 |
| 4 高齢者・障がい者への支援 | 16 外国人との交流、相互理解 |
| 5 健康づくり | 17 地域の交通・移動支援 |
| 6 緑地保全・地域美化 | 18 空き地・空き家問題 |
| 7 地域の活性化、まちづくり | 19 身近な居場所づくり |
| 8 子育てへの支援 | 20 地域活動のIT化の推進 |
| 9 青少年の健全育成 | 21 その他 () |
| 10 地域の伝統芸能・祭りの継承や保存 | |
| 11 住民同士の親睦・交流 | |
| 12 ごみの減量、資源化 | |

↓ 問11-1にお進みください

22 特に問題や課題はないと思う 問12にお進みください
23 わからない、知らない

(問11で「1～21」とお答えの方へ、お伺いします)

問11-1 問11で○をつけた地域課題の中で、当面、最も関心のある課題は何ですか。

--	--

番

(あてはまる番号を1つ、右詰めで記入してください)

(ひきつづき、問11で「1～21」とお答えの方へお伺いします)

問11-2 問11-1で選択した課題に対して、現在、解決に向けた取り組みがどのように行われていますか。 (○は1つ)

- | |
|-----------------------------------|
| 1 住民が互いに協力し、自力で解決しようとしている |
| 2 住民がリーダーシップをとり、市の支援も得て解決しようとしている |
| 3 住民と市がお互いパートナーとして連携して解決しようとしている |
| 4 市がリーダーシップをとり、住民も協力して解決しようとしている |
| 5 市が全責任を持って解決しようとしている |
| 6 その他 () |
| 7 特になにも取り組みが行われていない |
| 8 どのような取り組みが行われているかわからない |

問12 今後、あなたの お住まいの地域 で、課題解決のために住民の合意を形成していくには、どのような組織が中心となって取り組むべきだと思いますか。 (○は1つ)

- | | |
|--------------------------|----------------------------|
| 1 町内会・自治会 | 4 特定の課題解決を目的に結成した自由参加の住民組織 |
| 2 各種の市民活動団体が集まった会議体 | 5 市などの行政機関 |
| 3 町内会・自治会や市民活動団体が集まった会議体 | 6 社会福祉協議会などの専門機関 |
| | 7 その他の組織 () |

Ⅲ 町内会・自治会や自主的活動への参加状況について

<町内会・自治会について>

問13 あなたの世帯では、町内会・自治会に加入していますか。 (○は1つ)

- | | |
|-----------|----------------------|
| 1 加入している | ----> 問13-1 にお進みください |
| 2 加入していない | ----> 問13-4 にお進みください |

(問13で「1」とお答えの方へお伺いします)

問13-1 町内会・自治会に加入している理由は何ですか。(○はいくつでも)

- | | |
|----------------------|-----------------------|
| 1 加入するのは当たり前だから | 5 近所の人々と親睦が深められるから |
| 2 親の代から加入していたから | 6 いざというとき助けてもらえるから |
| 3 近所から仲間はずれにされたくないから | 7 地域を住みよくするために役立ちたいから |
| 4 生活に必要な情報が得られるから | 8 その他 () |

(ひきつづき、問13で「1」とお答えの方へお伺いします)

問13-2 ふだんの町内会・自治会との関わり方についてお伺いします。(○は1つ)

- | |
|-----------------------------------|
| 1 組織の役員や活動のリーダー役をできるだけ引き受けて活動している |
| 2 会合や行事などの際は、できるだけ手伝うようにしている |
| 3 都合がつくときは、行事や総会などに顔を出すようにしている |
| 4 会合や活動には、ほとんど参加していない |

(ひきつづき、問13で「1」とお答えの方へお伺いします)

問13-3 あなたの世帯が加入している町内会・自治会では、現在、どのような組織の運営や活動上の課題がありますか。なお、直接あなたが経験したこと、他の人から伝え聞いたこと、いずれでも結構です。(○はいくつでも)

- | |
|---|
| 1 役員を引き受ける人が少なくなってきた |
| 2 会員が高齢化して、活動全般の運営が滞ってきた |
| 3 従来からのリーダー層と、若い世代や転入者のリーダー層との間で、運営や活動の仕方を巡って摩擦が起きてきた |
| 4 個人情報取り扱いが厳しくなり、会員の連絡網づくりや、災害時等に援助が必要なお宅の確認が難しくなってきた |
| 5 退会を申し出る会員が増加してきた |
| 6 町内会館や集会施設の維持管理について、会員の合意が得られない |
| 7 地域の事業者や住民等からの寄付が減少してきた |
| 8 新規転入世帯に加入の勧誘をしても、断られることが増えてきた |
| 9 特定の人たちが長く役職についていて自由な議論や企画提案がしにくい |
| 10 その他 () |
| 11 わからない |

問14にお進みください

(問13で「2」とお答えの方へお伺いします)

問13-4 現在 お住まいの地域 で町内会・自治会に加入していたことはありますか。

(○は1つ)

- | | |
|----------------|-----------|
| 1 一度も加入したことはない | 3 その他 () |
| 2 加入していたが、退会した | |

(ひきつづき、問13で「2」とお答えの方へお伺いします)

問13-5 町内会・自治会に加入していない理由は何ですか。

(○はいくつでも)

- | |
|---------------------------|
| 1 活動時間を取ることができないから |
| 2 近所の人と関わるのが面倒だから |
| 3 加入するきっかけがないから |
| 4 申込方法がわからないから |
| 5 会費を負担したくないから |
| 6 町内会・自治会の活動の必要性を感じていないから |
| 7 役員になると忙しくて大変だから |
| 8 今住んでいる所に長く住むつもりがないから |
| 9 町内会・自治会の活動に制約されたくないから |
| 10 町内会・自治会の雰囲気になじめないから |
| 11 町内会・自治会があることを知らなかった |
| 12 住んでいる地域に町内会・自治会がない |
| 13 その他 () |

<地区協議会について>

問14 町田市では、町内会・自治会や地域の諸団体、住民の方々などが集まって、各地区ごとに（市内で10地区）「地区協議会」というネットワーク組織を設置しています。

あなたは「地区協議会」をご存知ですか。

(○は1つ)

- | | | |
|----------------|------------|--------|
| 1 内容まで含めて知っている | 2 名前は知っている | 3 知らない |
|----------------|------------|--------|

<町内会・自治会以外の地域活動について>

問15 町内会・自治会の他に、現在、参加されている地域住民等による自主的な活動はありますか。 (○はいくつでも)

- 1 町内会・自治会と関連する活動（子ども会、老人クラブ、自主防災組織等）
- 2 地区協議会の活動
- 3 行政への協力、公的社会貢献活動（民生委員・児童委員・主任児童委員、青少年健全育成委員、スポーツ推進委員、消防団、公共施設の運営委員会、PTA等）
- 4 生活環境の改善や地域の課題を解決するための活動（リサイクル促進、コミュニティバス等の運行、子育て・高齢者・障がい者支援、伝統芸能の継承等）
- 5 趣味のサークルやグループ活動（文化、学習、健康、スポーツ等）
- 6 その他のボランティア、助け合い活動（ ）
- 7 何も参加していない

→ 問15-3にお進みください

↓ 問15-1にお進みください

(問15で「1～6」とお答えの方へお伺いします)

問15-1 活動に参加している理由は何ですか。 (○はいくつでも)

- | | |
|----------------------------|-----------------|
| 1 自分の時間を充実させるため | 5 親しい人が参加しているため |
| 2 社会の役に立ちたいため | 6 その他（ ） |
| 3 仲間や友達をつくるため | |
| 4 自分の知識や技術を役立てたり、高めたりしたいため | |

(ひきつづき、問15で「1～6」とお答えの方へお伺いします)

問15-2 活動に参加するようになった直接のきっかけは何ですか。 (○はいくつでも)

- | | |
|-----------------------|--------------------|
| 1 PTAや子ども会等子どもの活動を通して | 6 団体の開催した行事等を通して |
| 2 町内会や自治会の活動を通して | 7 友人、知人を通して |
| 3 職場を通して | 8 チラシ、ポスターなど広告物を見て |
| 4 家族を通して | 9 その他（ ） |
| 5 テレビやインターネット等を通して | 10 特にきっかけはない |

問16にお進みください

(問15で「7」とお答えの方へお伺いします)

問15-3 活動に参加していない理由は何ですか。 (○はいくつでも)

- | | |
|-------------------------|--|
| 1 活動する時間を取ることができないため | |
| 2 他の人と関わるのが面倒なため | |
| 3 身近に参加したいと思う活動や団体がないため | |
| 4 参加するきっかけがないため | |
| 5 活動に参加する必要性を感じていないため | |
| 6 参加することに興味や関心がないため | |
| 7 その他（ ） | |

<町内会・自治会およびその他の地域活動について>

問16～18は、問13で町内会・自治会に「1 加入している」、または問15で「1～6」と回答された方にお伺いします。どの活動にも参加していない方は、問19に進んでください。

問16 あなたが、お住まいの地域 で参加している活動のグループ・団体の数はいくつですか。 (○は1つ)

1 1つ	2 2つ	3 3つ	4 4つ以上
------	------	------	--------

問17 あなたは、お住まいの地域 で、活動に参加する時間が1週間にどのくらいありますか。 (○は1つ)

1 1時間未満	3 3～5時間程度	5 11～20時間程度
2 1～2時間程度	4 6～10時間程度	6 20時間以上

問18 あなたが お住まいの地域 で現在取り組んでいる主な活動テーマは何ですか。

(○はいくつでも)

1 地域の防犯、治安の向上	13 スポーツ・文化活動の活性化（運動会やスポーツ・レクリエーション文化祭等）
2 防災、災害時の対応	14 学習の機会づくり（生活問題や制度や法律等）
3 交通安全	15 町内会・自治会の活性化、組織化
4 高齢者や障がい者への支援	16 外国人との交流、相互理解
5 健康づくり	17 地域の交通・移動支援
6 緑地保全・地域美化	18 空き地・空き家問題
7 地域の活性化、まちづくり	19 身近な居場所づくり
8 子育てへの支援	20 地域活動のIT化の推進
9 青少年の健全育成	21 その他（ ）
10 地域の伝統芸能・祭りの継承や保存	22 特にテーマはない
11 住民同士の親睦・交流	
12 ごみの減量・資源化	

問19 あなたは、お住まいの地域で公益的な活動（町内会・自治会の役員や街の清掃など）に参加する場合、報酬については一般論としてどうあるべきだと思いますか。

(○は1つ)

1 活動した分に応じて報酬が支払われるべきだ	4 無報酬であるべきだ
2 活動に使った実費・経費は支払われるべきだ	5 その他（ ）
3 多少の謝金があるべきだ	6 わからない

< お住まいの地域以外 の活動について >

問20 あなたは、お住まいの地域以外 で、何かサークルやボランティア等の自主的な活動に参加していますか。 (○は1つ)

- | | |
|-----------------|---------------------|
| 1 運動・スポーツに関する活動 | 7 自然や環境を守るための活動 |
| 2 文化芸術に関する活動 | 8 居場所づくりの活動 |
| 3 子どもを対象にした活動 | 9 SNS等オンライン上のコミュニティ |
| 4 高齢者を対象にした活動 | 10 その他 () |
| 5 防犯・交通安全に関する活動 | 11 参加していない |
| 6 地域防災に関する活動 | |

Ⅳ 活動のための場所について

問21 自主的な活動に利用できる次の施設についてお伺いします。

- ① 具体的に名前や場所を知っていますか。
- ② 町内会・自治会や地域の自主活動等で利用したことがありますか。
- ③ 今後、もっと活用したいですか。

(1から7について、①～③のそれぞれ1つに○)

施設 質問内容	①名前や場所を		②利用したことが		③もっと活用	
	知っている	知らない	ある	ない	したい	わからない
1) 市民センター・コミュニティセンター	1	2	1	2	1	2
2) 子どもセンター・青少年施設	1	2	1	2	1	2
3) 集会所・町内会館	1	2	1	2	1	2
4) 小中学校の学校開放	1	2	1	2	1	2
5) 公園・広場	1	2	1	2	1	2
6) 公営のスポーツ施設	1	2	1	2	1	2
7) 民間の事業所が地域に提供している集会所やコミュニティカフェ (カフェ形式の居場所のこと)	1	2	1	2	1	2

問22 お住まいの地域の中で、自主的な活動のために利用したい場所はありますか。

(○はいくつでも)

- | | |
|-----------------------------|---------------------------------|
| 1 自宅や仲間の家など個人の家屋 | 7 神社・仏閣、教会などの施設 |
| 2 近隣の商店や飲食店 | 8 空き家、空き店舗 |
| 3 民間企業の施設（会議室、研修室、スポーツ施設など） | 9 民間の事業所が地域に提供している集会所やコミュニティカフェ |
| 4 銭湯、健康ランド | 10 道路や施設のための遊休地 |
| 5 大学、高校、専門学校などの教育施設 | 11 その他（ ） |
| 6 農地や雑木林 | 12 特にない |

V 町内会・自治会や自主的活動への今後の参加意向について

問23 あなたは、今後4～5年を見通して、お住まいの地域でどのような種類の地域活動に参加したいと思いますか。ただし、「現在参加しており今後も活動を継続するもの」も含めてお答えください。

(○はいくつでも)

- 1 町内会・自治会の活動
 - 2 町内会・自治会と関連する活動（子ども会、老人クラブ、自主防災組織等）
 - 3 地区協議会の活動
 - 4 行政への協力、公的社会貢献活動（民生委員・児童委員・主任児童委員、青少年健全育成委員、スポーツ推進委員、消防団、公共施設の運営委員会、PTA等）
 - 5 生活環境の改善や地域の課題を解決するための活動（リサイクル促進、コミュニティバス等の運行、子育て・高齢者・障がい者支援、伝統芸能の継承等）
 - 6 趣味のサークルやグループ活動（文化、学習、健康、スポーツ等）
 - 7 その他のボランティア、助け合い活動（ ）
 - 8 どれにも参加したくない
- > 問24にお進みください

問23-1にお進みください

(問23で「1～7」とお答えの方へお伺いします)

問23-1 今後、参加する活動で特に取り組みたいと思うテーマは何ですか。なお、「現在参加しており、取り組んでいるテーマを継続する」場合も含めてお答えください。

(○はいくつでも)

1 地域の防犯、治安の向上	13 スポーツ・文化活動の活性化（運動会や
2 防災、災害時の対応	スポーツ・レクリエーション文化祭等）
3 交通安全	14 学習の機会づくり（生活問題や制度や法律等）
4 高齢者や障がい者への支援	15 町内会・自治会の活性化、組織化
5 健康づくり	16 外国人との交流、相互理解
6 緑地保全・地域美化	17 地域の交通・移動支援
7 地域の活性化、まちづくり	18 空き地・空き家問題
8 子育てへの支援	19 身近な居場所づくり
9 青少年の健全育成	20 地域活動のIT化の推進
10 地域の伝統芸能・祭りの継承や保存	21 その他（ ）
11 住民同士の親睦・交流	22 取り組んでみたいテーマはない
12 ごみの減量・資源化	

問24 お住まいの地域の活動が、もっと参加しやすいものとなるためには、どのようなことが必要だと思いますか。(○はいくつでも)

- 1 活動に関する情報をもっとPRする
- 2 活動の内容がマンネリ化しないよう魅力的なものにする
- 3 参加しやすい曜日や時間を設定する
- 4 活動内容や役割を選べるようにする
- 5 役員やリーダーを任期制にするなど、特定の人にとずっと負担がかからないようにする
- 6 成果や貢献が具体的に見えたり、実感できるように工夫する
- 7 しがらみがあって参加したらやめられないなど、閉鎖的な雰囲気をなくす
- 8 会員にならなくても、活動メンバーとして参加できるようにする
- 9 特定のイベントのみの参加、インターネット上での参加など、多様な参加方法を用意する
- 10 地域内の様々な住民組織、活動団体が連携して、一緒に取り組める活動をする
- 11 参加した人が、なんらかのメリットを得られるようにする
- 12 参加者の意見を尊重し、民主的な運営をする
- 13 その他（ ）
- 14 わからない

問25 仮にあなたが お住まいの地域 の活動に参加するとしたら、どのような曜日、時間帯が参加しやすいですか。 (○はいくつでも)

- | | |
|------------|---------------|
| 1 平日の午前 | 4 週末や祝日の午前 |
| 2 平日の午後の昼間 | 5 週末や祝日の午後の昼間 |
| 3 平日の夜間 | 6 週末や祝日の夜間 |
| | 7 その他 () |

VI あなたの生活と相談機関について

問26 同居されている方に、次のような方はいますか。 (あてはまるものすべてに○)

- | | | |
|-------------------|----------------------|--------------------|
| 1 妊産婦 | 7 日常生活を送る上で介助を必要とする方 | ---▶ 問27にお進みください |
| 2 小学校入学前の乳幼児 | 8 心身に障がいのある方 | |
| 3 小学生・中学生・高校生など | 9 該当する人はいない | |
| 4 65～74歳の方 | | |
| 5 75歳以上の方 | | |
| 6 「ひきこもり*」の状態にある方 | | ---▶ 問26-1にお進みください |

* 【ひきこもり】 仕事や学校に行かず、かつ家族以外の人と交流をほとんどせずに、6か月以上自宅に引きこもっている状態にある方

(問26で「6」とお答えの方へお伺いします)

問26-1 「ひきこもり」の状態にある方の年齢は次のどれですか。 (○は1つ)

- | | | |
|-----------------|--------|---------|
| 1 小学生・中学生 | 4 30歳代 | 7 60歳代 |
| 2 10歳代 (中学校卒業後) | 5 40歳代 | 8 70歳以上 |
| 3 20歳代 | 6 50歳代 | 9 わからない |

(ひきつづき問26で「6」とお答えの方へお伺いします)

問26-2 ご家族がひきこもりの状態にある方にどのような支援を望むか、最もあてはまるものを選択してください。 (○は1つ)

- | |
|------------------------------------|
| 1 家族や本人の悩み相談を聞いてほしい |
| 2 本人に合いそうな就労先、就労訓練機関を紹介してほしい |
| 3 本人に合いそうな居場所・コミュニティ・サークル等を紹介してほしい |
| 4 本人に合いそうな医療機関やカウンセリング機関を紹介してほしい |
| 5 そっとしておいてほしい |

問27 あなたが、毎日のくらしのなかで、困っていることはありますか。

1) から 6) についてそれぞれお答えください。

(○はいくつでも)

項 目	具体的な選択肢
1) 健康のこと	1 一人で通院するのが難しいが、付き添ってくれる人がいない 2 健康について気になることがあるが、相談先がわからない 3 病気で、働くことができない 4 身近に専門的な治療を行う病院がない 5 薬の管理が苦手で、自分で薬の管理ができない 6 通院・治療費用が大きな負担になっている 7 その他 () 8 上記の困りごとについて家族が困っている 9 特にない
2) 子育てのこと	1 子育てで、十分に休養・睡眠がとれない 2 子育てで、自由に外出できない 3 子育てで、余暇や趣味の時間を持てない 4 子育てで、働くことができない 5 子育ての相談をできる人がいない 6 子育てを手助けしてくれる人がいない 7 養育・進学費用が大きな負担になっている 8 子どもがひきこもり・不登校である 9 その他 () 10 上記の困りごとについて家族が困っている 11 特にない
3) 介護のこと	1 介護で、十分に休養・睡眠がとれない 2 介護で、自由に外出できない 3 介護で、余暇や趣味の時間を持てない 4 介護で、働くことができない 5 介護の相談をできる人がいない 6 介護を手助けしてくれる人がいない 7 介護費用が大きな負担になっている 8 その他 () 9 上記の困りごとについて家族が困っている 10 特にない

設問は次のページに続きます

4) 経済的なこと	1 仕事をしているが、収入が十分でない 2 求職中のため収入がない 3 仕事をしていないため、収入がない 4 仕事をしていない親族の生活費を負担している 5 家計管理が苦手であり、生活に支障が出ている 6 その他 () 7 上記の困りごとについて家族が困っている 8 特にない
5) 住まいのこと	1 家賃が高く、大きな負担になっている 2 住まいを借りたいが、保証人になってくれる人がいない 3 住まいを借りたいが、自身の年齢や障がいなどで借りられない 4 住まいが老朽化しているが、住み替え・改築ができない 5 段差などに不安があるが、住まいがバリアフリーになっていない 6 その他 () 7 上記の困りごとについて家族が困っている 8 特にない ()
6) その他	(例) 人間関係、ヤングケア、近隣トラブル、学習環境など)

問28 あなたは、悩みごとや困りごとを相談できる相手（機関も含む）はいますか。

(○はいくつでも)

1 身近にいる（徒歩30分未満） 2 遠くにいる（徒歩30分以上） 3 いない	---> 問28-1 にお進みください ---> 問29 にお進みください
---	--

(問28で「1、2」とお答えの方へお伺いします)

問28-1 あなたの相談できる相手は、誰ですか。

(○はいくつでも)

1 家族・親戚	9 民生委員・児童委員・主任児童委員
2 友人・知人	10 ボランティア団体・NPO
3 近所の人	11 高齢者支援センター
4 市役所	12 障がい者支援センター
5 病院など医療機関	13 子ども家庭センター
6 社会福祉協議会	14 保育園・幼稚園・認定こども園・学校
7 福祉施設・福祉サービス提供事業所	15 弁護士、司法書士等の法律サービス
8 町内会・自治会	16 その他 ()

問29 あなたは、次の福祉に関わる相談窓口・機関などを知っていますか。

(1から10について、①～③のそれぞれ1つに○)

質問内容 相談窓口・機関	①名前を		②利用したことが		③利用	
	知っている	知らない	ある	ない	したい	わからない
1) 民生委員・児童委員・主任児童委員 地域に暮らす身近な相談相手として、社会福祉に関する相談に応じています。	1	2	1	2	1	2
2) 高齢者支援センター 高齢者のための総合相談窓口です。	1	2	1	2	1	2
3) 障がい者支援センター 障がいに関するさまざまな相談ができます。	1	2	1	2	1	2
4) 子ども家庭センター 18歳未満の子どもとその家庭の問題に関する総合相談窓口です。	1	2	1	2	1	2
5) 子ども発達センター 18未満の子どもの発達について、相談ができます。	1	2	1	2	1	2
6) 地域子育て相談センター 主に就学前児童とその保護者に子育て相談、子育てひろばなどを行っています。	1	2	1	2	1	2
7) 社会福祉協議会 地域住民主体で地域の問題を話し合い、協力し合って自主的に福祉を高めていくことを目的とした民間の福祉団体です。	1	2	1	2	1	2
8) 町田ボランティアセンター 町田市内のボランティアの総合窓口で、相談、コーディネートを行っています。	1	2	1	2	1	2
9) 生活・就労相談窓口 経済的な自立や就労を支援するための相談支援窓口です。	1	2	1	2	1	2
10) まちだ福祉〇ごとサポートセンター 身近な地域で福祉の困りごと相談をお受けし、適切な支援機関におつなぎします。	1	2	1	2	1	2

Ⅶ あなた自身のことについて

問30 あなた（あて名のご本人）の性別を教えてください。

（○は1つ）

1 男性	2 女性	3 その他または答えない
------	------	--------------

問31 あなたの2024年10月1日現在の年齢を教えてください。

	歳
-------------	---

問32 あなたのお住まいの郵便番号を教えてください。（※郵便番号は封筒の宛名に記載しています）

			—				
--	--	--	---	--	--	--	--

問33 あなたは現在 お住まいの地域 にどのくらい住んでいますか。（○は1つ）

- | | | |
|------------|--------------|--------------|
| 1 1年未満 | 3 5年以上10年未満 | 5 20年以上30年未満 |
| 2 1年以上5年未満 | 4 10年以上20年未満 | 6 30年以上 |

問34 あなたに配偶者（パートナーを含む）はいますか。（○は1つ）

- | | | | |
|------|----------------|------|------|
| 1 未婚 | 2 配偶者（パートナー）あり | 3 死別 | 4 離別 |
|------|----------------|------|------|

問35 現在あなたと一緒にお住まいの方に○をつけてください。

（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|-----------------|-------------------|
| 1 一人で住んでいる | 5 兄弟姉妹 |
| 2 配偶者 | 6 祖父母（配偶者の祖父母を含む） |
| 3 父母（配偶者の父母を含む） | 7 孫 |
| 4 子 | 8 その他（ ） |

問36 昨年の年間の世帯の総収入はいくらですか。（○は1つ）

※すべての収入が対象です（就業で得た収入、年金・手当、家族からの仕送りなど）

- | | |
|-------------------|-----------------------|
| 1 200万円未満 | 5 800万円以上～1,000万円未満 |
| 2 200万円以上～400万円未満 | 6 1,000万円以上～1,500万円未満 |
| 3 400万円以上～600万円未満 | 7 1,500万円以上 |
| 4 600万円以上～800万円未満 | 8 わからない・答えない |

問37 あなたのお住まいの形態は、次のどれにあたりますか。（○は1つ）

- | | |
|-------------------|---------------------|
| 1 持ち家一戸建て | 4 民間の賃貸住宅（アパートなど） |
| 2 賃貸一戸建て | 5 都市機構（旧公団）・公社の賃貸住宅 |
| 3 分譲集合住宅（マンションなど） | 6 公営住宅（都営・市営） |
| | 7 社宅・官舎・寮 |
| | 8 間借り |
| | 9 その他（ ） |

↓ 問37-1 にお進みください

---> 問38にお進みください

(問37で「3」とお答えの方へお伺いします)

問37-1 お住いの集合住宅での住民活動の状況についてお伺いします。(○は1つ)

- | |
|---|
| 1 居住環境改善、親睦ともに活動が活発に行われている |
| 2 居住環境改善のための活動は活発に行われているが、親睦活動はあまり行われていない |
| 3 親睦活動は活発に行われているが、その他の活動はあまり行われていない |
| 4 居住環境改善、親睦ともにほとんど行われず、理事会や総会が開催されているだけ |
| 5 参加していないのでわからない |
| 6 その他 () |

問38 あなたの職業についてお伺いします。(○は1つ)

- | | |
|---------------------|--------------------------------|
| 1 会社員、公務員、団体職員 | 6 学生 (大学のほか、高校、高等専門学校、専門学校を含む) |
| 2 パート、アルバイト | |
| 3 商工業等の会社経営・自営業・自由業 | 7 その他 () |
| 4 農林業等の自営業 | |
| 5 主婦・主夫 (家事専業) | 8 無職 |

----▶ 問39にお進みください

▼ 問38-1 にお進みください

(問38で「1～4、6、7」とお答えの方へお伺いします)

問38-1 あなたの通勤・通学先は、どちらですか。(○は1つ)

- | | |
|----------------------|----------|
| 1 主にリモートワーク (週の半分以上) | 4 東京都23区 |
| 2 町田市内 | 5 神奈川県 |
| 3 町田市以外の東京都市町村 | 6 その他の県 |

問39 あなたが最後に卒業 (中退を含む) した、または現在、在学している学校はどれですか。

(○は1つ)

- | | | |
|--------|---------------|-----------|
| 1 中学校 | 4 高等専門学校・短期大学 | 7 その他 () |
| 2 高等学校 | 5 大学 | |
| 3 専門学校 | 6 大学院 | |

問40 あなたは、日ごろ、家事、育児、介護、学校または仕事以外で自由に行動できる時間 (睡眠時間を除く) は、1週間にどのくらいありますか。(○は1つ)

- | | | |
|------------|-------------|-------------|
| 1 ほとんどない | 3 10～20時間程度 | 5 40～70時間程度 |
| 2 10時間程度まで | 4 20～40時間程度 | 6 70時間以上 |

問41 あなたは現在どの程度幸せですか。1（幸せではない）～10（幸せである）の10段階で
お答えください。（○は1つ）

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
---	---	---	---	---	---	---	---	---	----

最後に、地域コミュニティについて、ご意見がありましたら自由にお書きください。

※ご記入いただいた内容に対しての個別の回答は控えさせていただきますので、予めご了承ください。

以上でアンケートは終了です。ご協力誠にありがとうございました。

ご記入いただきました調査票は、同封の返信用封筒に入れて

2024年9月25日（水）までにご投函ください。

調査結果をグラフや表でまとめた報告書は、2025年3月頃に「町田市ホームページ」で公開する
予定です。



町田市

町田市ホームページ

<https://www.city.machida.tokyo.jp/>

町田市・法政大学共同研究
「町田市における地域コミュニティの未来に関する共同研究」
2024年度 中間報告書

2025年（令和7年）3月発行

- 【発行】町田市
〒194-8520 町田市森野2-2-22
電話 042-722-3111（代表）
- 【編集】市民部市民協働推進課
地域福祉部福祉総務課
防災安全部防災課
- 【共同研究】法政大学
（研究代表 法政大学 法学部政治学科 名和田 是彦 教授）
- 【刊行物番号】24-83